

平成 2 8 年度佐賀県小・中学校学習状況調査[1 2 月調査]
結果報告

平成 2 9 年 2 月 9 日(木)

佐賀県教育委員会

－ 目 次 －

I	調査の実施概要	1
II	教科に関する調査結果の概要	4
III	教科ごとの調査結果とその分析	
	◎国語	
	(1) 結果の概要	8
	(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	10
	(3) 各学年の設問ごとの正答率	12
	(4) 地域別の状況	22
	◎社会	
	(1) 結果の概要	24
	(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	26
	(3) 各学年の設問ごとの正答率	28
	(4) 地域別の状況	38
	◎算数・数学	
	(1) 結果の概要	40
	(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	42
	(3) 各学年の設問ごとの正答率	44
	(4) 地域別の状況	54
	◎理科	
	(1) 結果の概要	56
	(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	58
	(3) 各学年の設問ごとの正答率	60
	(4) 地域別の状況	70
	◎英語	
	(1) 結果の概要	72
	(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	74
	(3) 各学年の設問ごとの正答率	75
	(4) 地域別の状況	79

I 調査の実施概要

1 調査の目的

学習指導要領に示されている目標や内容の定着状況、学習に対する意識・態度や生活習慣及び教師の指導に関する意識を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

各学校は、児童生徒一人一人の調査結果を踏まえた指導改善を行うとともに、教育委員会は、課題解決に向けた施策の見直しや充実を図る。

なお、調査に当たっては、市町教育委員会と県教育委員会が連携・協力し、実施する。

学力は、知識や技能に加えて、自ら学び、判断・行動し、問題解決する資質や能力等までを含めたものです。今回の調査結果は、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を示すものです。

2 調査実施日

小・中学校とも平成 28 年 12 月 6 日(火)、7 日(水)

3 調査内容

- 各教科の目標や内容の実現状況に関する「教科に関する調査」
 - ・ 小 4、小 5、小 6 国語、社会、算数、理科
 - ・ 中 1、中 2 国語、社会、数学、理科、英語

4 調査方法

- 教科に関する調査
 - ・ 小学校 各教科 45 分 各学校で時間を設定して実施
 - ・ 中学校 各教科 50 分 各学校で時間を設定して実施

5 調査の成果指標

○ 教科に関する調査

学習指導要領の目標や内容の実現状況を到達基準〔注1〕として、「おおむね達成」と「十分達成」の2つの基準値を設定し、全学年・全教科において「十分達成」を超えることを目指している。

6 調査対象及び調査人数

	学校数	学年	人数
小学校	168	第4学年	7,604
		第5学年	7,382
		第6学年	7,612
中学校	94	第1学年(県立中学校を含む)	7,273
		第2学年(県立中学校を含む)	7,432
		計	37,303

公立小学校数は、県立特別支援学校小学部（5校）を含みます。公立中学校数は、県立中学校（4校）及び県立特別支援学校中学部（3校）を含みます。

〔注1〕到達基準について

佐賀県では、平成19年度調査から、学習指導要領の目標や内容に照らして、児童生徒に求められる正答率の目標値を「到達基準」として設定している。これにより、同じ指標による経年比較も可能となる。

「到達基準」は、修正エーベル法〔注2〕の考え方に沿って、小問ごとに設定した「期待正答率」を集約したものである。「期待正答率」とは、受検した児童生徒のうち 正答することが期待される者の人数の割合であり、問題の特性や難易度に応じて判断し、小問ごとに以下のような「十分達成」「おおむね達成」という2つの基準値を設定している。

○「十分達成」の到達基準…学習内容の習得が十分であると判断される基準（目標到達基準）

○「おおむね達成」の到達基準…最低限これを上回ることが必要であると判断される基準（最低到達基準）

このように、事前に設定した「到達基準」と調査結果を比較することにより、到達度を測ることができる。

また、各学校においては、この到達基準を基に、自校の調査結果を分析し、自校の取組を検証するとともに、課題に応じた重点目標を設定し、解決に向けた指導の工夫・改善に取り組む。

〔注 2〕 修正エーベル法について

- 1972 年にエーベルが提唱したエーベル法に橋本重治が修正を加えて考案した到達基準の設定方法で、個々の小問の判断に基づくエーベル法をより簡略化して利用できるようにしたもの。
- 各小問を、関連性と困難度のマトリックスにおいて分類する。
- 関連性は、「基礎的・基本的」（後の学習への関連性が高く、その学年でぜひとも身に付けさせたい目標を測る問題）と「発展的・応用的」（比較的高度で、後の学習への関連性がそれほど高くないが、その学年で身に付けることが望ましい目標を測る問題）の 2 区分である。
- 困難度は次の分類表のとおり、「平易」「普通」「困難」の 3 区分。ただし、「基礎的・基本的」に分類される「困難」な問題は妥当ではないので、分類から除外する。全ての小問が、(A)(B)(C)(D)(E)のいずれかに割り振られる。

■ 修正エーベル法における問題の分類表

	平 易	普 通	困 難
基礎的・基本的	(A)	(B)	
発展的・応用的	(C)	(D)	(E)

- 本調査では、過去の調査結果の傾向を踏まえて、次の表のように小・中学校別に期待正答率を設定している。

■ 小・中学校別期待正答率

（注）上段の数値は「十分達成」、下段の数値は「おおむね達成」の場合を示している。

		平 易		普 通		困 難	
小 学 校	基礎的・基本的	(A)	0.85(85%)	(B)	0.80(80%)		
			0.65(65%)		0.60(60%)		
	発展的・応用的	(C)	0.75(75%)	(D)	0.70(70%)	(E)	0.65(65%)
			0.55(55%)		0.50(50%)		0.45(45%)
中 学 校	基礎的・基本的	(A)	0.75(75%)	(B)	0.70(70%)		
			0.55(55%)		0.50(50%)		
	発展的・応用的	(C)	0.65(65%)	(D)	0.60(60%)	(E)	0.55(55%)
			0.45(45%)		0.40(40%)		0.35(35%)

Ⅱ 教科に関する調査結果の概要

(1) 平成 28 年度[12 月調査]の結果

- 平成 28 年度[12 月調査]の到達状況を見ると、県で設定した到達基準(P2〔注 1〕参照)に対して「おおむね達成」の到達基準を上回ったものは、22 教科中 20 教科(小学校 12 教科中 10 教科、中学校 10 教科中 10 教科)であり、本県児童生徒の学習内容の習得状況は、おおむね良好であった。
- 中学 1 年生と中学 2 年生の英語が、「十分達成」の基準を上回っており、学習内容が十分習得されていた。
- 小学 4 年生の国語と小学 6 年生の社会が、「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られた。

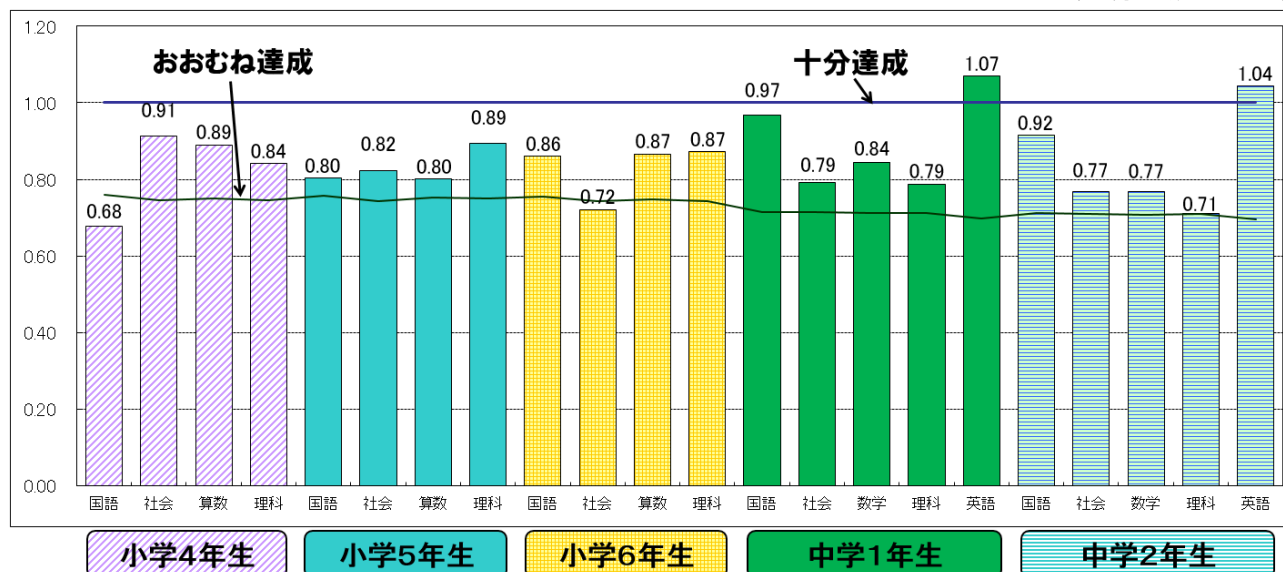
〔表 1〕各学年・教科の到達状況

教科	平成 28 年度[12 月調査]の到達状況				平成 27 年度[12 月調査]の到達状況			
	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に 対する割合 (a/b)	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に 対する割合 (a/b)
		十分達成(b)	おおむね達成			十分達成(b)	おおむね達成	
小4国語	56.2	83.0	63.0	0.68	74.7	81.9	61.9	0.91
小4社会	72.0	78.8	58.8	0.91	76.2	78.4	58.4	0.97
小4算数	71.2	80.0	60.0	0.89	66.8	80.8	60.8	0.83
小4理科	66.2	78.7	58.7	0.84	71.2	80.3	60.3	0.89
小5国語	66.0	82.2	62.2	0.80	64.9	81.9	61.9	0.79
小5社会	63.9	77.7	57.7	0.82	59.2	78.4	58.4	0.76
小5算数	64.6	80.6	60.6	0.80	66.3	80.4	60.4	0.82
小5理科	71.3	79.8	59.8	0.89	60.3	79.5	59.5	0.76
小6国語	70.2	81.6	61.6	0.86	71.3	81.0	61.0	0.88
小6社会	56.0	77.7	57.7	0.72	66.3	79.4	59.4	0.84
小6算数	68.9	79.6	59.6	0.87	70.3	79.3	59.3	0.89
小6理科	68.0	78.0	58.0	0.87	65.1	79.7	59.7	0.82
中1国語	68.0	70.3	50.3	0.97	67.5	70.2	50.2	0.96
中1社会	55.5	70.0	50.0	0.79	60.2	70.3	50.3	0.86
中1数学	58.5	69.3	49.3	0.84	62.9	70.6	50.6	0.89
中1理科	54.4	69.2	49.2	0.79	56.0	68.8	48.8	0.81
中1英語	71.0	66.4	46.4	※1 1.07	73.1	67.2	47.2	※1 1.09
中2国語	63.6	69.4	49.4	0.92	63.6	69.8	49.8	0.91
中2社会	52.9	68.8	48.8	0.77	53.4	68.8	48.8	0.78
中2数学	52.4	68.3	48.3	0.77	54.7	70.3	50.3	0.78
中2理科	48.9	68.8	48.8	0.71	55.9	68.6	48.6	0.81
中2英語	68.5	65.7	45.7	※1 1.04	66.2	65.4	45.4	※1 1.01

※ 1 網掛けについては「十分達成」に対する割合が 1.00 を上回っている教科を示している。

〔グラフ 1〕 平成 28 年〔12 月調査〕各学年・教科正答率の「十分達成」に対する割合

(十分達成=1.00)



(2) 平成 28 年度〔4 月調査〕との比較

- 「十分達成」に対する割合が、平成 28 年度〔4 月調査〕の割合を上回ったものは、8 教科中 3 教科であった。

〔表 2〕 国語、算数・数学における各学年・教科の到達状況 (平成 28 年度〔4 月調査〕との比較)

教科	平成 28 年度〔12 月調査〕の到達状況				平成 28 年度〔4 月調査〕の到達状況			
	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」 に対する割合 (a/b)	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に 対する割合 (a/b)
		十分達成(b)	おおむね達成			十分達成(b)	おおむね達成	
小5国語	66.0	82.2	62.2	0.80	66.1	82.0	62.0	0.81
小5算数	64.6	80.6	60.6	0.80	67.1	81.4	61.4	0.82
小6国語	70.2	81.6	61.6	※ ² ↑ 0.86	※ ³ 64.2	※ ⁴ 78.4	※ ⁴ 58.4	0.82
小6算数	68.9	79.6	59.6	※ ² ↑ 0.87	※ ³ 64.7	※ ⁴ 78.1	※ ⁴ 58.1	0.83
中1国語	68.0	70.3	50.3	※ ² ↑ 0.97	68.7	81.6	61.6	0.84
中1数学	58.5	69.3	49.3	0.84	72.9	80.5	60.5	0.91
中2国語	63.6	69.4	49.4	0.92	66.3	70.5	50.5	0.94
中2数学	52.4	68.3	48.3	0.77	55.0	69.8	49.8	0.79

平成 28 年度〔4 月調査〕においては、該当学年の前学年までの内容(中学 1 年は、小学 6 年までの内容)を、また、平成 28 年度〔12 月調査〕においては、各教科が定める出題範囲までの内容を調査対象としている。

※² 〔表 2〕にある「↑」は、「十分達成」に対する割合が、平成 28 年度〔4 月調査〕と比較して上回っている教科を示している。

※³ 平成 28 年度〔4 月調査〕の小 6 国語、小 6 算数については、全国調査問題を県独自の基準で採点し、A 問題と B 問題とを合わせたときの正答率を示している。

※⁴ 平成 28 年度〔4 月調査〕の小 6 国語、小 6 算数については、全国調査問題を利用しているが、参考のために、県独自に到達基準を設定している。

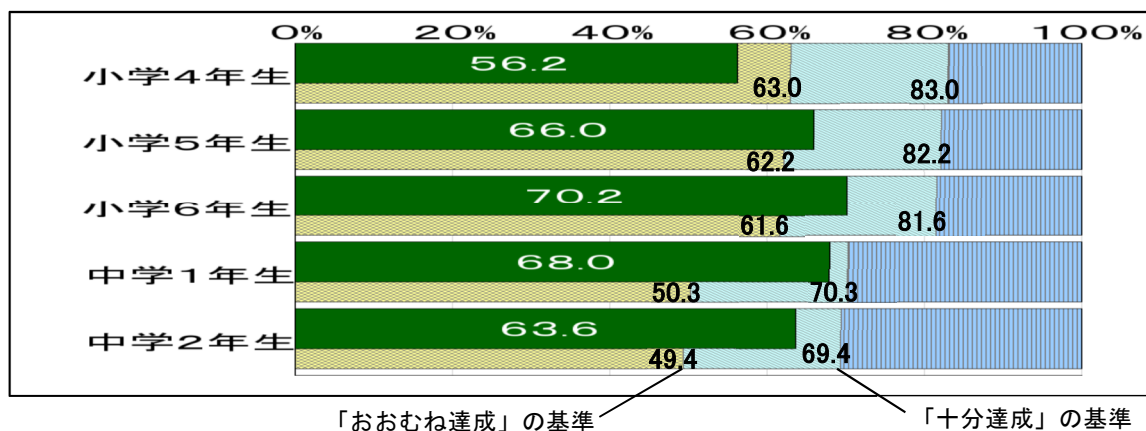
Ⅲ 教科ごとの調査結果とその分析

国 語

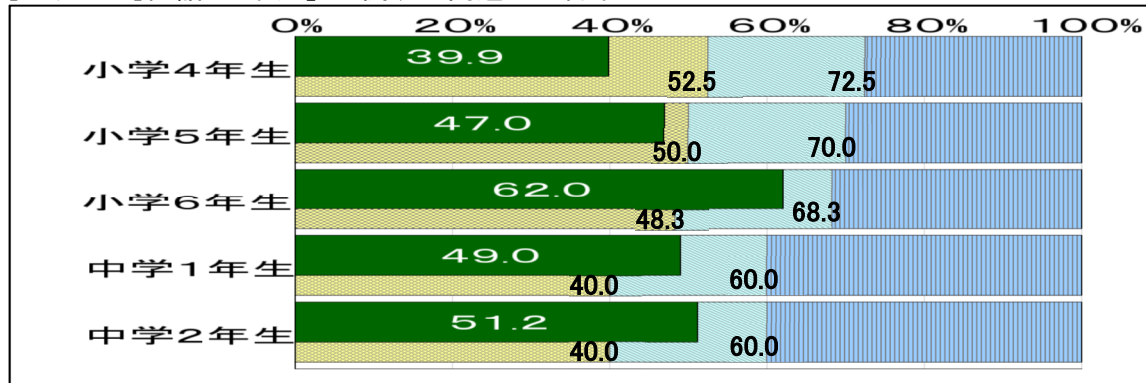
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、小学5年生と小学6年生、中学校の全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ1]
- 「活用」に関する問題については、小学4年生と小学5年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ2]
- 観点別に見ると、中学1年生は、全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。「話す・聞く能力」については、小学5年生と小学6年生で「おおむね達成」の基準を上回り、中学1年生と中学2年生で「十分達成」の基準を上回っている。また、「話す・聞く能力」については、小学4年生、「書く能力」については、小学4年生と小学6年生、「読む能力」については、小学4年生と小学5年生、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。「知識・理解・技能」については小学4年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ3～6]
- 内容・領域別に見ると、「漢字の読み」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っており、特に、小学5年生と小学6年生、中学1年生と中学2年生で「十分達成」の基準を上回っている。「漢字の書き」については、小学5年生、「語句に関する知識」については、小学4年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ7～11]

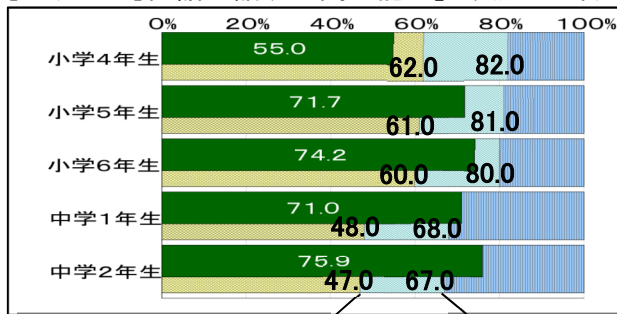
[グラフ1]国語 教科正答率



[グラフ2]国語 「活用」に関する問題の正答率



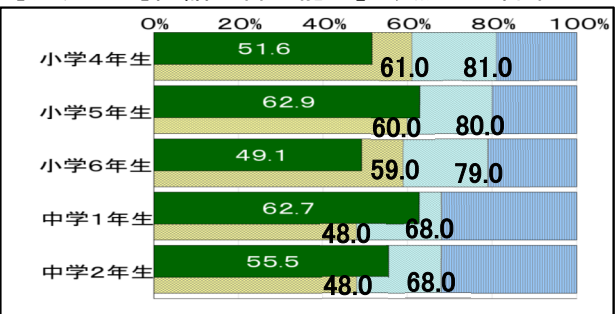
[グラフ3] 国語「話す・聞く能力」観点の正答率



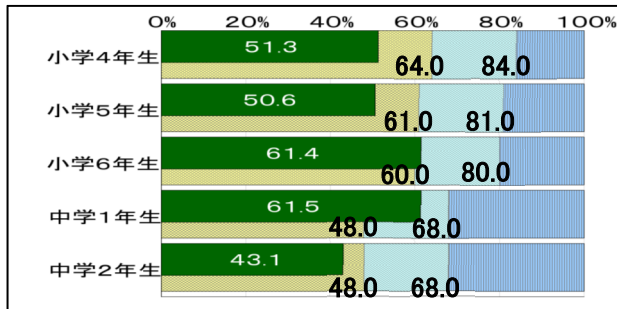
「おおむね達成」の基準

「十分達成」の基準

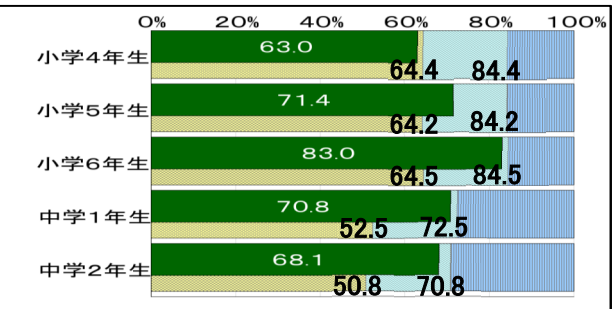
[グラフ4] 国語「書く能力」観点の正答率



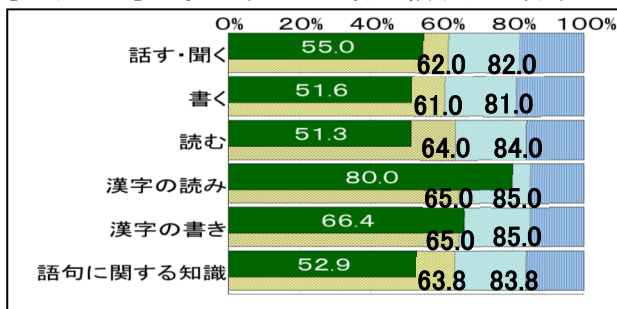
[グラフ5] 国語「読む能力」観点の正答率



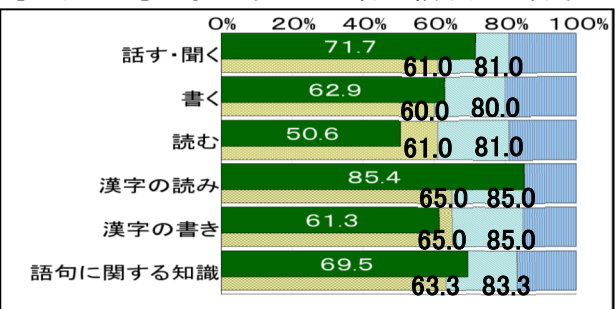
[グラフ6] 国語「知識・理解・技能」観点の正答率



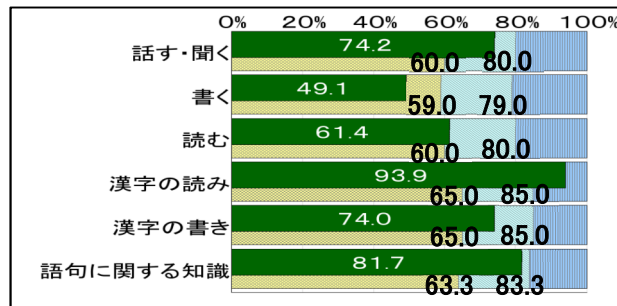
[グラフ7] 小学4年生 内容・領域別正答率



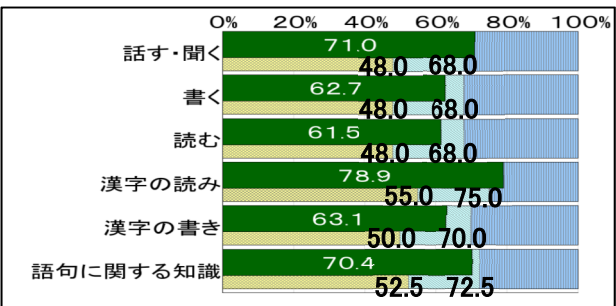
[グラフ8] 小学5年生 内容・領域別正答率



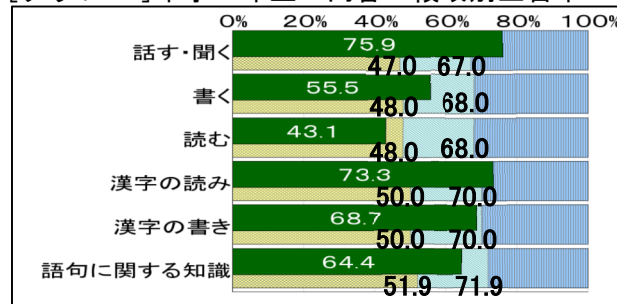
[グラフ9] 小学6年生 内容・領域別正答率



[グラフ10] 中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ11] 中学2年生 内容・領域別正答率



(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

小学校国語（小学4年生、小学5年生、小学6年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 平成28年度[4月調査]で「おおむね達成」の基準を下回っていた内容・領域「話すこと・聞くこと」において、「おおむね達成」の基準を上回っており、改善の傾向が見られる。
(小学5年生¹)
- ◇ 平成28年度[4月調査]で4問中3問が「おおむね達成」の基準を下回っていた内容・領域「話すこと・聞くこと」において、5問中4問が「おおむね達成」の基準を上回り、そのうち2問は、「十分達成」の基準を上回っており、改善の傾向が見られる。
(小学6年生¹)
- ◇ 話の意図を捉えながら聞き、自分の考えと比べ、まとめたり適切に助言したりすることは相当数の児童ができている。
(小学5年生¹四2、小学6年生¹二2)
- ◆ 1 メモや取材した内容などを整理したり複数の事実をまとめたりして書くことに課題が見られる。
(小学4年生²五、小学5年生²五、小学6年生²五)
- ◆ 2 叙述を基に、登場人物の気持ちを想像したり気持ちを捉えたりすることに課題が見られる。
(小学4年生³一、小学5年生³一)
- ◆ 3 目的に応じて、理由や事例を挙げたり引用したりして書くことに課題が見られる。
(小学4年生²二、小学6年生²二)

平成28年度佐賀県小・中学校学習状況調査[4月調査]Web 報告書 参照

指導改善のポイント

- ◆ 1 メモや取材した内容などを整理したり複数の事実をまとめたりして書く力を育成するためには、一つ一つの事実に対する自分の考えをもたせるとともに、編集の目的や意図に応じた自分の考えの中心を明確にしながら書かせることが必要である。具体的には、読み手に伝えたいことの中心を明確にさせた上で、取材した事柄や自分で調べた内容の中から必要な情報を取捨選択させ、伝えたいことが読み手に伝わるように整理して記事を書かせる指導が考えられる。また、推敲の際には、選択した情報が、書いた内容の根拠となっているかどうかを検討させることが大切である。
- ◆ 2 叙述を基に、登場人物の気持ちを想像したり気持ちを捉えたりする力を育成するためには、それぞれの登場人物の特徴や性格を押さえて読ませることが必要である。登場人物の特徴や性格がよく表れている行動や会話などは、複数描かれていることが多いため、それらに関係付けて読ませることが大切である。具体的には、登場人物の特徴や性格を押さえた上で、想像したことを話し合ったり書いたりさせる言語活動を取り入れることが考えられる。その際、多様な考えをグループで交流させ、互いの考えのよさに気付かせることも大切である。
- ◆ 3 目的に応じて、理由や事例を挙げたり引用したりして書く力を育成するためには、読み手に伝えたいことがわかるように、具体的な事実を挙げたり引用したりして書かせることが必要である。具体的には、学習課題や単元計画を児童との話合いの中で立てていくことが考えられる。例えば、「書くこと」の単元では、学習課題を児童とともに立てることで、児童に、書く相手や目的、方法を理解させるようにし、学習のゴールを見通して学習に取り組ませることが大切である。また、引用については、テーマや見出しなどに合わせて内容を選択したり、引用した内容が目的や意図に応じているかどうかを判断したりすることができるように指導することが大切である。



ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。「単元で学び、単元で力をつける」をキーワードにした授業づくり、第4・5学年の「学習指導案」や「ワークシート」を提案しています。授業づくりに役立ててください。

(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

中学校国語（中学１年生、中学２年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 分かりやすく話すために、話の構成や展開を考えることができている。
(中学１年生¹三、中学２年生¹三)
- ◇ 資料を活用して分かりやすく説明したり、展開が分かりやすい文章を書いたりするための基礎的な知識が身に付いている。
(中学２年生¹―³一)
- ◆ 1 書くための材料の用い方や構成の工夫について意見を述べることに一部課題が見られる。
(中学１年生²五、中学２年生³四)
- ◆ 2 文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分けて要旨を捉えたり、文章全体と部分との関係を考えて内容を理解したりすることに一部課題が見られる。
(中学１年生³二、中学２年生⁵一)
- ◆ 3 人物の描写や場面の展開について、自分の考えをまとめることに課題が見られる。
(中学１年生⁴三、中学２年生⁴二)

指導改善のポイント

- ◆ 1 書くための材料の用い方や構成の工夫について意見を述べる力を育成するためには、書くための材料をどのように整理をしたのか、あるいは文章の構成をどのように工夫したのかについて、書いた文章を互いに読み合い、具体的な記述を基にしてペアやグループで助言し合うような活動に取り組ませることが必要である。その際には、活動を通して学んだことを記録として残し、自分の表現に生かすようにさせることが大切である。
- ◆ 2 文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分けて要旨を捉える力を育成するためには、段落相互の関係を捉えさせた上で、目的や必要に応じて情報を整理させることが必要である。また、文章全体と部分との関係を考えて内容を理解する力を育成するためには、各段落が文章全体の中で果たす役割を捉える活動を設定することが大切である。例えば、段落の要点を書き抜いたカードを用いて、特定の段落を省いたり、順序を入れ替えたりしながら、段落の構成や順序が、文章全体にどのような説得力をもたらしているのかを考えさせるような活動が考えられる。
- ◆ 3 人物の描写や場面の展開について、自分の考えをまとめる力を育成するためには、生徒が課題意識をもって、主体的に読み進めることができるようにすることが必要である。そのためには、どのように学習を進めるのかを生徒が意識できるように、例えば、「人物描写の効果について、教材Aと教材Bを比べ読みして、人物表現辞典を作成する」のように、①その単元で指導する事項、②どのような思考操作をさせるのか、③その単元に位置付ける言語活動の3点が分かるような学習課題を示し、学習計画を提示することが必要である。また、単元の導入において、その単元で行う言語活動の具体的な事例を提示するなどして、生徒に学習の目的や必要性をもたせることが大切である。さらに、学習課題に基づいて、単元を短時間で簡潔に構成することや、自分の考えをまとめ、それを他者の意見を参考に再考して記述するような学習活動を継続的に位置付けることも大切である。



ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。「学習課題設定の工夫」や「主体的な学習を促す言語活動の工夫」をキーワードに、「読むこと」の領域の第1・2学年の実践事例や「ワークシート」について提案しています。授業づくりに役立ててください。

(3) 各学年の設問ごとの正答率

〔表1〕 小学校4年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果		※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す				
	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,379	56.2	5.3	83.0	63.0	▼

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の 内容・領域等	話す・聞く	5	55.0	1.9	82.0	62.0	▼
	書く	5	51.6	6.5	81.0	61.0	▼
	読む	5	51.3	6.9	84.0	64.0	▼
	漢字の読み	2	80.0	5.6	85.0	65.0	
	漢字の書き	2	66.4	6.7	85.0	65.0	
	語句に関する知識	4	52.9	5.4	83.8	63.8	▼
評価の観点	①話す・聞く	5	55.0	1.9	82.0	62.0	▼
	②書く	5	51.6	6.5	81.0	61.0	▼
	③読む	5	51.3	6.9	84.0	64.0	▼
	④知識・理解・技能	8	63.0	5.8	84.4	64.4	▼
問題形式	選択式	13	53.5	4.0	84.2	64.2	▼
	短答式	8	64.8	6.8	83.8	63.8	
	記述式	2	39.9	8.0	72.5	52.5	▼
活用	「活用」に関する問題	2	39.9	8.0	72.5	52.5	▼

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況	
			話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式			記述式	「活用」に関する問題	問題分類		十分達成
1	一	自分の考えと比較しながら聞く	○						○			○				64.2	0.3	A	85	65	▼
1	二	目的に応じて、理由や事例を挙げて明確に話す	○						○			○				60.0	0.3	A	85	65	▼
1	三	適切な言葉遣いで話す	○						○			○				69.6	1.7	B	80	60	
1	四	司会の役割を理解し、話し合いを進める	○						○			○				40.0	0.9	A	85	65	▼
1	五	話の中心に気を付けて聞き、分からない点や確かめたい点を質問する	○						○				○	○		41.0	6.1	C	75	55	▼
2	一	書こうとすることの中心を明確にして書く	○							○			○			67.5	3.0	A	85	65	
2	二	目的や必要に応じて、理由や事例を挙げて書く	○							○		○				49.1	1.3	A	85	65	▼
2	三	自分の考えを明確に表現しているか検討し、よりよい表現に書き直す	○							○			○			31.2	15.4	B	80	60	▼
2	四	考えを明確に記述しているか検討する	○							○		○				71.4	3.2	A	85	65	
2	五	メモを基に、書こうとすることの中心を明確にして文章を書く	○							○			○	○		38.8	9.8	D	70	50	▼
3	一	叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む		○							○	○				45.9	2.6	A	85	65	▼
3	二	叙述を基に、登場人物の気持ちの変化を捉える		○							○	○				69.9	3.8	B	80	60	
4	一	読む目的に応じて中心となる語を捉える		○							○		○			56.9	10.2	A	85	65	▼
4	二	事実と意見を区別して読む		○							○	○				51.3	9.2	A	85	65	▼

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式	活用	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況	
			話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式			短答式	記述式	「活用」に関する問題		問題分類
4	三	中心となる語や文を捉えて要約する		○							○				32.4	8.9	A	85	65	▼
5	一 1	文脈に即して漢字を正しく読む「絵画」																		
5	一 2	文脈に即して漢字を正しく読む「重ね」			○						○		○		86.4	4.6	A	85	65	◎
5	一 3	文脈に即して漢字を正しく読む「都市」			○						○		○		73.5	6.6	A	85	65	
5	二 1	文脈に即して漢字を正しく書く「角」																		
5	二 2	文脈に即して漢字を正しく書く「暑い」				○					○		○		68.3	6.6	A	85	65	
5	二 3	文脈に即して漢字を正しく書く「洋服」				○					○		○		64.6	6.8	A	85	65	▼
5	三 1	主語と述語の関係を理解する					○				○		○		66.7	4.7	A	85	65	
5	三 2	主語と述語の関係を理解する					○				○		○		31.9	5.2	A	85	65	▼
5	四	へんについて理解する					○				○		○		86.3	5.4	A	85	65	◎
5	五	「さげる」という言葉がもつ意味を理解し、適した使い方を選択する（吊す）（退ける）					○				○		○		26.5	6.5	B	80	60	▼

【表2】小学校5年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,155	66.0	4.4	82.2	62.2	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	71.7	1.7	81.0	61.0	
	書く	5	62.9	1.9	80.0	60.0	
	読む	5	50.6	5.5	81.0	61.0	▼
	漢字の読み	3	85.4	4.3	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	3	61.3	11.2	85.0	65.0	▼
	語句に関する知識	6	69.5	4.3	83.3	63.3	
評価の観点	①話す・聞く	5	71.7	1.7	81.0	61.0	
	②書く	5	62.9	1.9	80.0	60.0	
	③読む	5	50.6	5.5	81.0	61.0	▼
	④知識・理解・技能	12	71.4	6.0	84.2	64.2	
問題形式	選択式	16	69.1	2.2	83.8	63.8	
	短答式	8	67.1	7.8	83.8	63.8	
	記述式	3	47.0	6.8	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	3	47.0	6.8	70.0	50.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況	
			話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式			記述式	「活用」に関する問題	問題分類		十分達成
1	一	目的や意図に応じて、話の構成を工夫しながら話す	○						○				○			68.5	0.1	A	85	65	
1	二	話し手の意図を捉える	○						○				○			70.5	0.3	A	85	65	
1	三	聞いた事柄を基に、分からない点や確かめたい点を質問する	○						○					○	○	67.5	4.0	C	75	55	
1	四 1	場に応じて、敬体と常体とを使い分ける	○						○				○			71.3	3.7	B	80	60	
1	四 2	話し手の意図を捉えながら聞き、適切に助言する	○						○				○			81.1	0.5	B	80	60	◎
2	一	目的や意図に応じて、内容を詳しく書く	○							○			○			67.9	0.3	A	85	65	
2	二	目的や意図に応じて、記事に見出しを付ける	○							○			○			52.5	0.5	A	85	65	▼
2	三	自分の考えが明確になるように、文章を構成する	○							○			○			81.7	0.5	B	80	60	◎
2	四	表を用いて自分の考えが伝わるように書く	○							○			○			87.6	0.7	A	85	65	◎
2	五	目的や意図に応じて、取材した内容を整理して記事を書く	○							○				○	○	25.1	7.4	E	65	45	▼
3	一	叙述を基に、登場人物の気持ちを捉える		○							○		○			42.5	1.3	A	85	65	▼
3	二	登場人物の心情についての描写を捉える		○							○		○			70.0	1.8	A	85	65	
3	三	登場人物の相互関係を捉える		○							○		○			25.3	11.8	B	80	60	▼
4	一	概観しながらパンフレットを読む		○							○		○			66.7	3.6	A	85	65	

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式			活用	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
			話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式			「活用」に関する問題	問題分類	十分達成	
4	二	目的に応じて、パンフレットの内容とグラフから読み取れることを関係付けてまとめる		○						○				○	○	48.4	9.1	D	70	50	▼
5	一 1	文脈に即して漢字を正しく読む「配役」			○					○		○				84.1	5.1	A	85	65	
5	一 2	文脈に即して漢字を正しく読む「省く」			○					○		○				79.4	5.3	A	85	65	
5	一 3	文脈に即して漢字を正しく読む「花束」			○					○		○				92.5	2.5	A	85	65	◎
5	二 1	文脈に即して漢字を正しく書く「整った」				○				○		○				76.2	11.0	A	85	65	
5	二 2	文脈に即して漢字を正しく書く「覚ます」				○				○		○				63.1	10.0	A	85	65	▼
5	二 3	文脈に即して漢字を正しく書く「印刷」				○				○		○				44.6	12.8	A	85	65	▼
5	三 1	修飾と被修飾の関係を理解する					○			○		○				25.4	3.8	B	80	60	▼
5	三 2	修飾と被修飾の関係を理解する					○			○		○				53.9	4.2	B	80	60	▼
5	四 1	慣用句の意味を知る「心が通う」					○			○		○				73.6	4.3	A	85	65	
5	四 2	慣用句の意味を知る「息をぬく」					○			○		○				78.0	4.4	A	85	65	
5	五 1	言葉の使い方を意識し、正しく使う「なかなか」					○			○		○				92.5	4.5	A	85	65	◎
5	五 2	言葉の使い方を意識し、正しく使う「そろそろ」					○			○		○				93.3	4.5	A	85	65	◎

【表3】小学校6年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,411	70.2	3.3	81.6	61.6	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の 内容・領域等	話す・聞く	5	74.2	0.7	80.0	60.0	
	書く	5	49.1	4.4	79.0	59.0	▼
	読む	5	61.4	4.8	80.0	60.0	
	漢字の読み	3	93.9	1.4	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	3	74.0	6.6	85.0	65.0	
	語句に関する知識	4	81.7	2.5	83.8	63.8	
評価の観点	①話す・聞く	5	74.2	0.7	80.0	60.0	
	②書く	5	49.1	4.4	79.0	59.0	▼
	③読む	5	61.4	4.8	80.0	60.0	
	④知識・理解・技能	10	83.0	3.4	84.5	64.5	
問題形式	選択式	13	72.9	1.6	83.1	63.1	
	短答式	9	68.9	4.6	83.9	63.9	
	記述式	3	62.0	6.9	68.3	48.3	
活用	「活用」に関する問題	3	62.0	6.9	68.3	48.3	

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況	
			話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式			記述式	「活用」に関する問題	問題分類		十分達成
1	一	メモの内容を比較し、目的や意図を明確にする	○						○				○			91.4	0.1	A	85	65	◎
1	二 1	目的に応じて、話の構成を工夫する	○						○				○			50.3	0.3	B	80	60	▼
1	二 2	アドバイスの意図を聞き取り、自分の考えと比べまとめる	○						○				○			84.8	1.6	A	85	65	
1	三	話の聞き方を工夫する	○						○				○			67.2	0.3	B	80	60	
1	四	事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫する	○						○					○	○	77.4	1.1	D	70	50	◎
2	一	目的や意図に応じ、リーフレットに見出しを書く	○							○			○			63.8	0.2	B	80	60	
2	二	目的に応じて、必要な内容を適切に引用して書く	○							○			○			22.2	4.4	B	80	60	▼
2	三	「事実」と自分の感想、意見などを区別して書く	○							○			○			44.9	5.5	A	85	65	▼
2	四	表現の効果などについて確かめ、工夫する	○							○			○			72.6	1.3	A	85	65	
2	五	複数の事実をまとめて、それに対する自分の考えを書く	○							○				○	○	42.1	10.5	E	65	45	▼
3	一	場面と場面とを関係付けて読む		○							○		○			84.1	1.2	A	85	65	
3	二	場面についての描写を捉える		○							○		○			52.7	1.9	B	80	60	▼
3	三	登場人物の心情を捉える		○							○			○	○	66.5	9.2	D	70	50	
4	一	文章の内容を的確に捉える		○							○		○			54.1	3.5	A	85	65	▼

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況	
			話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式			記述式	「活用」に関する問題	問題分類		十分達成
4	二	文章の重要な点を、表現の仕方に合わせてまとめる			○						○		○			49.7	7.9	B	80	60	▼
5	一 1	文脈に即して漢字を正しく読む「唱える」				○						○		○		90.5	1.6	A	85	65	◎
5	一 2	文脈に即して漢字を正しく読む「預ける」				○							○			93.7	1.2	A	85	65	◎
5	一 3	文脈に即して漢字を正しく読む「招待」				○							○			97.3	1.3	A	85	65	◎
5	二 1	文脈に即して漢字を正しく書く「置く」					○						○			81.6	8.3	A	85	65	
5	二 2	文脈に即して漢字を正しく書く「迷う」					○						○			81.3	4.5	A	85	65	
5	二 3	文脈に即して漢字を正しく書く「往復」					○						○			59.2	7.0	A	85	65	▼
5	三	熟語の構成について理解する						○				○		○		74.3	2.3	B	80	60	
5	四	場面に応じ、敬語を適切に使う						○				○		○		93.6	2.1	A	85	65	◎
5	五 1	指示語の役割を理解する						○				○		○		79.8	2.8	A	85	65	
5	五 2	指示語の役割を理解する						○				○		○		79.1	2.9	A	85	65	

〔表4〕中学校1年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,152	68.0	5.5	70.3	50.3	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	71.0	2.2	68.0	48.0	◎
	書く	5	62.7	4.1	68.0	48.0	
	読む	5	61.5	7.1	68.0	48.0	
	漢字の読み	5	78.9	3.9	75.0	55.0	◎
	漢字の書き	5	63.1	13.8	70.0	50.0	
	語句に関する知識	6	70.4	2.7	72.5	52.5	
評価の観点	①話す・聞く	5	71.0	2.2	68.0	48.0	◎
	②書く	5	62.7	4.1	68.0	48.0	
	③読む	5	61.5	7.1	68.0	48.0	
	④知識・理解・技能	16	70.8	6.5	72.5	52.5	
問題形式	選択式	12	73.1	0.9	71.7	51.7	◎
	短答式	14	69.7	7.6	72.1	52.1	
	記述式	5	51.2	10.8	62.0	42.0	
活用	「活用」に関する問題	3	49.0	12.2	60.0	40.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨		学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
				話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	問題分類	
1	一	話題を決め、材料を整理して話を構成する	○							○			○			53.6	0.1	B	70	50	
1	二	場に応じた言葉遣いで話す	○							○			○			61.5	0.1	B	70	50	
1	三	分かりやすく伝えるために話の構成を考える	○							○			○			86.5	0.7	B	70	50	◎
1	四	必要に応じて質問し、自分の考えとの共通点や相違点を整理する	○							○			○			95.1	0.4	B	70	50	◎
1	五	全体と部分に気を付けて内容を整理し、話すためのメモを構成する	○							○				○	○	58.0	9.4	D	60	40	
2	一	目的や意図に応じて構成を考える		○							○		○			58.8	1.0	B	70	50	
2	二	書いた文章を読み返し、語句の用法を確かめて書く		○							○			○		65.3	6.3	B	70	50	
2	三	伝えたいことの根拠を明確にする		○							○		○			75.4	0.6	A	75	55	◎
2	四	書いた文章を読み返し、叙述の仕方を確かめて読みやすく分かりやすい文章にする		○							○			○		58.5	6.9	C	65	45	
2	五	材料の用い方について意見を述べる		○							○			○	○	55.7	6.0	D	60	40	
3	一	文脈の中における語句の意味を的確に捉え、理解する			○							○	○			82.4	0.7	B	70	50	◎
3	二	文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分け、要旨を捉える			○							○		○		50.6	10.7	C	65	45	
4	一	情景描写に注意し、視点を定めて読む			○							○	○			67.5	1.3	A	75	55	
4	二	場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する			○							○	○			73.6	1.4	B	70	50	◎

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
			話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式			記述式	「活用」に関する問題	問題分類	
4	三	登場人物の言動の描写に注意して読み、内容を理解した上で人物像について考える		○						○			○	○	33.3	21.3	D	60	40	▼
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「冷ます」			○					○		○			97.0	0.7	A	75	55	◎
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「試みる」			○					○		○			82.2	3.9	A	75	55	◎
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「徹収」			○					○		○			46.2	7.9	A	75	55	▼
5	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「羊毛」			○					○		○			71.7	5.7	A	75	55	
5	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(熟字訓)「七夕」			○					○		○			97.6	1.2	A	75	55	◎
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「折れた」				○				○		○			85.3	8.6	B	70	50	◎
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「疑い」				○				○		○			60.7	23.7	B	70	50	
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「努める」				○				○		○			30.9	15.4	B	70	50	▼
5	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「恩義」				○				○		○			48.5	15.9	B	70	50	▼
5	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「呼吸」				○				○		○			89.8	5.2	B	70	50	◎
5	三	文節の区切りを理解する					○			○		○			82.7	1.2	B	70	50	◎
5	四	文の中で語句や語彙を正しく使う					○			○		○			96.0	0.9	A	75	55	◎
5	五	文の中で語句や語彙を正しく使う					○			○		○			59.9	1.1	B	70	50	
5	六1	日本の文学には様々な種類の作品があることを理解する					○			○		○			66.5	2.0	A	75	55	
5	六2	歴史的仮名遣いについて理解する					○			○		○			88.2	3.9	A	75	55	◎
5	六3	古典に表れたものの見方や考え方に触れ、作者の思いを想像する					○			○		○			29.1	7.2	B	70	50	▼

〔表5〕中学校2年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,324	63.6	5.7	69.4	49.4	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の 内容・領域等	話す・聞く	5	75.9	3.8	67.0	47.0	◎
	書く	5	55.5	3.5	68.0	48.0	
	読む	5	43.1	6.4	68.0	48.0	▼
	漢字の読み	5	73.3	6.6	70.0	50.0	◎
	漢字の書き	5	68.7	12.6	70.0	50.0	
	語句に関する知識	8	64.4	2.8	71.9	51.9	
評価の観点	①話す・聞く	5	75.9	3.8	67.0	47.0	◎
	②書く	5	55.5	3.5	68.0	48.0	
	③読む	5	43.1	6.4	68.0	48.0	▼
	④知識・理解・技能	18	68.1	6.6	70.8	50.8	
問題形式	選択式	16	62.1	1.3	71.3	51.3	
	短答式	13	69.2	8.9	70.0	50.0	
	記述式	4	51.2	12.8	60.0	40.0	
活用	「活用」に関する問題	4	51.2	12.8	60.0	40.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況	
			話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式			記述式	「活用」に関する問題	問題分類		十分達成
1	一	目的に応じて資料を活用し、分かりやすくする	○						○			○				88.9	0.3	A	75	55	◎
1	二	資料を活用して説明する	○						○				○	○		76.8	6.0	C	65	45	◎
1	三	話の論理的な構成や展開を意識して話す	○						○			○				82.2	0.4	B	70	50	◎
2	一	話の事実と意見を聞き分け、意見の共通点をまとめる	○						○				○			58.9	5.4	C	65	45	
2	二	提案を検討して、自分の考えをまとめる	○						○				○	○		72.7	6.9	D	60	40	◎
3	一	事実や意見を相手に効果的に伝えるために工夫して書く		○						○		○				76.5	0.8	B	70	50	◎
3	二	書いた文章を読み返し、語句の使い方に注意して、分かりやすい文章にする		○						○		○				52.9	0.8	B	70	50	
3	三	具体例を加えて、感想を分かりやすく伝える		○						○				○	○	33.5	13.7	E	55	35	▼
3	四	伝えたいことを明確にして、構成を工夫した文章のよさを伝える		○						○		○				46.0	1.2	B	70	50	▼
3	五	材料を集める方法について理解する		○						○		○				68.4	1.2	A	75	55	
4	一	文脈の中における語句の意味を的確に捉え、理解する			○						○	○				67.4	1.1	B	70	50	
4	二	場面の展開について、根拠を明確にして自分の考えをまとめる			○								○	○		21.7	24.4	D	60	40	▼
4	三	登場人物の言動の意味を捉え、内容を理解する			○						○	○				47.2	1.5	B	70	50	▼
5	一	文章全体と部分との関係を考え、内容を理解する			○						○	○				38.7	2.6	B	70	50	▼

設問別集計結果

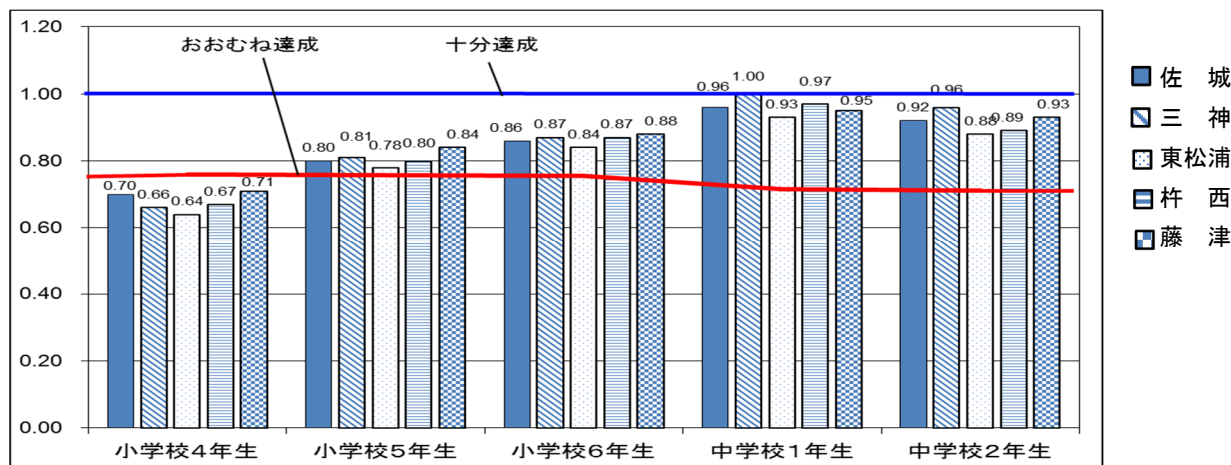
問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
			話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式			記述式	「活用」に関する問題	問題分類	
5	二	表現の特徴について、その効果を捉える		○						○		○			40.2	2.2	B	70	50	▼
6	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「驚嘆」			○					○		○			47.5	10.8	B	70	50	▼
6	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「趣」			○					○		○			73.4	7.9	B	70	50	◎
6	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「継承」			○					○		○			72.4	6.4	B	70	50	◎
6	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「推移」			○					○		○			75.1	7.1	B	70	50	◎
6	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「演奏」			○					○		○			98.3	0.8	B	70	50	◎
6	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「航海」				○				○		○			56.6	15.5	B	70	50	
6	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「激しい」				○				○		○			87.0	7.4	B	70	50	◎
6	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「展覧」				○				○		○			52.8	14.1	B	70	50	
6	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「険しい」				○				○		○			74.8	15.1	B	70	50	◎
6	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「看護」				○				○		○			72.2	11.2	B	70	50	◎
6	三	単語の類別について理解している					○			○		○			23.7	1.4	B	70	50	▼
6	四1	文の中の文の成分の関係について理解している					○			○		○			41.4	1.4	B	70	50	▼
6	四2	文の中の文の成分の関係について理解している					○			○		○			48.9	1.7	B	70	50	▼
6	五1	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(意味)「一線を画す」					○			○		○			88.1	1.3	B	70	50	◎
6	五2	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(意味)「そしらぬ顔」					○			○		○			91.5	1.3	A	75	55	◎
6	六	行書の書き方を理解する					○			○		○			91.3	1.5	A	75	55	◎
6	七1	文語のきまりを知る					○			○		○			68.7	7.0	A	75	55	
6	七2	描かれている人物像を読み取る					○			○		○			61.9	6.8	B	70	50	

(4) 地域別の状況

- 県内5地域における学年別教科正答率の「十分達成」に対する状況は、5地域とも、小学校4年生を除く、小学校5年生から中学校2年生までで「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ12]
- 県内5地域における学年別教科正答率の対県比は[表6]のとおりで、小学校4年生の地域差が最も大きい。また、4月調査と比べて中学校1・2年生で地域差が拡大している。

【グラフ12】 県内5地域における学年別教科正答率の「十分達成」に対する状況

※ 各学年における「十分達成」の到達基準を1.00として算出



【表6】 県内5地域における学年別教科正答率の対県比

学年・教科		実施年度	対県比(地域教科正答率/県教科正答率)					地域差
			佐城	三神	東松浦	杵西	藤津	
小学校4年生	国語	H28[12月]	1.04	0.98	0.95	0.98	1.05	▲ 0.10
		H28[4月]	—	—	—	—	—	—
小学校5年生	国語	H28[12月]	1.00	1.00	0.97	1.00	1.04	0.07
		H28[4月]	1.00	1.02	0.96	1.00	1.03	0.07
小学校6年生	国語	H28[12月]	1.00	1.01	0.98	1.01	1.02	縮 0.04
		H28[4月]	1.02	1.00	0.95	0.99	1.03	0.08
中学校1年生	国語	H28[12月]	1.00	1.03	0.97	1.01	0.99	拡 0.06
		H28[4月]	1.01	1.01	0.97	1.00	1.01	0.04
中学校2年生	国語	H28[12月]	1.00	1.05	0.96	0.97	1.01	拡 0.09
		H28[4月]	1.00	1.04	0.97	0.98	1.00	0.07

※ 「対県比」は、県正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「縮」は、平成28年度[4月調査]より地域差が縮小した教科を、「拡」は拡大した教科を示す

※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐 城	佐賀市、多久市、小城市
三 神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵 西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤 津	鹿島市、嬉野市、太良町

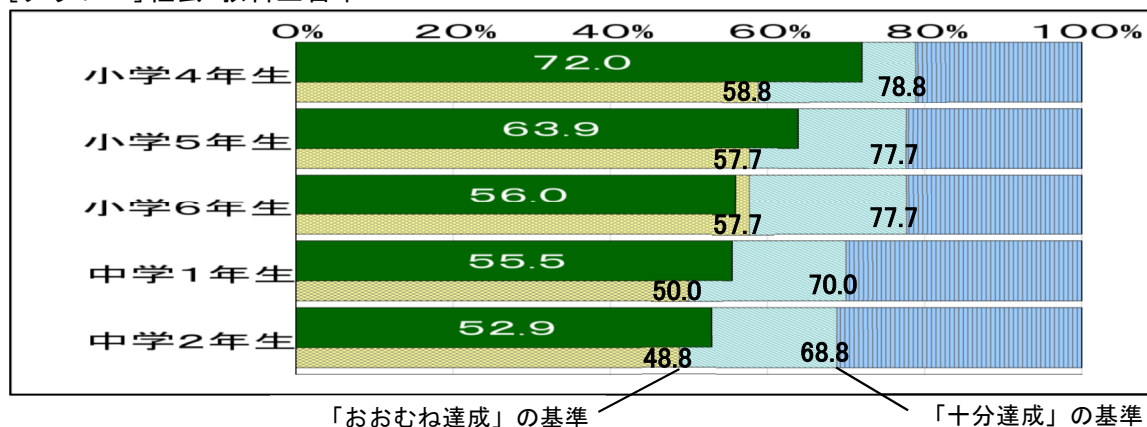
Ⅲ 教科ごとの調査結果とその分析

社 会

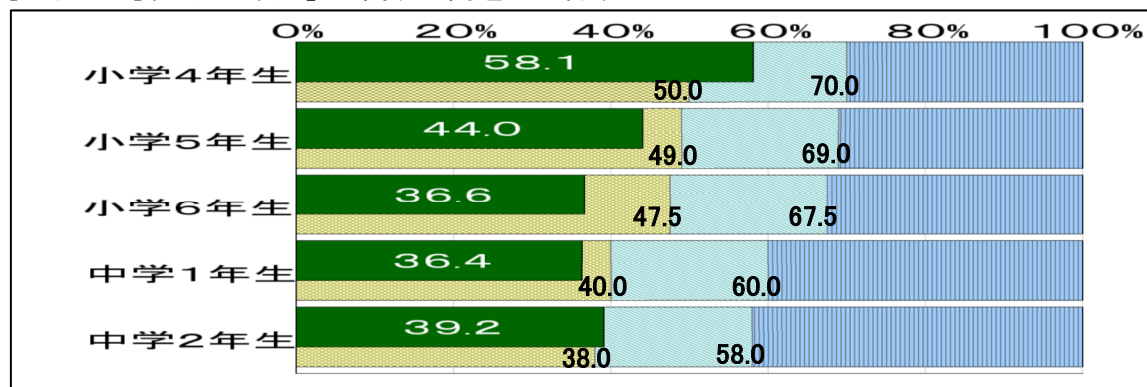
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、小学4年生と小学5年生、中学校の全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ1]
- 「活用」に関する問題については、小学5年生と小学6年生、中学1年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ2]
- 観点別に見ると、小学4年生と中学2年生は、全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。「観察・資料活用（資料活用）の技能」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「社会的な思考・判断・表現」については、小学5年生と小学6年生、中学1年生、「社会的な事象についての知識・理解」については、小学6年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ3～5]
- 内容・領域別に見ると、小学4年生の「地域の生産や販売」「地域社会の歴史」、中学1年生の「世界の地域構成」については、「十分達成」の基準を上回っている。小学5年生の「工業の様子」、小学6年生の「国土の様子（5年の学習内容）」「我が国の歴史」、中学1年生の「歴史の捉え方」、中学2年生の「世界の諸地域」については、「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ6～10]

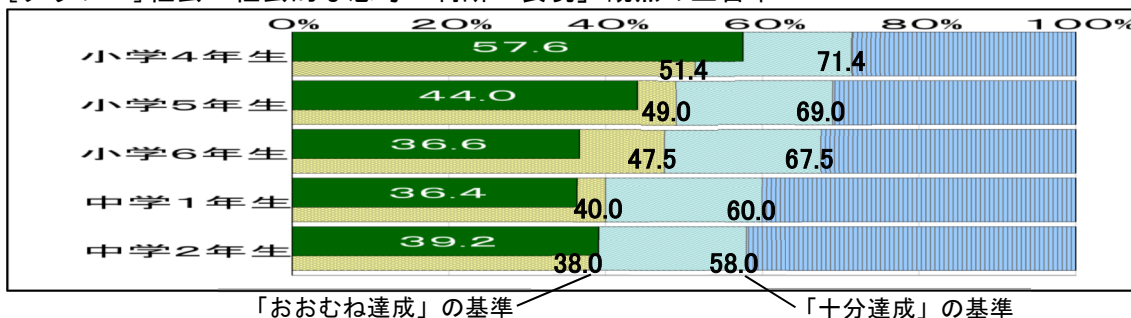
[グラフ1]社会 教科正答率



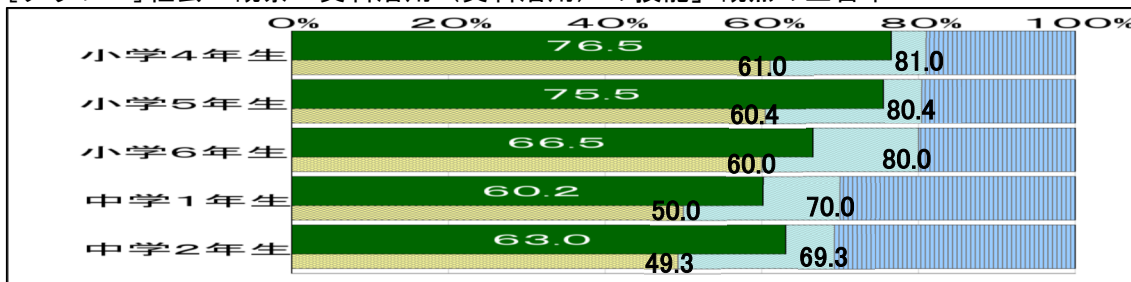
[グラフ2]社会 「活用」に関する問題の正答率



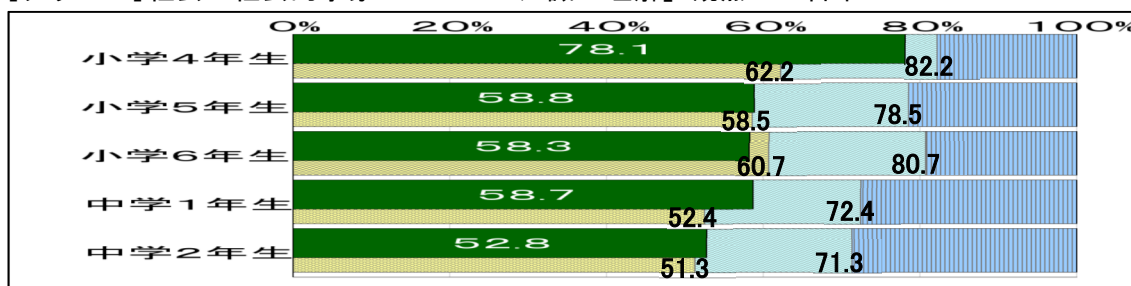
[グラフ3]社会「社会的な思考・判断・表現」観点の正答率



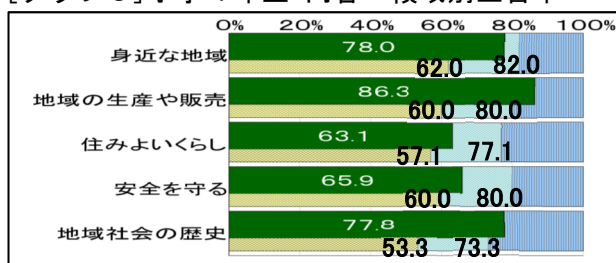
[グラフ4]社会「観察・資料活用（資料活用）の技能」観点の正答率



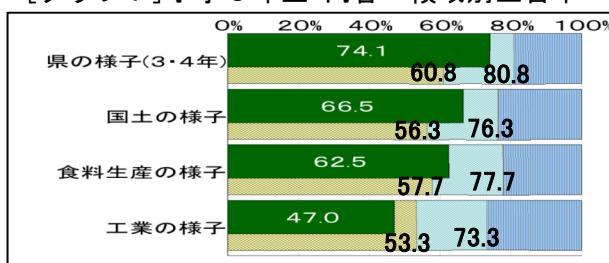
[グラフ5]社会「社会的事象についての知識・理解」観点の正答率



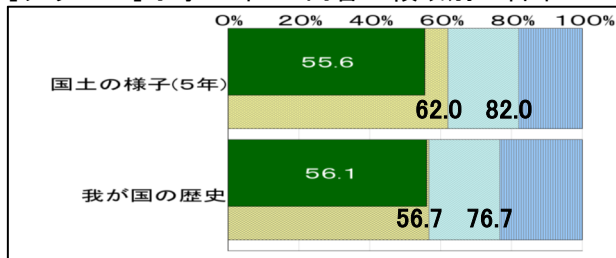
[グラフ6]小学4年生 内容・領域別正答率



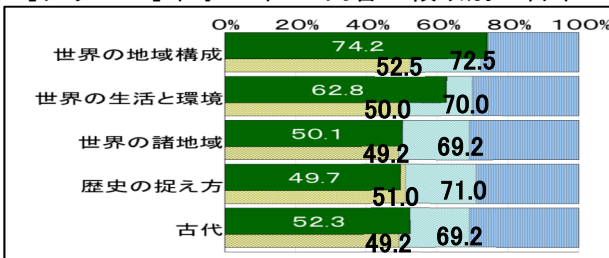
[グラフ7]小学5年生 内容・領域別正答率



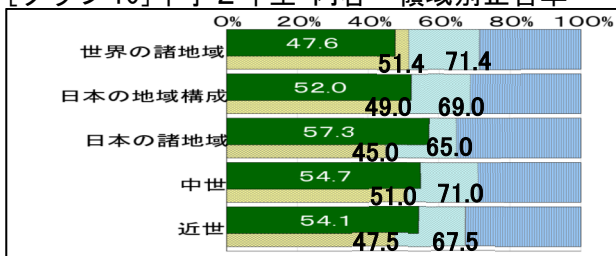
[グラフ8]小学6年生 内容・領域別正答率



[グラフ9]中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ10]中学2年生 内容・領域別正答率



※ [グラフ7]の「県の様子(3・4年)」という表記は、第3・4学年で学習する内容であることを示している。

※ [グラフ8]の「国土の様子(5年)」という表記は、第5学年で学習する内容であることを示している。

(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

小学校社会（小学4年生、小学5年生、小学6年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 社会的事象の目的や理由に関する知識を記述することができている。
(小学4年生[3](1)、小学6年生2)
- ◇ 資料から必要な情報を読み取ったり、適切な資料を選択したりする技能が身に付いている。
(小学4年生[3](2)、小学5年生[4](1)、小学6年生[8](1)①)
- ◆ 1 資料から読み取った情報を基に考えたことを表現することに一部課題が見られる。
(小学5年生[5](4)、小学6年生[2](3))
- ◆ 2 資料から読み取った情報と知識とを関連付けて、学習問題を考えることに課題が見られる。
(小学4年生[5](1)、小学校5年生[6](1)、小学校6年生[5](1))
- ◆ 3 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えることに課題が見られる。
(小学4年生[6](4)、小学5年生[2](3)、小学6年生3[5](2)[8](1)②)

指導改善のポイント

- ◆ 1 資料から読み取った情報を基に考えたことを表現する力を育成するためには、1単位時間もしくは単元の中に、調べて分かったことや考えたことを交流する活動を意図的に仕組むことが必要である。その際には、事実と考えを区別して書いたり話したりすることができるように指導することが必要である。また、「なぜなら」「理由は」など、考えの根拠を示す言葉を使って表現するように指導し、根拠を明確にして相手に分かるように書いたり話したりできるようにすることも大切である。
- ◆ 2 資料から読み取った情報と知識とを関連付けて、学習問題を考える力を育成するためには、提示した資料について、児童から疑問や予想を引き出したり、児童の発言やつぶやきなどに対して、「ゆさぶる発問」をしたりして、児童の「調べたい」という意欲を高めることが必要である。その際には、児童の言葉を使って学習問題を設定することや児童の疑問や予想を交流させ、「どの予想が正しいのだろう?」「調べてみないと分からない」などと調べる活動の必要性をもたせることが大切である。
- ◆ 3 社会的事象の特色や相互の関連、意味について考える力を育成するためには、社会の様子を調べさせた上で、「なぜ(何のために)～しているのか」「どのように～しているのか」といった、事実を基に思考を促す発問をすることが必要である。その際には、児童から様々な考えを引き出しながら、次のような追加の発問をし、比較・関連付け・総合しながら考えさせることが大切である。
 - 「同じところや違うところはどこですか」(比較して考えさせる)
 - 「つなげて、考えられるものはありますか」(関連付けて考えさせる)
 - 「一言で言うと、どういうことですか」「全部をまとめるとどういうことですか」(総合して考えさせる)



ぜひ ご活用ください! → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。単元を通して、児童が主体的に問い、調べ、考え、表現することができるような授業づくりのポイントについて提案しています。授業づくりに役立ててください。

(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

中学校社会（中学１年生、中学２年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 歴史的分野において、社会的事象に関係する人物についての基礎的な知識が身に付いている。
(中学１年生[6](2)(6)、中学２年生4)
- ◇ 資料から適切な情報を読み取る技能が身に付いている。
(中学１年生[1](4)[2](4)[3](1)①、中学２年生1③[5](1))
- ◆ 1 地理的分野において、緯度と経度を使って位置を読み取ったり、時差を求めたりする技能に課題が見られる。
(中学１年生[1](3)、中学校２年生[2](3)(2))
- ◆ 2 社会的事象における概念的な知識の理解に課題が見られる。
(中学１年生[3](2)①[4](1)(5)[6](3)(4)(5)、中学２年生1②[4](1)(2)[5](4)[6](5)①)
- ◆ 3 資料を基に、社会的事象の特色や事象間を関連付けて説明することや社会的事象の意味や意義を解釈し、理由を説明することに課題が見られる。
(中学１年生[3](1)③[5](2)(6)[6](7)、中学２年生[5](3)[6](4))

指導改善のポイント

- ◆ 1 緯度と経度を使って位置を読み取ったり、時差を求めたりする技能を身に付けさせるためには、緯線や経線といった線の種類やその線が示す緯度や経度によって位置を表すことを、具体的な事例を通して理解させる必要がある。地球儀や世界地図を用いて、本初子午線や赤道の位置を明示することで緯度や経度の基準を示し、ある地点を例に取り上げ、東経と西経、北緯と南緯の組み合わせで位置を表す方法を身に付けさせることも必要である。また、緯度や経度は、位置を表すだけではなく、世界の気候分布や時差といった内容と深い関連があることを理解させることが大切である。特に時差については、世界の国々の相対的な位置関係を理解させておく必要がある。単に時差を計算させるような指導だけでなく、海外のスポーツ中継の場面や国際電話で海外にいる人と話をする場面を想定することで、生徒に時差の実感をもたせることが大切である。
- ◆ 2 概念的な知識を理解できるようにするためには、単元や授業の前後に一問一答形式の小テストを実施したり、重要語句を確認するような発問を行ったりするだけではなく、例えば、歴史的分野において学習した内容を活用し、各時代の特色や歴史的事象の関連を説明させるなどの発問を意図的に行うことが必要である。また、単元や授業のまとめの際に、学習した内容を活用し、ワークシートにまとめるなどの表現活動を行うことで概念的な知識へと高めていくことが大切である。
- ◆ 3 資料から読み取った情報を基に、社会的事象の特色や事象間を関連付けて説明する力や社会的事象の意味や意義を解釈し、理由を説明する力を育成するには、適切な課題の設定や課題を追究する調査活動、表現活動を行い、習得した知識や概念を活用する学習に取り組ませることが必要である。そのためには、社会的事象に関する具体的な事実を示す写真やグラフなどの資料を提示し、生徒の関心をもたせ、そこから生まれる生徒の疑問や気づきから「なぜ?」「どのように(な)?」などの単元を通した課題を設定させる場面やその課題を追究・解決する活動を行わせることで生徒の主体的な学習を促すことが大切である。また、追究し解決する活動の中で資料から読み取った情報を基に、理由を考えさせたり、自分の考えを説明させたりする活動などを充実させることが大切である。その際、例えば「どの資料からそのように考えたのか?」など、理由や考えの根拠を問い直す発問をすることも大切である。



ぜひ ご活用ください! → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。「意思決定を取り入れた討論型の学習」を基にした単元づくりの中で、学習問題を設定して意思決定を迫る学習活動について提案しています。授業づくりに役立ててください。

(3) 各学年の設問ごとの正答率

【表1】 小学校4年生 社会 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,404	72.0	2.5	78.8	58.8	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	身近な地域	5	78.0	0.8	82.0	62.0	
	地域の生産や販売	4	86.3	1.1	80.0	60.0	◎
	住みよいくらし	7	63.1	2.7	77.1	57.1	
	安全を守る	7	65.9	3.2	80.0	60.0	
	地域社会の歴史	3	77.8	4.8	73.3	53.3	◎
評価の観点	①思考・判断・表現	7	57.6	4.2	71.4	51.4	
	②技能	10	76.5	1.5	81.0	61.0	
	③知識・理解	9	78.1	2.1	82.2	62.2	
問題形式	選択式	11	76.1	0.8	80.5	60.5	
	短答式	9	72.0	3.5	81.1	61.1	
	記述式	6	64.4	4.0	72.5	52.5	
活用	「活用」に関する問題	4	58.1	5.0	70.0	50.0	

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
			身近な地域	地域の生産や販売	住みよいくらし	安全を守る	地域社会の歴史	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
1	(1)	学校の周りの様子について、適切に調べることができる	○					○			○				54.8	0.1	A	85	65	▼
1	(2)ア	主な地図記号を理解している(市役所)	○						○			○			74.8	2.7	A	85	65	
1	(2)イ	主な地図記号を理解している(病院)	○						○			○			94.8	0.6	A	85	65	◎
1	(3)	地図から、必要な情報を読み取ることができる	○						○		○				74.0	0.2	B	80	60	
2		資料から読み取った情報を基に、地図を選択することができる	○						○		○				91.5	0.2	C	75	55	◎
3	(1)	販売の仕事に見られる工夫について理解している(看板)	○							○			○		93.0	1.1	B	80	60	◎
3	(2)メモ1	資料から、スーパーマーケットの集客の工夫を読み取ることができる(陳列の工夫)	○						○		○				94.5	0.2	B	80	60	◎
3	(2)メモ2	資料から、スーパーマーケットの集客の工夫を読み取ることができる(駐車場の工夫)	○						○		○				97.0	0.2	A	85	65	◎
3	(3)	資料を基に、販売の仕事に見られる工夫について、考えることができる	○						○				○		60.7	2.8	C	75	55	
4	(1)	清掃工場の仕組みを理解している		○						○	○				85.2	0.2	A	85	65	◎
4	(2)	資料から、ごみの出し方を読み取ることができる		○					○		○				72.3	0.3	B	80	60	
4	(3)	資料を基に、ごみ処理の工夫について説明することができる		○					○				○	○	58.6	6.1	E	65	45	
4	(4)	学級や学校でできるごみ削減の方法を考えることができる		○					○				○	○	63.0	3.3	C	75	55	
5	(1)	資料と発言の内容を基に、学習問題を考えることができる	○						○				○	○	42.8	4.9	C	75	55	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		身近な地域	地域の生産や販売	住みよいくらし	安全を守る	地域社会の歴史	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式			問題分類	十分達成	おおむね達成	
5	(2)	水道水が家や学校に送られるまでの流れを理解している		○					○	○			66.4	0.7	B	80	60	
5	(3)	森林の働きについて理解している		○					○		○		53.1	3.6	B	80	60	▼
6	(1)ア	グラフから、交通事故発生件数の変化を読み取ることができる			○				○		○		80.3	3.0	A	85	65	
6	(1)イ	資料から、交通事故発生の原因を読み取ることができる			○				○		○		75.8	3.4	A	85	65	
6	(2)	警察官の仕事に関する疑問を適切に調べることができる			○				○	○			49.9	1.5	B	80	60	▼
6	(3)①	警察の施設の1つである交番を理解している			○				○		○		80.6	2.9	B	80	60	◎
6	(3)②	通信指令室から消防署に連絡が入る理由について考えることができる			○			○		○			62.0	2.1	C	75	55	
6	(4)	資料を基に、地域の事故防止や防犯に努めている人々の取り組みについて考えることができる			○			○			○		48.1	4.6	D	70	50	▼
6	(5)	事故や事件をなくすために大切なことを理解している			○				○		○		64.9	4.8	A	85	65	▼
7	(1)	昔の道具について調べたことを、カードにまとめることができる				○			○		○		75.3	6.1	C	75	55	◎
7	(2)	道具の移り変わりを理解している				○			○	○			90.1	2.7	B	80	60	◎
7	(3)	昔と今の道具を示した資料を基に、人々のくらしの変化について説明することができる				○		○				○	68.0	5.8	E	65	45	◎

【表2】 小学校5年生 社会 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,171	63.9	3.5	77.7	57.7	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の 内容・領域等	県の様子(3・4年)	6	74.1	0.5	80.8	60.8	
	国土の様子	4	66.5	2.8	76.3	56.3	
	食料生産の様子	15	62.5	4.6	77.7	57.7	
	工業の様子	3	47.0	5.5	73.3	53.3	▼
評価の観点	①思考・判断・表現	5	44.0	7.0	69.0	49.0	▼
	②技能	13	75.5	1.2	80.4	60.4	
	③知識・理解	10	58.8	4.9	78.5	58.5	
問題形式	選択式	16	71.4	1.1	80.3	60.3	
	短答式	5	65.0	6.3	79.0	59.0	
	記述式	7	46.0	7.2	70.7	50.7	▼
活用	「活用」に関する問題	5	44.0	7.0	69.0	49.0	▼

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率			到達状況
		県 の 様 子 (3 ・ 4 年)	国 土 の 様 子	食 料 生 産 の 様 子	工 業 の 様 子	① 思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	② 技 能	③ 知 識 ・ 理 解	選 択 式	短 答 式	記 述 式			問 題 分 類	十 分 達 成	お お む ね 達 成	
1	(1)	自分が通う小学校がある市や町の地理的な位置を理解している	○					○	○			81.4	1.8	A	85	65	
1	メモ1	地図から県内の特色ある地形の様子を読み取ることができる(玄界灘)	○					○	○			71.2	0.3	B	80	60	
1	メモ2	地図から県内の特色ある地形の様子を読み取ることができる(佐賀平野)	○					○	○			82.1	0.3	B	80	60	◎
1	メモ3	地図から県内の特色ある地形の様子を読み取ることができる(有明海)	○					○	○			69.8	0.3	B	80	60	
1	メモ4	地図から県内の特色ある地形の様子を読み取ることができる(脊振山地)	○					○	○			85.8	0.3	B	80	60	◎
1	(3)	福井県の位置を理解している	○					○	○			54.5	0.2	B	80	60	▼
2	(1)	地図から、日本の南端の島を読み取ることができる	○					○	○			69.6	0.2	B	80	60	
2	(2)ア	日本の位置を地図から読み取ることができる	○					○	○			92.9	0.9	B	80	60	◎
2	(2)イ	日本の位置を地図から読み取ることができる	○					○	○			71.1	1.8	B	80	60	
2	(3)	資料を基に、山地に挟まれた高松市の降水量が少ない理由について説明することができる	○					○		○	○	32.6	8.0	E	65	45	▼
3	(1)	米づくりが盛んなことを示す資料を選ぶことができる	○					○	○			51.7	0.2	B	80	60	▼
3	(2)	グラフから、農業従事者数の変化を読み取ることができる	○					○	○			76.9	0.2	B	80	60	
3	(3)	米の生産量を抑える政策である生産調整を理解している	○					○	○			13.4	19.5	B	80	60	▼
3	(4)	農家同士が共同作業をしている理由を理解している	○					○	○			67.7	0.3	C	75	55	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等	評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率			到達状況
			①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
3	(5)	米づくりの新しい取り組みを示す資料を選ぶことができる	○			○				77.4	0.4	B	80	60	
4	(1)	資料から、水揚げ量が多い漁港を読み取ることができる	○			○				85.4	0.3	A	85	65	◎
4	(2)	大陸棚に魚がたくさん集まる理由を理解している	○		○			○		63.4	5.3	B	80	60	
4	(3)	遠洋漁業の生産量が減ってきている理由を理解している。	○		○			○		38.4	10.1	D	70	50	▼
4	(4)①	市場で魚の値段を付けることがせりであることを理解している	○		○		○			75.3	5.0	B	80	60	
4	(4)②	資料を基に、トラックで魚を運ぶ際の工夫について説明することができる	○		○			○	○	76.3	4.6	C	75	55	◎
5	(1)	直売所とトレーサビリティの取り組みにおける生産者の工夫を理解している	○		○		○			72.5	4.5	C	75	55	
5	(2)	地産地消の取り組みを理解している	○		○		○			64.4	0.9	B	80	60	
5	(3)①	日本の穀物の自給率を表すグラフを選ぶことができる	○		○		○			71.8	4.3	B	80	60	
5	(3)②	日本の食料輸入額の変化を表すグラフを選ぶことができる	○		○		○			75.7	5.5	B	80	60	
5	(4)	資料を基に、食料自給率を高める理由について説明することができる	○		○			○	○	27.1	7.4	E	65	45	▼
6	(1)	資料を基に、自動車の現地生産についての学習問題を考えることができる		○		○		○	○	24.7	6.3	D	70	50	▼
6	(2)	自動車の生産過程を理解している		○			○			56.9	1.7	B	80	60	▼
6	(3)	資料を基に、自動車工場と関連工場、関連工場同士の関係から考えられる問題点について説明することができる		○		○		○	○	59.3	8.5	D	70	50	

【表3】 小学校6年生 社会 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,448	56.0	2.8	77.7	57.7	▼

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の 内容・領域等	国土の様子(5年)	5	55.6	1.8	82.0	62.0	▼
	我が国の歴史	23	56.1	3.0	76.7	56.7	▼
評価の観点	①思考・判断・表現	6	36.6	5.6	67.5	47.5	▼
	②技能	8	66.5	1.7	80.0	60.0	
	③知識・理解	14	58.3	2.3	80.7	60.7	▼
問題形式	選択式	11	69.9	0.2	81.4	61.4	
	短答式	7	49.2	4.4	80.7	60.7	▼
	記述式	10	45.5	4.5	71.5	51.5	▼
活用	「活用」に関する問題	6	36.6	5.6	67.5	47.5	▼

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率			到達状況
		国土の様子(5年)	我が国の歴史			①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式			問題分類	十分達成	おおむね達成	
1	(1)	三海洋の名称と位置を理解している	○					○	○			76.5	0.0	A	85	65	
1	(2)	地図から、大韓民国の位置を読み取ることができる	○				○		○			73.2	1.9	B	80	60	
1	(3)ア	地図から、日本の西端の島を読み取ることができる	○				○		○			62.2	1.4	A	85	65	▼
1	(3)イ	沖ノ島島と南鳥島が属する都道府県が東京都であることを理解している	○					○	○			34.4	3.6	B	80	60	▼
1	(3)ウ	日本が抱える領土問題を理解している(尖閣諸島)	○					○	○			31.7	1.9	B	80	60	▼
2	(1)	邪馬台国を治めた人物が卑弥呼であることを理解している	○					○	○			92.4	0.0	A	85	65	◎
2	(2)	米作りに適した土地や水などをめぐって、むら同士の争いがあったことを理解している	○					○		○		79.3	1.1	C	75	55	◎
2	(3)	資料を基に、縄文時代から弥生時代にかけて生活が変化したことを説明することができる	○			○				○	○	60.3	2.0	D	70	50	
3	(1)	日本の仏教の発展に貢献した鑑真の業績を理解している	○					○	○			73.3	0.1	A	85	65	
3	(2)	仏教の力によって、国づくりを進めた聖武天皇の考えを理解している	○					○		○		68.8	1.9	B	80	60	
3	(3)	資料を基に、日本が中国を通じ、大陸の文化を取り入れていたことを説明することができる	○				○			○	○	17.4	6.7	E	65	45	▼
4	(1)	源氏と平氏の戦いで活躍した人物が源義経であることを理解している	○					○		○		56.9	5.0	A	85	65	▼
4	(2)	資料から、鎌倉の地形の特徴を読み取ることができる	○				○			○		35.7	3.7	B	80	60	▼
4	(3)	御恩と奉公の関係が崩れたことを示す資料を選ぶことができる	○				○		○			65.3	0.3	C	75	55	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等					評価の観点			問題形式			活用	県 正 答 率	県 無 解 答 率	期待 正答率			到達状況
		国 土 の 様 子 (5年)	我が国の歴史				① 思考・判断・表現	② 技能	③ 知識・理解	選択式	短答式	記述式	「活用」に関する問題			問題分類	十分達成	おおむね達成	
5	(1)	発言の内容を基に、江戸幕府の政治についての学習問題を考えることができる	○				○					○	○	25.0	2.4	D	70	50	▼
5	(2)①	江戸幕府がキリスト教徒を取り締まった理由を示す資料を選ぶことができる	○					○		○				63.8	0.2	B	80	60	
5	(2)②	資料を基に、江戸幕府による大名配置の工夫について説明することができる	○				○					○	○	38.0	7.3	E	65	45	▼
6	(1)	江戸時代の町人文化や新しい学問を担った人物を理解している	○						○	○				74.8	0.2	B	80	60	
6	(2)	歌舞伎の様子を示した資料を選ぶことができる	○					○		○				93.9	0.2	A	85	65	◎
6	(3)	江戸時代後半の文化の担い手が町人であることを理解している	○						○	○				51.6	0.2	B	80	60	▼
7	(1)	明治政府の中心となった木戸孝允と大久保利通について理解している	○						○	○				26.4	0.3	B	80	60	▼
7	(2)	不平等条約の内容を理解している	○						○	○				64.4	0.3	B	80	60	
7	(3)①	資料を基に、地租改正によって国の収入が安定した理由を説明することができる	○				○					○	○	44.2	7.9	E	65	45	▼
7	(3)②	換地の目的を理解している	○						○		○			49.8	13.0	C	75	55	▼
8	(1)①	第一次世界大戦後の日本の様子を表す資料を選ぶことができる	○					○		○				86.1	0.8	B	80	60	◎
8	(1)②	資料を基に、日本が満州に進出した理由について説明することができる	○				○					○	○	34.8	7.1	D	70	50	▼
8	(2)	資料から、戦争中の生活の様子を読み取ることができる	○					○				○		51.8	4.9	C	75	55	▼
8	(3)	終戦直前に、満州や樺太南部、千島列島にソビエト連邦が攻め込んだことを理解している	○						○		○			36.1	4.3	B	80	60	▼

【表４】中学校１年生 社会 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,172	55.5	6.5	70.0	50.0	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の 内容・領域等	世界の地域構成	4	74.2	0.5	72.5	52.5	◎
	世界の生活と環境	4	62.8	4.8	70.0	50.0	
	世界の諸地域	6	50.1	13.1	69.2	49.2	
	歴史の捉え方	5	49.7	5.3	71.0	51.0	▼
	古代	13	52.3	6.2	69.2	49.2	
評価の観点	①思考・判断・表現	5	36.4	13.9	60.0	40.0	▼
	②技能	6	60.2	1.0	70.0	50.0	
	③知識・理解	21	58.7	6.3	72.4	52.4	
問題形式	選択式	15	57.3	1.3	71.3	51.3	
	短答式	12	61.3	9.9	72.5	52.5	
	記述式	5	36.4	13.9	60.0	40.0	▼
活用	「活用」に関する問題	5	36.4	13.9	60.0	40.0	▼

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等					評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率			到達状況
		世界の 地域 構成	世界の 生活と 環境	世界の 諸地域	歴史の 捉え方	古代	①思考・ 判断・ 表現	②技能	③知識・ 理解	選択式	短答式	記述式			問題 分類	十分 達成	おお むね 達成	
1	(1)	太平洋の位置と名称を理解している	○					○		○			88.4	1.2	A	75	55	◎
1	(2)	海洋と陸地の面積の比率を理解している	○					○		○			90.6	0.2	A	75	55	◎
1	(3)	資料に示されたりオデジャネイロの緯度と経度を読み取ることができる	○					○		○			28.9	0.3	B	70	50	▼
1	(4)	地図の索引を用いて、都市の位置を読み取ることができる	○					○		○			88.8	0.4	B	70	50	◎
2	(1)	乾燥した地域に見られるオアシスを理解している	○					○		○			72.0	9.1	A	75	55	
2	(2)	標高の高い地域に住む人々の衣服を理解している	○					○		○			61.2	0.4	A	75	55	
2	(3)	資料を基に、地中海沿岸の温帯地域で乾燥に強いオリーブが多く栽培されている理由を説明することができる	○				○				○	○	45.7	9.1	D	60	40	
2	(4)	資料から、インドで信仰されている宗教がヒンドゥー教であることを読み取ることができる	○					○		○			72.2	0.6	B	70	50	◎
3	(1)①	資料から、西アジアの石油の産出が多い地域であるペルシア（ペルシャ）湾の位置を読み取ることができる		○				○		○			70.5	1.5	B	70	50	◎
3	(1)②	西アジアの産油国が中心となって結成された組織が、石油輸出国機構（OPEC）であることを理解している		○					○	○			42.3	17.7	B	70	50	▼
3	(1)③	資料を基に、日本に比べ、クウェートの一人当たりの国内総生産の増減が年によって大きく変化している理由を説明することができる		○			○				○	○	26.1	22.8	D	60	40	▼
3	(2)①	アフリカ州の特徴について理解している		○				○		○			35.4	1.5	B	70	50	▼
3	(2)②	希少金属であるレアメタルを理解している		○				○		○			67.6	15.6	A	75	55	
3	(2)③	アフリカ州の国々に多いモノカルチャー経済を理解している		○				○		○			58.5	19.6	B	70	50	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		世界の地域構成	世界の諸地域	歴史の捉え方	古代	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
4	(1)	時代を区分した方法について理解している		○				○	○				40.8	2.0	B	70	50	▼
4	(2)	イエス(イエス・キリスト)が生まれたとされる年を基準にした年代の表し方である「西暦(西暦年)」を理解している		○				○	○				71.3	1.1	A	75	55	
4	(3)	「西暦(西暦年)」を100年単位とした年代の表し方である「世紀」を理解している		○				○		○			36.4	8.7	B	70	50	▼
4	(4)	「年号(元号)」を使った時代の表し方を理解している		○				○		○			66.4	13.2	B	70	50	
4	(5)	社会のしくみの特徴によって時代区分された「古代」を理解している		○				○	○				33.6	1.5	B	70	50	▼
5	(1)	日本列島が、大陸と陸続きだった当時の人々の生活の様子について理解している		○				○	○				67.8	0.9	B	70	50	
5	(2)	資料を基に、縄文時代から弥生時代にかけて人口が増加した理由を説明することができる		○		○				○	○		35.4	8.1	D	60	40	▼
5	(3)	古墳時代に多く見られた前方後円墳を理解している		○				○		○			77.8	6.9	A	75	55	◎
5	(4)	資料から、奈良時代の農民が負担した税を読み取ることができる		○			○		○				56.2	1.7	B	70	50	
5	(5)	平安京に都を移した桓武天皇を理解している		○				○		○			34.2	9.2	B	70	50	▼
5	(6)	資料を基に、藤原氏が力を強めていった理由を説明することができる		○		○				○	○		37.6	13.1	D	60	40	▼
6	(1)	資料から、金印が発見された志賀島の位置を読み取ることができる		○			○		○				44.7	1.8	B	70	50	▼
6	(2)	邪馬台国の女王が卑弥呼であることを理解している		○				○		○			85.8	5.1	A	75	55	◎
6	(3)	5世紀ごろの東アジアとの対外関係について理解している		○				○	○				36.7	2.8	B	70	50	▼
6	(4)	渡来人によって日本に伝えられたものを理解している		○				○	○				43.3	1.6	B	70	50	▼
6	(5)	飛鳥時代に栄えた飛鳥文化を理解している		○				○		○			33.7	11.5	A	75	55	▼
6	(6)	唐から来日した鑑真を理解している		○				○	○				89.4	1.7	A	75	55	◎
6	(7)	資料を基に、国風文化の内容を説明することができる		○		○				○	○		37.3	16.5	D	60	40	▼

【表5】中学校2年生 社会 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,312	52.9	8.0	68.8	48.8	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	世界の諸地域	7	47.6	7.8	71.4	51.4	▼
	日本の地域構成	5	52.0	6.6	69.0	49.0	
	日本の諸地域	5	57.3	9.2	65.0	45.0	
	中世	5	54.7	7.6	71.0	51.0	
	近世	10	54.1	8.3	67.5	47.5	
評価の観点	①思考・判断・表現	5	39.2	19.5	58.0	38.0	
	②技能	7	63.0	2.6	69.3	49.3	
	③知識・理解	20	52.8	6.9	71.3	51.3	
問題形式	選択式	18	61.0	1.3	70.3	50.3	
	短答式	9	44.4	14.9	71.7	51.7	▼
	記述式	5	39.2	19.5	58.0	38.0	
活用	「活用」に関する問題	5	39.2	19.5	58.0	38.0	

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		世界の諸地域	日本の地域構成	日本の諸地域	中世	近世	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
1	(1)①	アンデス山脈の位置と名称を理解している	○					○		○				46.1	4.5	A	75	55	▼
1	(1)②	南アメリカの歴史と文化について理解している	○					○		○				28.5	0.6	B	70	50	▼
1	(1)③	資料から、さとうきびの生産量の変化を読み取ることができる	○					○		○				76.4	0.5	B	70	50	◎
1	(1)④	アマゾン川流域の環境問題について理解している	○					○		○				71.8	0.7	B	70	50	◎
1	(2)①	オーストラリアの先住民を理解している	○					○		○				26.1	27.6	A	75	55	▼
1	(2)②	資料から、日本の石炭の輸入先や生産量と輸入量の関係を読み取ることができる	○					○		○				60.6	1.3	B	70	50	
1	(2)③	オーストラリアで進んでいる多文化社会(主義)を理解している	○					○		○				23.4	19.3	B	70	50	▼
2	(1)	資料から、日本の位置を読み取ることができる	○					○		○				65.9	0.7	B	70	50	
2	(2)①	日本の北端の島である択捉島と西端の島である与那国島の名称と位置を理解している	○					○		○				57.8	0.8	A	75	55	
2	(2)②	資料を基に、日本政府が沖ノ島島の護岸工事を行った理由を説明することができる	○					○			○	○		40.0	16.4	D	60	40	
2	(3)①	15度の経度差で1時間の時差が生じることを理解している	○					○		○				71.2	3.0	A	75	55	
2	(3)②	資料から、日本が1月1日午前9時の時のロサンゼルスの日付と時刻を読み取ることができる	○					○		○				24.9	12.1	C	65	45	▼
3	(1)	資料から、太平洋側の気候の雨温図を読み取ることができる	○					○		○				50.2	1.4	B	70	50	
3	(2)	火山の近くにその恵みを生かした温泉が分布していることを理解している	○					○		○				73.4	8.2	B	70	50	◎

設問別集計結果

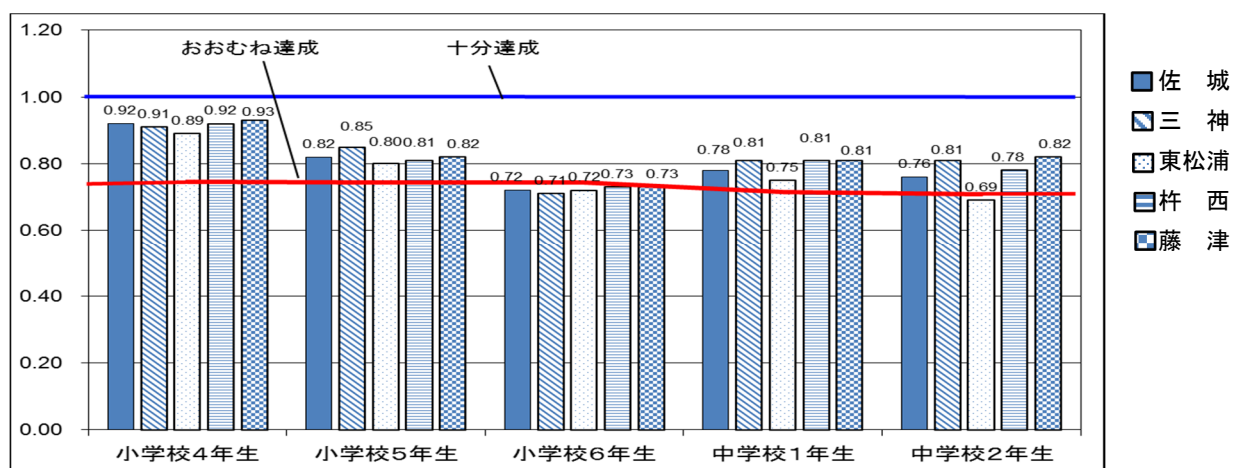
問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
			世界の諸地域	日本の諸地域	中世	近世	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
3	(3)	資料を基に、鹿児島県の農業の特徴をシラスと関連付けて説明することができる		○			○					○	○	55.9	13.3	D	60	40	
3	(4)	北九州市の環境を守る取組について理解している		○					○	○				61.7	1.2	B	70	50	
3	(5)	資料を基に、本州四国連絡橋や高速道路の整備と関連付けて、他地域との結び付きが変化した理由を説明することができる		○			○					○	○	45.4	22.0	E	55	35	
4	(1)	平清盛が行った政治について理解している			○				○	○				38.6	1.5	B	70	50	▼
4	(2)	鎌倉幕府の仕組みを理解している			○				○		○			19.5	14.1	B	70	50	▼
4	(3)	元寇の際に防塁(石塁)が築かれた理由を理解している			○				○	○				73.7	1.1	B	70	50	◎
4	(4)	南北朝の動乱(内乱)を鎮めた足利義満を理解している			○				○	○				79.6	0.9	B	70	50	◎
4	(5)	下の身分の者が上の身分の者を倒す風潮である下剋上を理解している			○				○		○			62.0	20.5	A	75	55	
5	(1)	資料から、鉄砲を読み取ることができる			○			○		○				93.7	1.1	B	70	50	◎
5	(2)	織田信長が行った楽市・楽座を理解している			○				○	○				69.7	1.0	B	70	50	
5	(3)	資料を基に、太閤検地と刀狩によって兵農分離が進んだ理由を説明することができる			○		○					○	○	26.2	19.5	D	60	40	▼
5	(4)	朝鮮侵略が日本に与えた影響について理解している			○				○	○				37.6	1.7	B	70	50	▼
6	(1)	資料から、江戸幕府の支配体制を読み取ることができる			○			○		○				69.3	1.5	B	70	50	
6	(2)	大名を統制するために制定された武家諸法度を理解している			○				○		○			53.0	24.7	B	70	50	
6	(3)	江戸時代に蝦夷地との窓口になっていた松前藩の位置を理解している			○				○	○				63.3	2.7	B	70	50	
6	(4)	資料を基に、江戸幕府が朱子学を奨励した理由を説明することができる			○		○					○	○	28.5	26.6	E	55	35	▼
6	(5)①	徳川綱吉が行った政治について理解している			○				○	○				43.5	2.5	B	70	50	▼
6	(5)②	徳川吉宗、田沼意次、松平定信が政治(政治改革)を行った時期を理解している			○				○	○				56.2	2.1	B	70	50	

(4) 地域別の状況

- 県内5地域における学年別教科正答率の「十分達成」に対する状況は、小学校4・5年生、中学校1年生で、5地域とも「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ11]
- 県内5地域における学年別教科正答率の対県比は[表6]のとおりで、中学校2年生で地域差が最も大きい。また、平成27年度12月調査と比べて、小学校5年生と中学校1年生で地域差が縮小し、小学校4年生と中学校2年生で拡大している。

[グラフ11] 県内5地域における学年別教科正答率の「十分達成」に対する状況

※ 各学年における「十分達成」の到達基準を1.00として算出



[表6] 県内5地域における学年別教科正答率の対県比

学年・教科		実施年度	対県比(地域教科正答率/県教科正答率)					地域差
			佐城	三神	東松浦	杵西	藤津	
小学校4年生	社会	H28[12月]	1.01	1.00	0.97	1.00	1.02	拡 0.05
		H27[12月]	0.99	1.01	0.99	1.01	1.02	0.03
小学校5年生	社会	H28[12月]	1.00	1.03	0.98	0.99	1.00	縮 0.05
		H27[12月]	0.99	1.02	0.96	1.01	1.04	0.08
小学校6年生	社会	H28[12月]	1.00	0.98	0.99	1.01	1.02	0.04
		H27[12月]	1.01	1.00	0.98	1.00	1.02	0.04
中学校1年生	社会	H28[12月]	0.99	1.03	0.94	1.03	1.03	縮 0.09
		H27[12月]	1.00	1.04	0.92	1.00	1.08	▲ 0.16
中学校2年生	社会	H28[12月]	0.99	1.05	0.90	1.02	1.06	▲拡 0.16
		H27[12月]	0.99	1.05	0.93	1.01	1.00	▲ 0.12

※ 「対県比」は、県正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「縮」は、平成27年度[12月調査]より地域差が縮小した教科を、「拡」は拡大した教科を示す

※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐 城	佐賀市、多久市、小城市
三 神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵 西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤 津	鹿島市、嬉野市、太良町

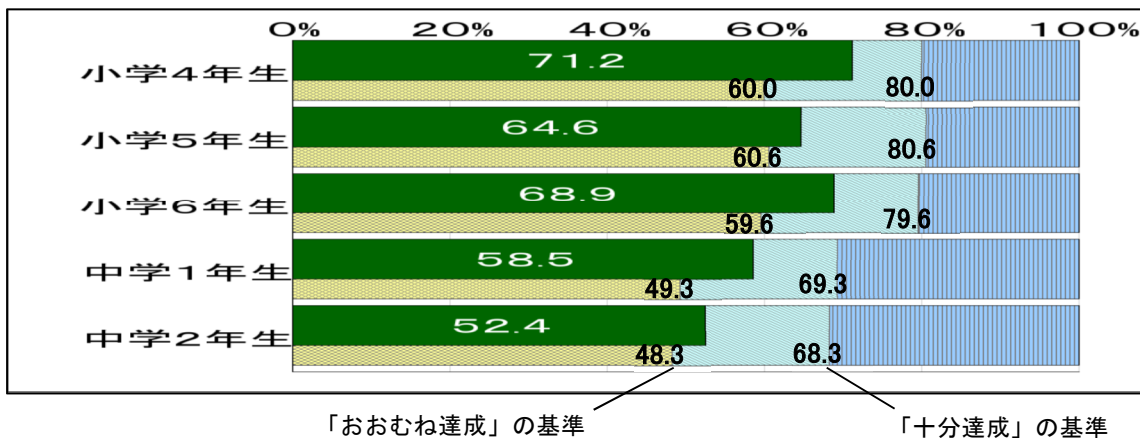
Ⅲ 教科ごとの調査結果とその分析

算数・数学

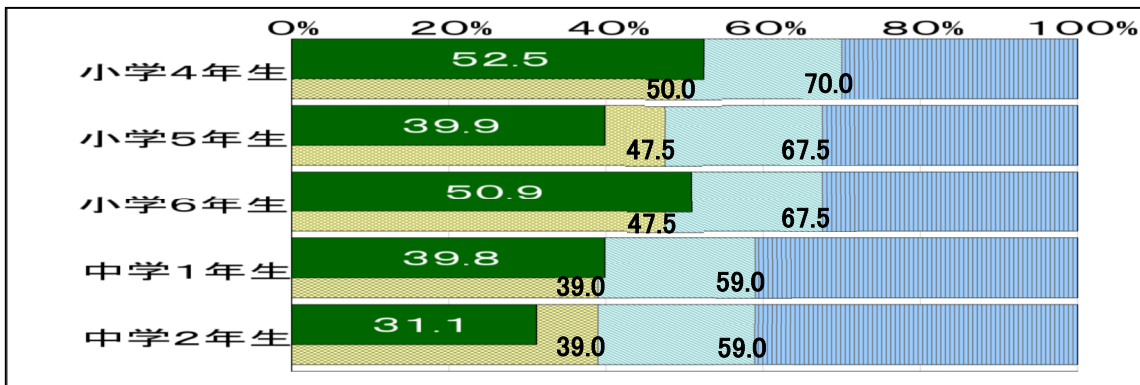
(1) 結果の概要

- 小・中学校共に教科正答率は、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。
[グラフ1]
- 「活用」に関する問題については、小学5年生と中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ2]
- 観点別に見ると、小学4年生と中学1年生は、全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。「数量や図形についての（数学的な）技能」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。特に、小学6年生で「十分達成」の基準を上回っている。「数学的な考え方（見方や考え方）」については、小学5年生と小学6年生、中学2年生、「数量や図形（など）」についての知識・理解については、小学5年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ3～5]
- 内容・領域別に見ると、小学校では、全ての学年の全ての内容・領域で「おおむね達成」の基準を上回っている。特に「量と測定」については、小学4年生で「十分達成」の基準を上回っている。中学校では、「数と式」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「関数」、「資料の活用」については、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ6～10]

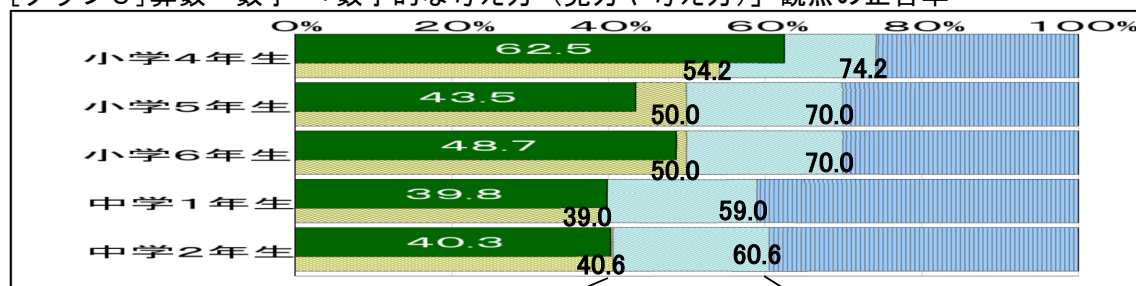
[グラフ1]算数・数学 教科正答率



[グラフ2]算数・数学 「活用」に関する問題の正答率



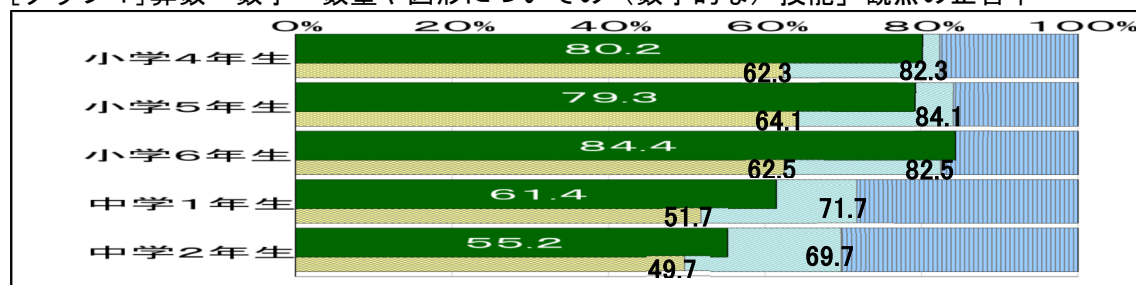
[グラフ3]算数・数学 「数学的な考え方（見方や考え方）」観点の正答率



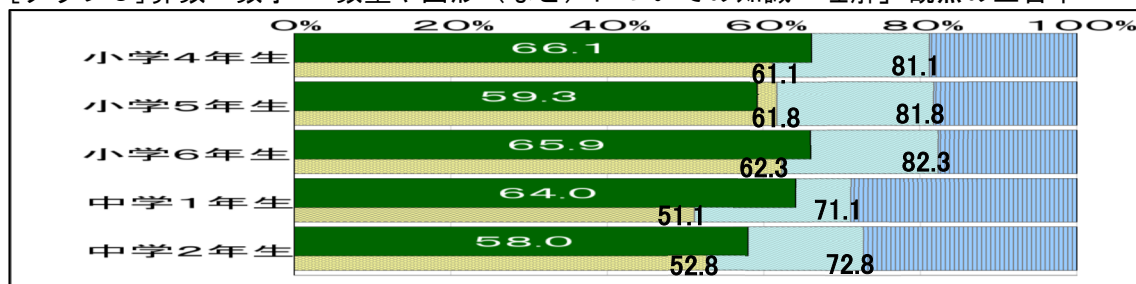
「おおむね達成」の基準

「十分達成」の基準

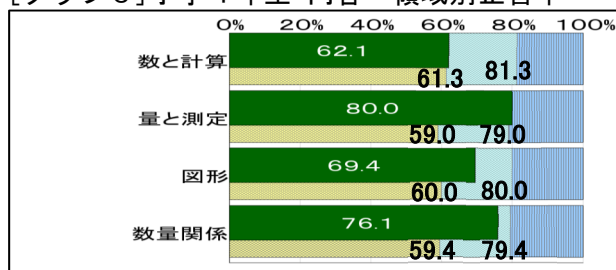
[グラフ4]算数・数学「数量や図形についての（数学的な）技能」観点の正答率



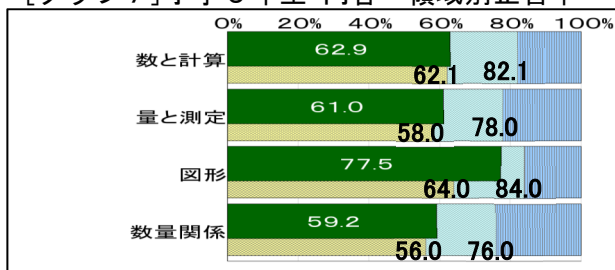
[グラフ5]算数・数学 「数量や図形（など）についての知識・理解」観点の正答率



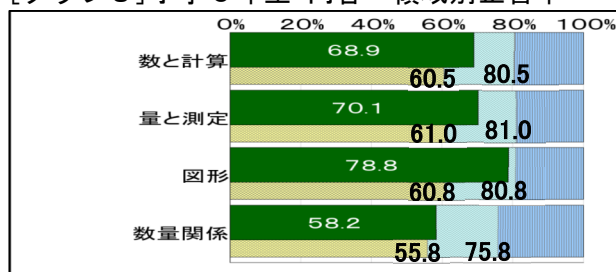
[グラフ6]小学4年生 内容・領域別正答率



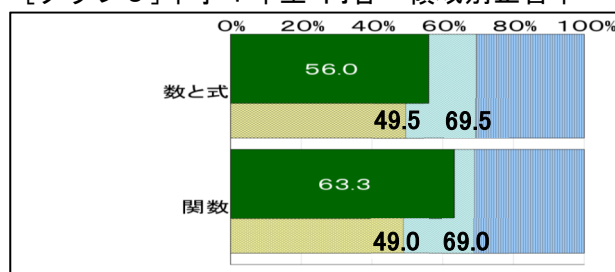
[グラフ7]小学5年生 内容・領域別正答率



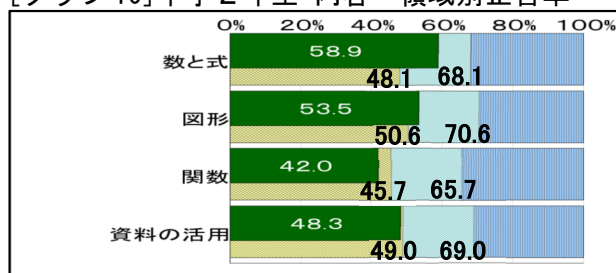
[グラフ8]小学6年生 内容・領域別正答率



[グラフ9]中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ10]中学2年生 内容・領域別正答率



(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

小学校算数（小学4年生、小学5年生、小学6年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 整数、小数、分数の乗法や除法の基礎的な技能の設問について、相当数の児童ができている。
(小学4年生¹1)(2)(3)、小学5年生¹1)(2)(4)、小学6年生¹2)(3)(4))
- ◇ 図形の合同や縮図、拡大図についての基礎的な知識や技能が身に付いている。
(小学5年生⁹、小学6年生⁴)
- ◆ 1 乗数と積の関係、除数と商の関係の理解に課題が見られる。
(小学5年生⁴1)、小学6年生²2))
- ◆ 2 単位量当たりの大きさを求める式の理解に一部課題が見られる。
(小学5年生³1)、小学校6年生¹⁰)
- ◆ 3 グラフや図を基に、判断したことを、根拠を明らかにして説明することに一部課題が見られる。
(小学4年生¹²、小学5年生¹¹、小学6年生¹²)

指導改善のポイント

- ◆ 1 乗数と積の関係、除数と商の関係を理解させるためには、乗数と積の大きさ、除数と商の大きさを比べる活動を設定し、乗数が1より小さいとき積は被乗数より小さくなること、除数が1より小さいとき商は被除数より大きくなることを理解させることが必要である。その際には、数量の関係を、数直線や図などで表したり、言葉の式に数を当てはめたりして捉えられるようにし、乗数と積の大きさの関係、除数と商の大きさの関係を適切に捉えさせることが大切である。
- ◆ 2 単位量当たりの大きさを求める式の意味を理解させるためには、式の表し方や計算の結果の数値の意味を考える活動を設定することが大切である。その際には、例えば、部屋の混み具合を比べる場面において、問題場面を基に、部屋の広さとそこにいる人の数を絵や図に表すなどして、その数量の関係を捉えられるようにし、立式させることが大切である。また、単位量の選び方によって、計算の結果の数値が大きい方が混んでいる場合と、小さい方が混んでいる場合があるので、計算の結果の数値が何を表しているのかについて、絵や図を用いながら話し合わせるなどして、その数値の意味を理解して判断できるようにすることが大切である。
- ◆ 3 判断したことを根拠を明らかにして説明する力を育成するためには、児童が言葉や数、式、表、グラフなどを関連付けて考え、説明する活動を設定することが必要である。その際には、特定の児童の正しい説明の発表で終わるのではなく、誤った判断をしている説明を取り上げ、なぜその判断が誤っているのかを考えさせたり、根拠となる事柄が不足している説明を取り上げ、説明として何が不足しているのかについて、言葉や数、式、表、グラフなどを基に話し合わせたりすることが大切である。また、児童一人一人に、考えたり話し合ったりした内容を振り返らせ、説明の中で必要だった根拠となる事柄を確認させたり、もう一度自分なりに説明させ、ノートにまとめさせたりすることも大切である。



ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。「導入の段階の工夫」や「練習合いの段階の工夫」をした授業づくりについて提案しています。授業づくりに役立ててください。

(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

中学校数学（中学１年生、中学２年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 正の数と負の数の減法、一次式の減法、同類項をまとめる計算、整式の加法と減法の技能が身に付いている。 (中学１年生 $\boxed{1}\boxed{1}\boxed{2}\boxed{1}$ 、中学２年生 $\boxed{1}\boxed{1}\boxed{2}$)
- ◇ グラフから必要な情報を読み取ることができている。 (中学１年生 $\boxed{11}\boxed{1}$ 、中学２年生 $\boxed{12}\boxed{1}$)
- ◆ 1 具体的な事象の中の数量の関係を捉えて方程式をつくることに課題が見られる。 (中学１年生 $\boxed{7}$ 、中学２年生 $\boxed{4}$)
- ◆ 2 比例の式や反比例の式に表すこと、一次関数の式に表すことに課題が見られる。 (中学１年生 $\boxed{9}\boxed{5}\boxed{10}\boxed{2}$ 、中学２年生 $\boxed{12}\boxed{2}$)
- ◆ 3 事柄が成り立つ理由を説明すること、予想した事柄を説明すること、考えを数学的な表現を用いて説明することに一部課題が見られる。 (中学１年生 $\boxed{8}\boxed{2}$ 、中学２年生 $\boxed{5}\boxed{2}\boxed{3}\boxed{13}\boxed{2}$)

指導改善のポイント

- ◆ 1 具体的な事象の中の数量の関係を捉えて方程式をつくることができるようにするためには、問題場面を表、線分図、言葉の式などに表すなどして、問題の中の数量やその関係を整理し、相等関係にある２つの数量を見出させることが大切である。相等関係を等号で結んだ際には、単位にも着目することでそれらが相等関係にあることを確認する場面を設定することも必要である。
- ◆ 2 伴って変わる２つの数量の関係を式に表すことができるようにするためには、比例や反比例、一次関数の意味の理解を深め、表やグラフの特徴と式を関連付けて考察する場面を設定することが大切である。その際には、 $y=ax$ 、 $y=a/x$ 、 $y=ax+b$ の式に x 、 y の値の組を代入して、計算で求めさせることも必要である。さらに、比例や反比例では、様々な x 、 y の値の組に対して比例定数 a が一定になり、比例定数を求めれば比例や反比例の式が決まること、一次関数 $y=ax+b$ では、変化の割合や傾きを表す a と切片を表す b を、表、式、グラフを相互に関連付けて求めることができるように指導することも必要である。
- ◆ 3 事柄が成り立つ理由や予想した事柄、考えなどを数学的な表現を用いて説明する力を育成するためには、実生活の場面における問題を数学的に解決する活動を取り入れ、数学的な表現を用いて記述したり説明したりする活動を行うことが大切である。その際には、数学的な表現を用いて説明する活動である「見いだした事柄や事実を説明する活動」「事柄を調べる方法や手順を説明する活動」「事柄が成り立つ理由を説明する活動」を授業の中に計画的・継続的に設定することが必要である。その中で、例を参考にしたり、与えられた言葉をキーワードとして用いたりするなどの条件に合わせて、ノートやワークシートに記述したり、口頭で説明したり、振り返ってまとめたりできるようにすることが大切である。



ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。数学的に説明し伝え合う活動を充実させた第１・２学年の「詳細授業展開案」と「ワークシート」を提案しています。内容・領域「関数」「図形」の授業づくりに役立ててください。

(3) 各学年の設問ごとの正答率

【表1】 小学校4年生 算数 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,387	71.2	1.4	80.0	60.0	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の 内容・領域等	数と計算	8	62.1	1.1	81.3	61.3	◎
	量と測定	5	80.0	0.6	79.0	59.0	
	図形	5	69.4	1.8	80.0	60.0	
	数量関係	8	76.1	2.1	79.4	59.4	
評価の観点	①考え方	6	62.5	2.9	74.2	54.2	
	②技能	11	80.2	0.7	82.3	62.3	
	③知識・理解	9	66.1	1.4	81.1	61.1	
問題形式	選択式	5	68.8	1.2	81.0	61.0	
	短答式	19	72.5	1.1	80.8	60.8	
	記述式	2	65.6	5.0	70.0	50.0	
活用	「活用」に関する問題	3	52.5	4.5	70.0	50.0	

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率			到達状況
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
1	(1)	2位数×2位数の乗法の計算をすることができる	○					○		○				84.6	0.3	A	85	65	
1	(2)	除数が2位数で、被除数が3位数である除法の計算をすることができる	○					○		○				81.5	1.3	A	85	65	
1	(3)	1／10の位までの小数の加法の計算をすることができる	○					○		○				86.1	0.3	A	85	65	◎
1	(4)	()を用いた式の計算をすることができる			○			○		○				95.7	0.5	A	85	65	◎
2	(1)	分度器を用いて180°より小さい角の大きさを求めることができる	○					○		○				91.1	0.1	A	85	65	◎
2	(2)	180°より大きい角の大きさを求めることができる	○					○		○				77.4	0.7	B	80	60	
2	(3)	正方形の面積を求めることができる	○					○		○				83.2	0.6	B	80	60	◎
3		図と言葉の説明を基に、図形の面積を求める式を考えることができる	○					○		○				77.8	0.4	C	75	55	◎
4	(1)	億の単位について理解している	○						○	○				35.5	0.7	A	85	65	▼
4	(2)	示された位までの概数にする際、一つ下の位の数を四捨五入して処理する方法について理解している	○						○	○				79.7	0.3	B	80	60	
4	(3)	千億の位までの数を、数直線から読み取ることができる	○					○		○				55.2	1.3	B	80	60	▼
4	(4)	長方形の面積の公式を理解し、面積と縦の長さから、横の長さを考えることができる			○			○		○				79.5	0.8	B	80	60	
5		示された解決方法を理解し、その解決方法を用いて別の問題のおはじきの数の求め方を説明することができる			○			○				○	○	79.2	2.2	D	70	50	◎
6		除数と被除数を同じ数で割っても商は変わらないことを理解している	○						○	○				47.7	0.8	B	80	60	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と計算	図形	数量関係		①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
7	(1)	日常生活の中で必要となる時刻を求めることができる	○				○		○				70.7	1.2	C	75	55	
7	(2)	未知の数量を□を用いて表現し、立式することができる		○			○		○				64.2	1.2	B	80	60	
7	(3)①	分配法則について理解している		○				○	○				77.6	2.0	B	80	60	
7	(3)②	計算を簡単に行う工夫について理解している		○				○	○				67.7	2.2	A	85	65	
8		折れ線グラフを読み取ることができる		○			○		○				92.9	0.5	A	85	65	◎
9		長方形の辺と辺の垂直の関係を理解している	○					○	○				49.0	1.6	A	85	65	▼
10	(1)	平行四辺形は、向かい合う辺の長さが等しいという性質を理解している		○				○	○				93.7	0.7	D	70	50	◎
10	(2)	四角形の対角線について理解している		○				○	○				70.7	1.4	B	80	60	
11	(1)	正三角形の辺の長さを基に、示された辺の長さを考えることができる		○			○		○				60.5	2.6	B	80	60	
11	(2)	台形の特徴を理解している		○				○	○				73.0	2.5	A	85	65	
12		折れ線グラフが、示された条件に合っていない理由を説明することができる		○			○			○	○		52.1	7.7	D	70	50	
13		代金と持っている硬貨の種類から、おつりの硬貨の枚数を最も少なくするために支払う金額を考えることができる	○				○		○	○	○		26.2	3.5	D	70	50	▼

【表2】小学校5年生 算数 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,150	64.6	1.5	80.6	60.6	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の 内容・領域等	数と計算	12	62.9	1.3	82.1	62.1	
	量と測定	5	61.0	1.2	78.0	58.0	
	図形	5	77.5	1.0	84.0	64.0	
	数量関係	5	59.2	2.6	76.0	56.0	
評価の観点	①考え方	5	43.5	4.8	70.0	50.0	▼
	②技能	11	79.3	0.5	84.1	64.1	
	③知識・理解	11	59.3	0.9	81.8	61.8	▼
問題形式	選択式	12	59.9	0.8	80.8	60.8	▼
	短答式	13	72.0	0.9	82.3	62.3	
	記述式	2	43.7	9.1	67.5	47.5	▼
活用	「活用」に関する問題	4	39.9	5.6	67.5	47.5	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率			到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式			問題分類	十分達成	おおむね達成	
1	(1)	被乗数、乗数が共に小数の乗法の計算をすることができる	○				○		○			82.7	0.1	A	85	65	
1	(2)	被除数、除数が共に小数の除法の計算をすることができる	○				○		○			83.6	0.2	A	85	65	
1	(3)	被除数が整数、除数が小数の除法の計算をすることができる	○				○		○			71.1	0.4	A	85	65	
1	(4)	減法と乗法の混合した整数の計算をすることができる			○		○		○			84.6	0.2	A	85	65	
2	(1)	数直線から1/10の位までの小数を読み取ることができる	○				○		○			90.6	0.3	A	85	65	◎
2	(2)	二つの整数の最大公約数を求めることができる	○				○		○			61.4	1.4	A	85	65	▼
2	(3)	小数の除法の計算で、除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらないことを理解している	○				○		○			64.7	0.5	B	80	60	
2	(4)	小数を1000倍した数をつくらることができる	○				○		○			69.0	0.6	B	80	60	
3	(1)	単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解している	○				○		○			64.2	0.3	B	80	60	
3	(2)	面積の感覚を身に付けている	○				○		○			64.5	0.2	B	80	60	
3	(3)	四則の混合した式の意味について理解している			○		○		○			69.3	0.3	B	80	60	
4	(1)	小数の計算における除数と商の大きさの関係について理解している	○				○		○			41.8	2.8	B	80	60	▼
4	(2)	分数の大小について理解している	○				○		○			72.4	0.8	A	85	65	
5		二つの数量の関係を口、△などを用いて式に表すことができる			○		○		○			73.9	0.5	B	80	60	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	① 考え方	② 技能	③ 知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
6	(1)	場面と図とを関連付けて、二つの数量の関係を理解している	○					○	○				38.8	0.4	A	85	65	▼
6	(2)	基準量が比較量より大きい場合において、何倍かを求めるために除法が用いられることを理解している	○					○		○			33.2	1.5	B	80	60	▼
7	(1)	立方体の体積を求めることができる		○				○		○			72.0	0.6	A	85	65	
7	(2)	立体の体積の求め方を考えることができる		○				○		○			58.2	1.4	B	80	60	▼
7	(3)	ひし形について理解している			○			○	○				95.8	0.3	A	85	65	◎
7	(4)	平行四辺形の特徴を理解している			○			○	○				75.8	0.6	A	85	65	
8		2つのグラフを関連付けて読み取り、人口の変化の様子を考えることができる			○			○	○		○		25.8	0.7	D	70	50	▼
9	(1)	合同な図形の対応する辺を判断することができる			○			○		○			92.7	0.6	A	85	65	◎
9	(2)	合同な図形の対応する点を判断することができる			○			○		○			91.1	0.7	A	85	65	◎
10		示された情報を基に、出場した試合の1試合当たりの得点の平均を考えることができる		○				○		○	○		46.3	3.6	E	65	45	
11		跳ぶことができた高さに着目して、示された事柄が正しくない理由を説明することができる	○					○			○	○	45.0	6.7	D	70	50	▼
12		合同な三角形をかくために必要な条件を理解している			○			○	○				32.0	2.9	B	80	60	▼
13		表から読み取ったことを基に、棒をグラフの枠の中に表すことができない場合を判断し、その理由を説明することができる			○			○			○	○	42.4	11.5	E	65	45	▼

【表3】 小学校6年生 算数 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,412	68.9	1.1	79.6	59.6	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の 内容・領域等	数と計算	10	68.9	1.2	80.5	60.5	
	量と測定	5	70.1	0.5	81.0	61.0	
	図形	6	78.8	0.9	80.8	60.8	
	数量関係	6	58.2	1.9	75.8	55.8	
評価の観点	①考え方	6	48.7	3.0	70.0	50.0	▼
	②技能	10	84.4	0.7	82.5	62.5	◎
	③知識・理解	11	65.9	0.6	82.3	62.3	
問題形式	選択式	11	62.2	0.4	81.4	61.4	
	短答式	14	77.7	1.2	80.0	60.0	
	記述式	2	44.7	4.8	67.5	47.5	▼
活用	「活用」に関する問題	4	50.9	3.7	67.5	47.5	

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率			到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
1	(1)	異分母分数の加法の計算をすることができる	○				○		○			77.2	0.5	A	85	65	
1	(2)	被乗数、乗数が共に真分数の乗法の計算をすることができる	○				○		○			89.2	0.4	A	85	65	◎
1	(3)	被除数が真分数、除数が仮分数の除法の計算をすることができる	○				○		○			91.6	0.5	A	85	65	◎
1	(4)	被乗数が仮分数、乗数が帯分数の乗法の計算をすることができる	○				○		○			81.2	0.9	B	80	60	◎
1	(5)	小数及び分数を含んだ除法の計算をすることができる	○				○		○			79.4	1.7	B	80	60	
2	(1)①	時間と長さから速さを求めることができる	○				○		○			92.0	0.4	A	85	65	◎
2	(1)②	逆数について理解している	○				○		○			78.1	2.1	A	85	65	
2	(2)	乗数や除数が分数である計算において、乗数や除数と計算の答えの大きさの関係について理解している	○				○		○			51.5	1.7	B	80	60	▼
3	(1)	場面と数直線を関連付けて、二つの数量の関係を理解している	○				○		○			44.5	0.3	B	80	60	▼
3	(2)	1に当たる大きさを求めるために、除法が用いられることを理解している	○				○		○			47.1	0.4	B	80	60	▼
4	拡大図	拡大図について理解している		○			○		○			97.1	0.1	A	85	65	◎
4	縮図	縮図について理解している		○			○		○			96.2	0.1	A	85	65	◎
5	(1)	xやyを用いた式の意味について理解している		○			○		○			54.1	0.2	B	80	60	▼
5	(2)	等しい比を求めることができる		○			○		○			95.8	0.2	A	85	65	◎

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係		① 考え方	② 技能	③ 知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
5	(3)	比較量と割合から、基準量を表す図を考えることができる			○		○			○				36.4	0.3	C	75	55	▼
5	(4)	反比例の関係を基に、未知の数量を求めて表に表すことができる			○			○			○			89.9	0.6	B	80	60	◎
6		切り上げた場合のおよその計算の結果を基に、ドーナツを買うことができる理由を説明することができる	○				○					○	○	49.3	3.3	E	65	45	
7		示された情報を基に、比の考え方をを用いて、10年前からの天山マラソンへの参加者数の増加量を考えることができる			○		○				○		○	33.0	3.7	E	65	45	▼
8	(1) 線対称	線対称な図形について理解している		○					○	○				83.1	0.3	A	85	65	
8	(1) 点対称	点対称な図形について理解している		○					○	○				62.8	0.4	A	85	65	▼
8	(2)	三角形の角の大きさの和を基に、五角形の角の大きさの和を考えることができる		○			○				○			51.9	2.9	C	75	55	▼
9	(1)	円の面積を求めることができる		○				○			○			84.3	0.5	B	80	60	◎
9	(2)	三角柱の体積を求めることができる		○				○			○			63.3	1.0	B	80	60	
9	(3)	平行四辺形の面積を求める公式を理解している		○					○	○				69.8	0.3	B	80	60	
10		単位量当たりの大きさを求める計算の意味を理解している		○					○	○				41.1	0.4	B	80	60	▼
11		縮図や拡大図の考え方をを用いて、写真に写っている人物の実際の身長を考えることができる		○			○				○		○	81.3	1.7	D	70	50	◎
12		グラフから10月と11月にけがをした人の数を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を説明することができる			○		○					○	○	40.1	6.3	D	70	50	▼

〔表4〕 中学校1年生 数学 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,150	58.5	6.5	69.3	49.3	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の 内容・領域等	数と式	19	56.0	7.1	69.5	49.5	
	関数	10	63.3	5.5	69.0	49.0	
評価の観点	①見方や考え方	5	39.8	16.0	59.0	39.0	
	②技能	15	61.4	5.2	71.7	51.7	
	③知識・理解	9	64.0	3.5	71.1	51.1	
問題形式	選択式	7	62.9	3.4	69.3	49.3	
	短答式	19	60.5	5.8	71.3	51.3	
	記述式	3	35.8	18.4	56.7	36.7	▼
活用	「活用」に関する問題	5	39.8	16.0	59.0	39.0	

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用	県正答率	県無解答率	期待 正答率			到達状況
		数と式	関数			①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式 「活用」に関する問題			問題分類	十分達成	おおむね達成	
1	(1)	正の数と負の数の減法の計算をすることができる	○				○		○			83.5	0.7	A	75	55	◎
1	(2)	四則を含む正の数と負の数の計算をすることができる	○				○		○			66.9	1.0	A	75	55	
1	(3)	指数を含む数の計算をすることができる	○				○		○			70.5	1.4	B	70	50	◎
2	(1)	一次式の減法の計算をすることができる	○				○		○			83.2	2.4	A	75	55	◎
2	(2)	一次式を数でわる計算をすることができる	○				○		○			61.6	6.2	A	75	55	
2	(3)	分配法則を用いて、一次式の加法、減法の計算をすることができる	○				○		○			46.2	7.9	B	70	50	▼
3	(1)	正の数と負の数にまで拡張した数の範囲で、数の大小関係を理解している	○				○		○			29.4	4.4	B	70	50	▼
3	(2)	絶対値について理解している	○				○		○			86.4	3.9	A	75	55	◎
3	(3)	正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて理解している	○				○		○			77.7	3.6	B	70	50	◎
4	(1)	数量の関係を文字式に表すことができる	○				○		○			13.5	11.5	C	65	45	▼
4	(2)	文字の値が整数のときに、式の値について理解している	○				○		○			29.5	9.1	B	70	50	▼
5	(1)	指数を含む文字式に数を代入して式の値を求めることができる	○				○		○			43.4	7.0	B	70	50	▼
5	(2)	簡単な一元一次方程式を解くことができる	○				○		○			72.3	6.3	A	75	55	
5	(3)	簡単な比例式を解くことができる	○				○		○			87.0	5.1	A	75	55	◎

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と式	関数			①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式	「活用」に関する問題			問題分類	十分達成	おおむね達成	
6	(1)	不等式の意味を、具体的な事象と結び付けて説明することができる	○				○				○	○	29.1	12.7	D	60	40	▼
6	(2)	数量の大小関係を不等式に表すことができる	○				○		○				62.7	2.0	B	70	50	
7		具体的な事象の中の数量の関係を捉え、一元一次方程式をつくることができる	○				○			○	○		9.6	21.3	D	60	40	▼
8	(1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	○				○			○			89.3	2.7	C	65	45	◎
8	(2)	事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	○				○				○	○	22.2	24.8	E	55	35	▼
9	(1)	関数の意味を理解している	○					○	○				85.2	1.4	B	70	50	◎
9	(2)	座標平面上に点の位置を示すことができる	○					○		○			86.6	1.4	A	75	55	◎
9	(3)	比例の関係を表す表の特徴を理解している	○					○	○				75.1	1.5	B	70	50	◎
9	(4)	比例の式とグラフの関係について理解している	○					○	○				70.4	2.1	B	70	50	◎
9	(5)	比例の関係を式に表すことができる	○				○			○			28.6	9.8	B	70	50	▼
10	(1)	反比例の関係を表す表から、表中の値を求めることができる	○				○			○			81.6	3.1	A	75	55	◎
10	(2)	反比例の関係を式に表すことができる	○				○			○			31.5	10.4	B	70	50	▼
10	(3)	グラフ上にある点のx座標とy座標の組が、その式を満たしていることを理解している	○					○	○				35.5	3.9	B	70	50	▼
11	(1)	グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈することができる	○				○		○		○		82.1	3.5	C	65	45	◎
11	(2)	グラフや式などを基に、求め方を数学的な表現を用いて説明することができる	○				○				○	○	56.1	17.8	E	55	35	◎

【表5】中学校2年生 数学 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,338	52.4	13.2	68.3	48.3	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の 内容・領域等	数と式	13	58.9	15.6	68.1	48.1	
	図形	8	53.5	6.7	70.6	50.6	
	関数	7	42.0	17.2	65.7	45.7	▼
	資料の活用	5	48.3	11.5	69.0	49.0	▼
評価の観点	①見方や考え方	8	40.3	22.6	60.6	40.6	▼
	②技能	16	55.2	12.3	69.7	49.7	
	③知識・理解	9	58.0	6.3	72.8	52.8	
問題形式	選択式	7	51.2	4.2	69.3	49.3	
	短答式	22	56.9	12.1	69.8	49.8	
	記述式	4	29.7	34.7	58.8	38.8	▼
活用	「活用」に関する問題	5	31.1	32.4	59.0	39.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率			到達状況
			数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式			問題分類	十分達成	おおむね達成	
1	(1)	同類項をまとめる計算をすることができる	○					○		○			87.5	1.6	A	75	55	◎
1	(2)	整式の加法、減法の計算をすることができる	○					○		○			79.2	3.7	B	70	50	◎
1	(3)	単項式どうしの乗法の計算をすることができる	○					○		○			86.1	3.2	A	75	55	◎
1	(4)	単項式どうしの除法の計算をすることができる	○					○		○			80.4	3.4	A	75	55	◎
2	(1)	文字式に数を代入して式の値を求めることができる	○					○		○			46.1	16.1	B	70	50	▼
2	(2)	等式を目的に応じて変形することができる	○					○		○			51.5	13.4	B	70	50	
2	(3)	数量の関係を文字式で表すことができる	○					○		○			26.5	26.6	C	65	45	▼
3	(1)	連立二元一次方程式を解くことができる	○					○		○			72.1	8.6	B	70	50	◎
3	(2)	連立二元一次方程式を解くことができる	○					○		○			59.3	13.8	B	70	50	
4		具体的な事象の中の数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくることができる	○					○		○	○		36.7	23.3	D	60	40	▼
5	(1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	○					○		○			76.0	9.3	C	65	45	◎
5	(2)	事柄が成り立つ理由を、示された方針に基づいて説明することができる	○					○			○	○	18.8	44.6	D	60	40	▼
5	(3)	発展的に考え、予想した事柄を説明することができる	○					○			○	○	45.4	35.1	D	60	40	
6		点対称移動した図形をかくことができる	○					○		○			33.3	6.7	B	70	50	▼

設問別集計結果

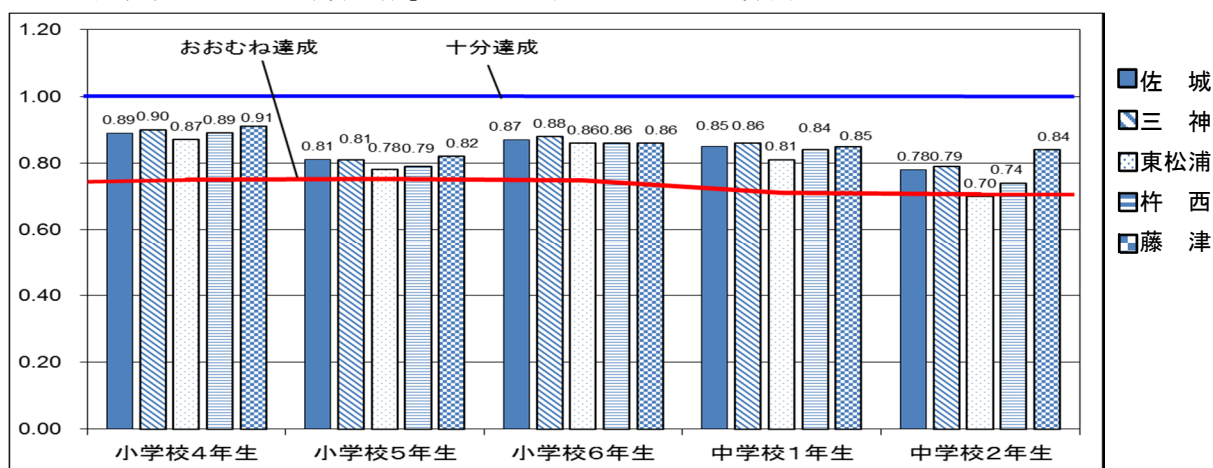
問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
			数と式	図形	関数	資料の活用		①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
7	(1)	空間における直線と直線との位置関係について理解している	○						○		○				68.1	3.7	B	70	50	
7	(2)	底面が合同で高さが等しい三角柱と三角錐の体積の関係について理解している	○						○		○				46.8	1.9	A	75	55	▼
8		見取図と展開図を関連付けて、その特徴を的確に捉えることができる	○					○			○				40.0	2.4	C	65	45	▼
9	(1)	錯角の意味を理解している	○						○		○				66.6	1.6	A	75	55	
9	(2)	多角形の外角の意味を理解している	○						○		○				62.1	4.9	A	75	55	
9	(3)	命題の仮定と結論を区別し、与えられた命題の仮定について理解している	○						○		○				67.6	11.2	A	75	55	
10		証明を見直して、改善することができる	○					○				○	○		43.7	21.8	D	60	40	
11	(1)	一次関数の変化の割合の意味を理解している		○					○		○				56.9	17.3	A	75	55	
11	(2)	二元一次方程式の解を座標とする点の集合は、直線として表されることを理解している		○					○		○				35.5	3.9	B	70	50	▼
11	(3)	一次関数 $y=ax+b$ について、 a と b の値とグラフの特徴を関連付けて理解している		○					○		○				67.6	4.5	B	70	50	
12	(1)	グラフから必要な情報を読み取ることができる		○					○		○				77.0	4.5	C	65	45	◎
12	(2)	グラフから伴って変わる二つの数量を見いだし、式に表すことができる		○					○		○				4.8	29.9	D	60	40	▼
13	(1)	与えられたグラフを基に、事象に対応させてその変化や対応の様子を読み取ることができる		○					○		○				40.8	23.2	C	65	45	▼
13	(2)	グラフから情報を読み取り、考えを数学的な表現を用いて説明することができる		○				○				○	○		11.6	36.9	E	55	35	▼
14	(1)	与えられた資料から中央値を求めることができる			○				○		○				32.1	12.1	B	70	50	▼
14	(2)	与えられた資料の度数分布表について、ある階級の度数を求めることができる			○				○		○				69.9	9.7	A	75	55	
15		度数分布表から相対度数を求めることができる			○				○		○				37.2	20.9	B	70	50	▼
16		資料の傾向を的確に捉えることができる			○			○			○				50.9	7.2	D	60	40	
17		有効数字の表し方について理解している			○				○		○				51.4	7.8	B	70	50	

(4) 地域別の状況

- 県内5地域における学年別教科正答率の「十分達成」に対する状況は、小学校4・5・6年生、中学校1年生で、5地域とも「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ11]
- 県内5地域における学年別教科正答率の対県比は[表6]のとおりで、中学校2年生で地域差が最も大きい。また、4月調査と比べると、小学校5・6年生で地域差が縮小し、中学校1・2年生で拡大している。

[グラフ11] 県内5地域における学年別教科正答率の「十分達成」に対する状況

※ 各学年における「十分達成」の到達基準を1.00として算出



[表6] 県内5地域における学年別教科正答率の対県比

学年・教科		実施年度	対県比(地域教科正答率/県教科正答率)					地域差
			佐城	三神	東松浦	杵西	藤津	
小学校4年生	算数	H28[12月]	1.00	1.01	0.98	1.00	1.02	0.04
		H28[4月]	—	—	—	—	—	—
小学校5年生	算数	H28[12月]	1.01	1.00	0.98	0.99	1.02	縮 0.04
		H28[4月]	1.01	1.00	0.97	1.01	1.04	0.07
小学校6年生	算数	H28[12月]	1.00	1.01	0.99	1.00	0.99	縮 0.02
		H28[4月]	1.01	1.02	0.96	1.00	1.00	0.06
中学校1年生	数学	H28[12月]	1.01	1.02	0.95	0.99	1.01	拡 0.07
		H28[4月]	1.02	1.02	0.97	0.96	1.00	0.06
中学校2年生	数学	H28[12月]	1.02	1.03	0.91	0.96	1.10	▲拡 0.19
		H28[4月]	1.02	1.02	0.92	0.97	1.09	▲ 0.17

※ 「対県比」は、県正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「縮」は、平成28年度[4月調査]より地域差が縮小した教科を、「拡」は拡大した教科を示す

※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐 城	佐賀市、多久市、小城市
三 神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵 西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤 津	鹿島市、嬉野市、太良町

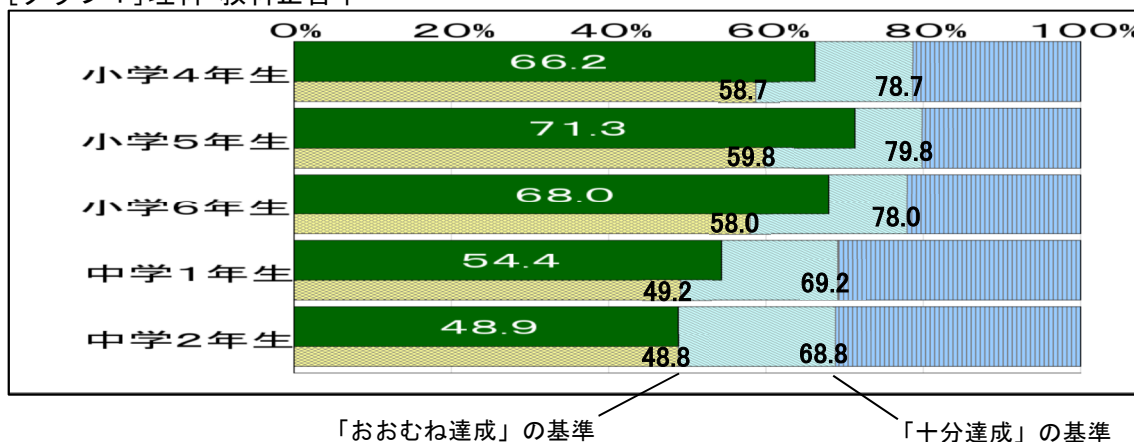
Ⅲ 教科ごとの調査結果とその分析

理 科

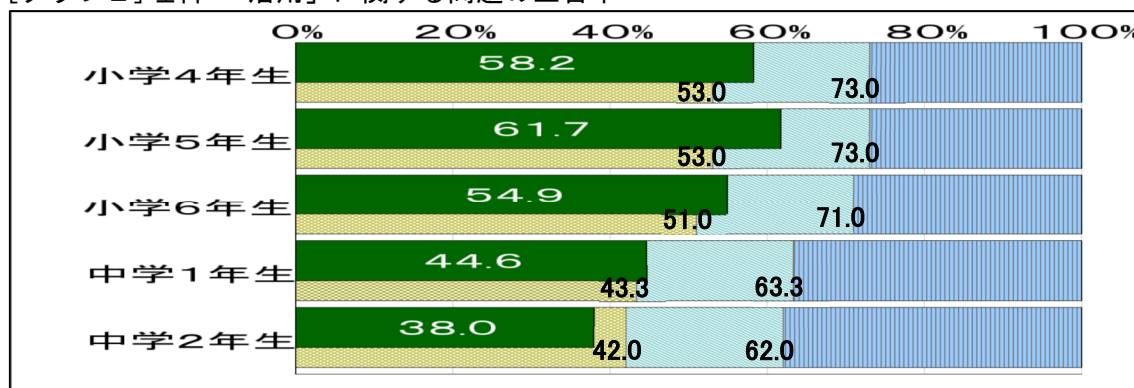
(1) 結果の概要

- 小・中学校共に教科正答率は、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ1]
- 「活用」に関する問題については、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ2]
- 観点別に見ると、小学校5年生と小学校6年生、中学1年生は、全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。「観察・実験の技能」については、小学校4年生、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ3～5]
- 内容・領域別に見ると、小学校では、全ての学年の全ての内容・領域で「おおむね達成」の基準を上回っている。中学校では、「生物学的領域」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「化学的領域」については、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ6～10]

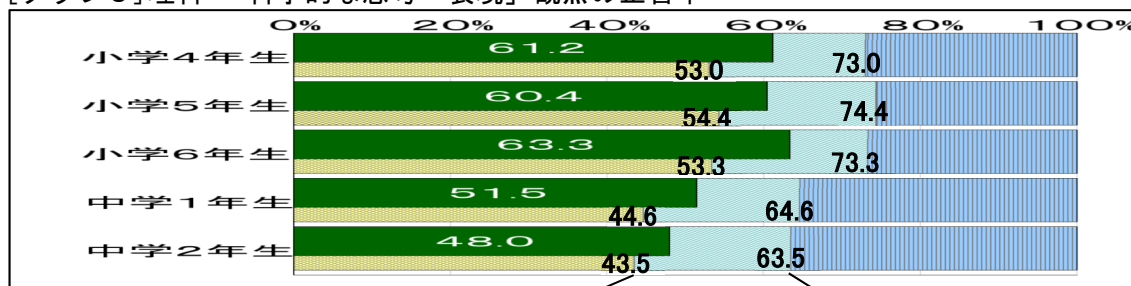
[グラフ1] 理科 教科正答率



[グラフ2] 理科 「活用」に関する問題の正答率



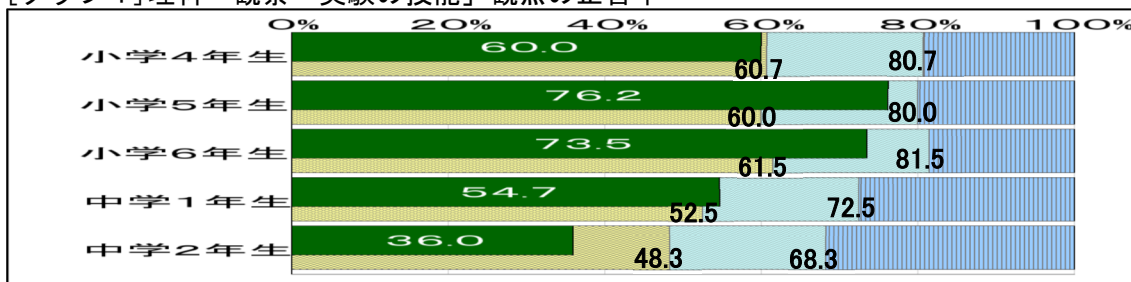
[グラフ3]理科 「科学的な思考・表現」観点の正答率



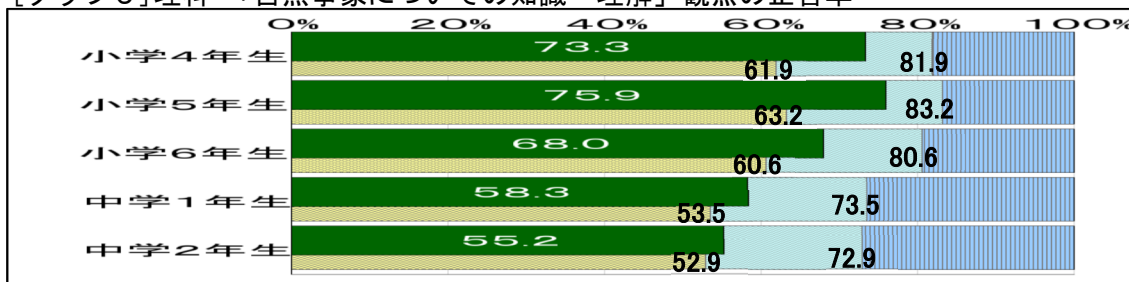
「おおむね達成」の基準

「十分達成」の基準

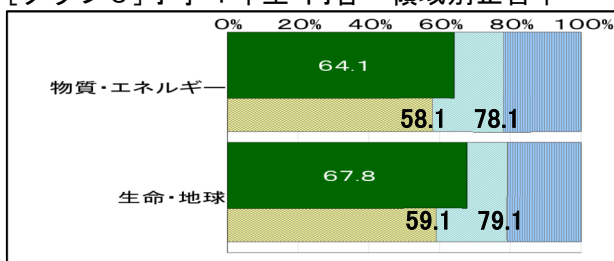
[グラフ4]理科「観察・実験の技能」観点の正答率



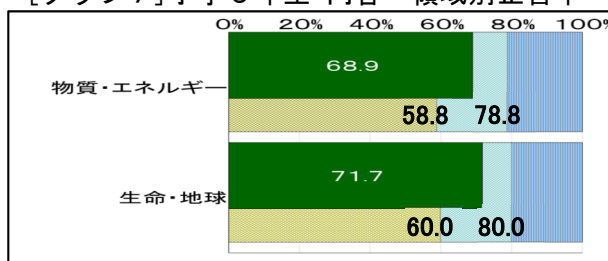
[グラフ5]理科 「自然事象についての知識・理解」観点の正答率



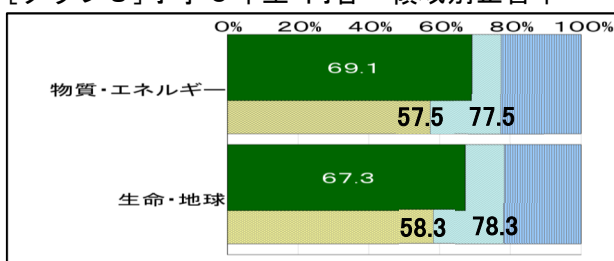
[グラフ6]小学4年生 内容・領域別正答率



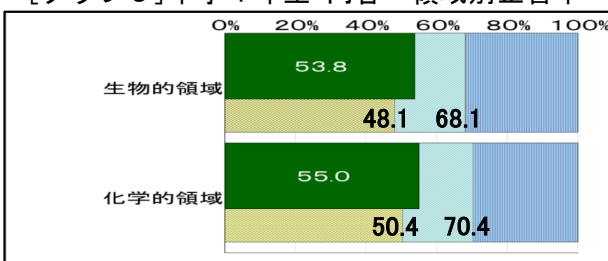
[グラフ7]小学5年生 内容・領域別正答率



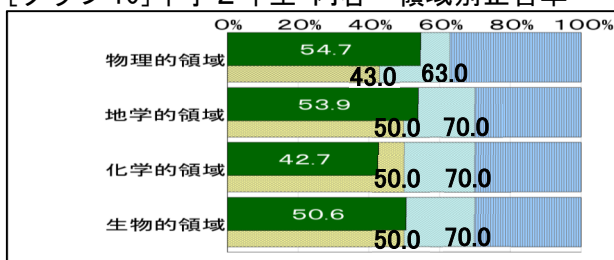
[グラフ8]小学6年生 内容・領域別正答率



[グラフ9]中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ10]中学2年生 内容・領域別正答率



(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

小学校理科（小学4年生、小学5年生、小学6年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 観察・実験の記録の方法が身に付いている。 (小学4年生[4](1)、小学5年生2)
- ◇ 変化とその要因を関係付けて言葉で説明することについて、同一学年の経年比較をすると、平成27年度[12月調査]から改善の傾向が見られる。
(「十分達成」の基準を1とした場合…4年生 H27:0.80→H28:0.84、5年生 H27:0.57→H28:0.65)
(小学4年生[6](3)[7](9)[4](10)、小学5年生[5](2)[6](2)[10](1))
- ◆1 観察・実験の目的を考え、結果を考察することに課題が見られる。
(小学5年生[9](2)、小学6年生[5](1))
- ◆2 観察・実験に使用する器具を適切に取り扱うことに課題が見られる。
(小学4年生[8](3)、小学5年生[10](2))
- ◆3 日常生活で見られる事象や状況が異なる事象を、学習したことを活用して考え、説明することに一部課題が見られる。
(小学4年生[7]、小学5年生[5](2)、小学6年生[7](3))

平成27年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]Web 報告書 参照

指導改善のポイント

- ◆1 観察・実験の目的を考え、結果を考察する力を育成するためには、観察・実験の目的をはっきりさせ、結果について見通しをもたせることが必要である。その際には、観察・実験の計画を児童と一緒に立てるだけでなく、計画を立てる中で、どのような結果になりそうなのか、結果はどこに現れるのかということまで捉えさせる。このように、観察・実験の計画を立てるところから、結果について見通しをもたせて観察・実験を行わせることで、何に目を向けて考察すればよいかを明確にさせることが大切である。
- ◆2 観察・実験に使用する器具の適切な取り扱い方を身に付けさせるためには、児童が実際に器具を用いて観察・実験を行う活動を設定することが必要である。その際には、児童が実験を行うことを基本としながら、観察・実験の方法に合わせて、一人で・二人で・グループで、と様々な観察・実験の形態をとりながら児童全員が取り組めるような観察・実験を行わせることが大切である。例えば、グループで顕微鏡を使って観察する際に、反射鏡の向きを変えたり調節ねじを回してピントを合わせたりする一連の操作を一人の児童が行うだけでなく、交代して全ての児童が一連の操作をする場面を設定し、一人一人が器具を用いて観察・実験ができるようにすることが大切である。
- ◆3 日常生活で見られる事象や状況が異なる事象を、学習したことを活用して考え、説明する力を育成するためには、授業の中で条件を変えて実験するような学習活動を設定することが必要である。その際、複数回の観察・実験を行ったり、一つの方法だけでなく、別の方法で観察・実験に取り組んだりすることができるようにし、それらの結果を基に考察させることが大切である。例えば、磁石に引き付けられる物とそうでない物を見付ける実験では、磁石を一度付けるだけでなく、数回付けてみたり、付ける場所を変えたりするなどの活動を通して、事象を見るときの視点を与え、それらの結果を表や図にまとめたものを基に考察を記述させることが大切である。このような指導が、学習したことを日常生活の場面で説明する力の育成にもつながる。



ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの理科力向上サポート事業では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。事象提示から結論に至るまでの学習過程を理科の学習モデルとして提案しています。授業づくりに役立ててください。

(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

中学校理科（中学１年生、中学２年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 「生物的領域」では、植物を使った実験の結果から、植物のはたらきについて正しく考察することができている。
(中学１年生 $\boxed{3}\boxed{2}\boxed{4}\boxed{2}$)
- ◇ 「地学的領域」における地層や岩石などの基礎的な知識について、同一学年の経年比較をすると、平成 27 年度[12 月調査]から改善の傾向が見られる。
(「十分達成」の基準を 1 とした場合…… H27:0.50 → H28:0.70) (中学２年生 $\boxed{4}\boxed{2}\boxed{5}$)
- ◇ 「化学的領域」における化学変化の基礎的な知識について、同一学年の経年比較をすると、平成 27 年度[12 月調査]から改善の傾向が見られる。
(「十分達成」の基準を 1 とした場合…… H27:0.66 → H28:0.74) (中学２年生 $\boxed{6}\boxed{3}\boxed{7}\boxed{1}$)
- ◆ 1 実験結果を分析して解釈することについて、一部課題が見られる。
(中学１年生 $\boxed{3}\boxed{3}\boxed{8}$ 、中学２年生 $\boxed{8}\boxed{2}$)
- ◆ 2 観察・実験を正しい手順で安全に行う技能に一部課題が見られる。
(中学１年生 $\boxed{1}\boxed{2}\boxed{2}\boxed{1}\boxed{11}\boxed{1}$ 、中学２年生 $\boxed{6}\boxed{1}\boxed{7}\boxed{2}$)
- ◆ 3 日常生活や社会の特定の場面において、身に付けた知識・技能を活用することについて、一部課題が見られる。
(中学１年生 $\boxed{6}\boxed{10}\boxed{4}$ 、中学２年生 $\boxed{11}$)

平成 27 年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12 月調査]Web 報告書 参照

指導改善のポイント

- ◆ 1 実験結果を分析して解釈する力を育成するためには、実験を行った後に、個々の生徒が結果を基にした考察を自分自身で書くようにさせ、その考察を他の生徒に説明する活動を取り入れる必要がある。その際、結果と考察を区別して書くようにさせることが大切である。また、考察からまとめを行うときには、特定の生徒の発表で終わらずに、生徒同士の交流活動を通して、一人一人が書いた考察を深め合い、まとめにつなげることも大切である。
- ◆ 2 観察・実験を正しい手順で安全に行う力を育成するためには、実際に操作を行わせる中で観察・実験の技能を身に付けさせるとともに、その操作がどのような意味を持つかを理解させる必要がある。そのためには、グループでの観察・実験を特定の生徒だけが進めるのではなく、グループの全ての生徒が「自分だったらどうするだろう」という意識をもって、主体的に取り組めるようにすることが大切である。また、生徒に観察・実験の計画を立てさせることで、観察・実験に取り組む意欲を喚起し、観察・実験の見通しや役割意識をもたせることが大切である。
- ◆ 3 日常生活や社会の特定の場面において、身に付けた知識・技能を活用する力を育成するためには、日常生活に見られる事象から学習問題を導き出したり、学習した内容を使って日常生活に見られる事象を説明したりする活動を設定することが必要である。また、例えば、発電や光ファイバーなど、理科の授業で学習したことが様々な形で応用されて自分たちの生活を豊かにしていることに気付かせ、理科を学ぶことの有用性を実感させることも大切である。



ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの理科力向上サポート事業では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。生徒が主体的に観察・実験に取り組むことや、観察・実験の計画を立てること、結果と考察を書き分けることなどを意図した授業展開を紹介しています。授業づくりに役立ててください。

(3) 各学年の設問ごとの正答率

〔表1〕 小学校4年生 理科 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,402	66.2	1.7	78.7	58.7	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の 内容・領域等	物質・エネルギー	13	64.1	1.7	78.1	58.1	
	生命・地球	17	67.8	1.7	79.1	59.1	
評価の観点	①思考・表現	10	61.2	2.0	73.0	53.0	
	②技能	7	60.0	1.0	80.7	60.7	▼
	③知識・理解	13	73.3	1.7	81.9	61.9	
問題形式	選択式	16	65.5	0.8	80.0	60.0	
	短答式	9	71.4	2.2	80.0	60.0	
	記述式	5	59.0	3.5	72.0	52.0	
活用	「活用」に関する問題	5	58.2	2.4	73.0	53.0	

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率			到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球			①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式			問題分類	十分達成	おおむね達成	
1	(1)	はかりを適切に使い、重さを量ることができる	○				○		○			62.5	0.2	A	85	65	▼
1	(2)	物は、形が変わっても重さは変わらないことを理解している	○					○	○			95.9	0.1	A	85	65	◎
1	(3)	物の材質による重さの違いを、体積を同じにして調べることができる	○				○			○		69.5	1.4	B	80	60	
2	(1)	温度計を使って、地面の温度を正しく測定することができる	○				○				○	56.2	1.9	C	75	55	
2	(2)	日なたの地面と日陰の地面での明るさ、温かさ、湿り気の違いを理解している	○					○	○			70.7	0.2	B	80	60	
2	(3)	朝と正午に日なたと日陰の地面の温度を測定した結果を比較し、正午に日なたで測定した結果を考えることができる	○				○		○			77.7	0.5	C	75	55	◎
3	(1)	鉄は磁石に引き付けられることを理解している	○					○	○			48.6	0.5	A	85	65	▼
3	(2)	磁化された金属の極と磁石の性質とを関係付けて考えることができる	○				○			○		65.9	0.9	C	75	55	
3	(3)	磁石の性質を利用したおもちゃから、おもちゃの動きと磁石の性質とを関係付けて考えることができる	○				○		○		○	64.2	0.8	C	75	55	
4	(1)	観察したことを、適切に記録することができる	○				○		○			95.8	0.4	A	85	65	◎
4	(2)	季節ごとの生き物の様子を理解している	○					○	○			81.1	0.2	A	85	65	
5	(1)①	百葉箱の名称を理解している	○					○		○		83.2	3.3	A	85	65	
5	(1)②	百葉箱の特徴を理解している	○					○	○			74.3	0.8	B	80	60	
5	(2)①	気温が記録されたグラフを読むことができる	○				○			○		65.8	0.8	B	80	60	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」 に関する問題	県 正答率	県 無解答率	期待 正答率			到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球			①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
5	(2)②	気温が記録されたグラフから、その日の天気を考えることができる	○				○			○			93.0	1.2	C	75	55	◎
5	(2)③	グラフから、天気の説明に適した日を、気温の変化と天気を関係付けて考えることができる	○				○			○			28.6	1.1	D	70	50	▼
6	(1)	電気自動車が動かなかった理由を、電流の向きとモーターの動きとを関係付けて考えることができる	○				○			○		○	44.0	0.5	C	75	55	▼
6	(2)	乾電池を直列につなぐことができる	○				○			○			29.6	0.5	B	80	60	▼
6	(3)	光電池が発電する条件から、電気自動車を走らせる方法を考えることができる	○				○				○	○	79.7	2.8	C	75	55	◎
7		閉じ込めた空気と水に力を加える実験の結果を推測し、閉じ込めた空気は押し縮められるが水は押し縮められないことを説明することができる	○				○				○	○	33.0	2.5	D	70	50	▼
8	(1)	夏の大三角を理解している	○					○		○			73.9	3.6	A	85	65	
8	(2)	アンタレスの特徴を理解している	○					○		○			62.6	2.7	B	80	60	
8	(3)	星座早見を正しく使って、星を観察することができる	○				○			○			40.7	2.0	B	80	60	▼
9	(1)	腕を伸ばしたときの筋肉の収縮を理解している	○					○		○			64.9	1.3	B	80	60	
9	(2)	指の関節の動きを理解している	○					○		○			50.3	2.1	B	80	60	▼
9	(3)	骨の働きを理解している	○					○		○			77.2	1.7	B	80	60	
9	(4)	蛇の動きについて、関節の働きを基に説明することができる	○				○				○		56.0	4.7	D	70	50	
10	(1)	温度の変化による水の体積変化を理解している	○					○		○			92.2	2.0	B	80	60	◎
10	(2)	温度の変化による金属の体積変化を理解している	○					○		○			78.4	3.9	B	80	60	
10	(3)	紙風船が膨らんだ理由を、温度の変化による空気の体積変化と関係付けて考えることができる	○				○				○	○	70.1	5.5	D	70	50	◎

【表2】 小学校5年生 理科 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,174	71.3	0.9	79.8	59.8	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の 内容・領域等	物質・エネルギー	4	68.9	0.5	78.8	58.8	
	生命・地球	26	71.7	0.9	80.0	60.0	
評価の観点	①思考・表現	9	60.4	0.7	74.4	54.4	
	②技能	7	76.2	0.7	80.0	60.0	
	③知識・理解	14	75.9	1.1	83.2	63.2	
問題形式	選択式	18	78.6	0.5	80.3	60.3	
	短答式	8	66.6	1.5	81.9	61.9	
	記述式	4	47.9	1.3	73.8	53.8	▼
活用	「活用」に関する問題	5	61.7	0.8	73.0	53.0	

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率			到達状況
			物質・エネルギー	生命・地球			①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
1	(1)	金属は熱せられた部分から順に温まっていくことを理解している	○					○		○				80.4	0.1	A	85	65	
1	(2)①	水の温まり方を調べるための実験を適切に行うことができる	○					○				○		51.5	1.4	B	80	60	▼
1	(2)②	空気は、水と同じように対流によって全体が温まることを日常生活の場面と関係付けて考えることができる	○				○			○		○		88.4	0.3	C	75	55	◎
2	(1)	カシオペア座の名称を理解している	○					○			○			12.2	5.1	A	85	65	▼
2	(2)	星座の適切な観察や記録の方法を身に付けている	○					○		○				86.8	0.1	B	80	60	◎
2	(3)	時間が経過すると星の並び方は変わらないが、位置が変わることを理解している	○					○		○				85.2	0.1	A	85	65	◎
3	(1)	ヒキガエルは、寒い季節を土の中で過ごすことを理解している	○					○		○				89.6	0.1	A	85	65	◎
3	(2)	冬のサクラとカマキリの様子を理解している	○					○		○				71.4	0.1	B	80	60	
4		水の温度の下がり方のグラフから、水温と氷の状態とを関係付けて、0度以下のときの氷の状態を考えることができる	○					○		○				55.3	0.2	C	75	55	
5	(1)	水が蒸発することを日常生活と比較し、蒸発の作用に合うものを考えることができる	○					○		○		○		60.3	0.2	C	75	55	
5	(2)	温度と氷の状態とを関係付けて、結露の理由を説明することができる	○					○				○	○	25.9	2.1	D	70	50	▼
6	(1)	気象情報を基に、天気を読み取ることができる	○					○			○			88.5	0.4	B	80	60	◎
6	(2)	気象情報を天気の変化の規則性と関係付けながら、翌日の天気を予想することができる	○					○				○		53.7	0.7	C	75	55	▼
7	(1)	インゲンマメの発芽の条件を調べる実験を、条件を制御して計画することができる	○					○			○			76.1	0.9	C	75	55	◎

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球				①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
7	(2)	インゲンマメの発芽の条件から、実験の結果を予想することができる	○				○			○				80.4	0.6	C	75	55	◎
7	(3)①	ヨウ素でんぷん反応では、でんぷんがあると青紫色になることを理解している	○						○		○			79.1	0.6	A	85	65	
7	(3)②	種子の中でんぷんは、発芽のための養分として使われることを理解している	○						○		○			58.9	1.3	B	80	60	▼
8		ミニトマトの種まきの時期を、平均気温のグラフや発芽、成長の適温資料から読み取ったことを関係付けて考えることができる	○				○			○		○		73.5	0.4	C	75	55	
9	(1)	インゲンマメの成長に必要な条件を調べる実験を、条件を制御して計画することができる	○					○		○				84.5	0.5	B	80	60	◎
9	(2)	条件の違いによる成長の違いから、インゲンマメを丈夫に大きく育てる方法を考えることができる	○				○				○			45.9	1.0	B	80	60	▼
10	(1)	図に示された条件を比較し、メダカが卵を産むために必要な条件を考えることができる	○				○					○	○	60.5	1.1	D	70	50	
10	(2)	解剖顕微鏡を適切に使って、メダカの卵を観察することができる	○					○		○				52.5	0.8	A	85	65	▼
10	(3)	メダカの受精卵の変化について理解している	○						○	○				77.8	0.8	A	85	65	
11	(1)	アサガオの花のつくりを理解している	○						○		○			82.1	1.0	A	85	65	
11	(2)①	受粉と結実の関係を調べるための適切な実験を行うことができる	○					○		○				93.6	0.9	B	80	60	◎
11	(2)②	受粉の仕組みを理解している	○						○		○			89.7	1.7	A	85	65	◎
12		台風がもたらす気象の変化について理解している	○						○	○				88.3	0.9	A	85	65	◎
13	(1)	川が曲がったところでの、内側と外側を流れる水の速さと働きについて理解している	○						○	○				90.7	0.9	B	80	60	◎
13	(2)	上流の川原の石の大きさや形を理解している	○						○	○				87.1	1.0	B	80	60	◎
13	(3)	砂防ダム働きを理解している	○						○	○				69.5	1.1	B	80	60	

【表3】 小学校6年生 理科 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,442	68.0	0.9	78.0	58.0	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の 内容・領域等	物質・エネルギー	12	69.1	0.7	77.5	57.5	
	生命・地球	18	67.3	1.0	78.3	58.3	
評価の観点	①思考・表現	12	63.3	1.2	73.3	53.3	
	②技能	10	73.5	0.4	81.5	61.5	
	③知識・理解	8	68.0	1.0	80.6	60.6	
問題形式	選択式	20	68.3	0.2	78.5	58.5	
	短答式	4	76.3	1.9	81.3	61.3	
	記述式	6	61.4	2.4	74.2	54.2	
活用	「活用」に関する問題	5	54.9	1.3	71.0	51.0	

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率			到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球			①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
1	(1)	導線を同じ向きに何回も巻いたものがコイルであることを理解している	○					○		○			81.0	1.9	A	85	65	
1	(2)	電磁石は電流の向きを逆にすると、極が反対になることを理解している	○					○		○			83.7	0.0	B	80	60	◎
1	(3)	電磁石の強さと電流の大きさとの関係を調べる実験を計画することができる	○					○		○			76.2	0.1	B	80	60	
2	(1)①	メスシリンダーを適切に使って、一定量の水を量り取ることができる	○					○		○			49.8	0.0	A	85	65	▼
2	(1)②	水を量り取るとき、メスシリンダーの目盛りを正しく読むことができる	○					○		○			87.6	0.2	A	85	65	◎
2	(2)	物が水に溶ける規則性について調べる実験で、条件を制御する理由を考えることができる	○					○			○		67.3	1.8	D	70	50	
3	(1)	条件を制御して、振り子の1往復する時間の変化と振幅との関係を調べる実験を計画することができる	○					○		○			54.6	0.1	C	75	55	▼
3	(2)	おもりの大きさが変わることで、おもりの重心が下がることと振り子の長さが長くなることを関係付けて考えることができる	○					○		○		○	50.9	0.1	D	70	50	
3	(3)	ものづくりを通して、振り子の1往復する時間と振り子の長さとの関係を関係付けて考えることができる	○					○		○		○	80.5	0.1	C	75	55	◎
4	(1)	胎児の成長の様子を適切な方法を用いて調べることができる	○					○		○			93.3	0.1	A	85	65	◎
4	(2)①	胎児は子宮で成長することを理解している	○					○		○			72.2	1.9	B	80	60	
4	(2)②	子宮の中が羊水で満たされていることを理解している	○					○		○			66.9	2.5	B	80	60	
4	(2)③	胎児が成長するための養分は、へその緒を通して母親から運ばれてくることを理解している	○					○		○			85.0	1.3	B	80	60	◎
5	(1)	薬に日光が当たるとでんぶんができることを調べる実験において、日光を当てる前の薬にでんぶんがないことを調べる必要性を考えることができる	○					○			○		36.0	2.7	C	75	55	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球			①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
5	(2)	葉のでんぶんの有無を調べる実験において、ヨウ素ででんぶん反応を使って、適切に調べることができる	○				○		○				87.5	0.1	B	80	60	◎
5	(3)	実験の結果から、葉の日光が当たったところにでんぶんができることを考えることができる	○				○				○		76.8	1.3	B	80	60	
5	(4)	アルミニウム箔以外のもので、葉を遮光する実験方法を考えることができる	○				○		○				56.7	0.1	C	75	55	
6	(1)	植物が育たなくなった土地では、草食動物が少なくなり、その結果、肉食動物も少なくなることを説明することができる	○				○				○	○	62.4	1.7	D	70	50	
6	(2)	日光によって植物が自分で養分を作り出せることを理解している	○					○	○				77.7	0.1	B	80	60	
7	(1)	気体検知管を適切に使うことができる	○				○		○				67.2	0.1	B	80	60	
7	(2)	実験結果をまとめた表を基に、物が燃える前と後の酸素と二酸化炭素の割合を比較して考えることができる	○				○		○				77.9	0.2	C	75	55	◎
7	(3)	窒素消火設備では、空気中の酸素の割合の減少により火が消えることを説明することができる	○				○				○	○	52.0	4.0	D	70	50	
8	(1)	だ液の働きで、でんぶんが分解されることを理解している	○					○	○				46.5	0.2	B	80	60	▼
8	(2)	全身の血液の流れを基に、小腸の働きについて理解している	○					○	○				31.3	0.3	B	80	60	▼
8	(3)	実験の結果から、人は呼吸によって酸素を取り入れ、二酸化炭素を出していることを推論することができる	○				○		○				85.8	0.5	C	75	55	◎
9	(1)	適切な道具を使って月を観察することができる	○				○		○				61.0	0.5	A	85	65	▼
9	(2)	太陽と月の代わりになるものを考え、月と太陽の位置関係を考えるモデル実験を行うことができる	○				○		○				84.1	0.5	B	80	60	◎
9	(3)	月と太陽の位置関係から、地球からの月の形の見え方を考えることができる	○				○		○		○		29.0	0.6	D	70	50	▼
10	(1)	植物が水を吸い上げる実験において、水に色を付けて水の通り道を確かめることができる	○				○				○		74.1	2.7	B	80	60	
10	(2)	実験結果を推論し、実験方法を構想することができる	○				○		○				84.9	1.0	C	75	55	◎

【表4】中学校1年生 理科 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,169	54.4	5.1	69.2	49.2	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の 内容・領域等	生物的領域	16	53.8	3.9	68.1	48.1	
	化学的領域	14	55.0	6.4	70.4	50.4	
評価の観点	①思考・表現	14	51.5	4.6	64.6	44.6	
	②技能	6	54.7	3.6	72.5	52.5	
	③知識・理解	10	58.3	6.6	73.5	53.5	
問題形式	選択式	16	55.9	2.3	68.8	48.8	
	短答式	10	51.9	7.8	71.0	51.0	
	記述式	4	54.8	9.2	66.3	46.3	
活用	「活用」に関する問題	6	44.6	5.5	63.3	43.3	

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率			到達状況
		生物的 領域	化学的 領域			①思考・ 表現	②技能	③知識・ 理解	選択式	短答式	記述式			問題 分類	十分 達成	おお むね 達成	
1	(1)	観察結果から、タンポポが生息する場所の特徴を考えることができる	○			○			○			53.3	0.2	B	70	50	
1	(2)	ルーペを正しく使うことができる	○				○			○		51.8	1.3	B	70	50	
1	(3)	双眼実体顕微鏡の特性について理解している	○					○		○		51.1	3.0	A	75	55	▼
2	(1)	顕微鏡を操作する技能を身に付けている	○				○		○			19.5	0.3	A	75	55	▼
2	(2)	スケッチを分析して解釈し、生物の実際の大きさを比較することができる	○				○		○		○	86.6	0.7	C	65	45	◎
3	(1)	植物の吸水量から蒸散を調べる実験の技能を身に付けている	○					○			○	76.6	5.1	B	70	50	◎
3	(2)	実験結果から、葉の表と裏にある気孔の数の違いについて説明することができる	○				○				○	65.5	9.8	C	65	45	◎
3	(3)	実験結果を分析して解釈し、葉のどこにもワセリンを塗らなかった植物の蒸散量を推定することができる	○				○			○	○	25.3	5.8	C	65	45	▼
4	(1)	緑色のBTB液にオオカナダモを入れて日光を当てたときに、BTB液の色が変化した理由を考えることができる	○				○			○		52.0	1.0	C	65	45	
4	(2)	日光の有無によるオオカナダモのデンプンのでき方の違いを推定することができる	○				○			○		74.8	1.0	C	65	45	◎
4	(3)	対照実験について理解している	○					○		○		66.1	14.0	A	75	55	
5	(1)	種子植物がもつ共通の特徴を理解している	○					○		○		26.8	0.9	B	70	50	▼
5	(2)	コケ植物の特徴を、種子植物やシダ植物と比較して考えることができる	○					○		○		55.7	0.9	C	65	45	
5	(3)	双子葉類が合弁花類と離弁花類に分類できることを理解している	○					○		○		65.2	6.2	B	70	50	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県 正答率	県 無解答率	期待 正答率			到達状況
		生物 的 領 域	化学 的 領 域			① 思考・表現	② 技能	③ 知識・理解	選択 式	短答 式	記述 式				問題 分類	十分 達成	おおむね 達成	
5	(4)	植物のスケッチを分析して解釈し、正しく分類することができる	○						○		○		63.2	2.4	C	65	45	
6		つくしが高く伸び上がる理由を、会話にある情報を活用して考え、説明することができる	○								○	○	27.9	9.4	D	60	40	▼
7	(1)	有機物について理解している	○					○		○			71.3	9.4	A	75	55	
7	(2)	有機物を燃焼させること以外の方法で、二酸化炭素を発生させることができる	○					○		○			55.5	0.9	A	75	55	
8		実験結果を分析して解釈し、プラスチックの種類を推定することができる	○					○		○		○	47.5	5.5	C	65	45	
9	(1)	溶解度について理解している	○					○		○			48.3	15.2	A	75	55	▼
9	(2)	溶解度曲線を基に、一定量の水に全部溶けずに溶け残る物質を推定することができる	○					○		○			48.9	8.3	C	65	45	
9	(3)	溶解度曲線を基に、再結晶する質量が一番大きい物質を推定することができる	○					○		○			60.0	8.6	C	65	45	
9	(4)	再結晶について理解している	○					○		○			84.1	7.6	A	75	55	◎
10	(1)	質量パーセント濃度を求める公式を理解している	○					○		○			38.7	6.8	B	70	50	▼
10	(2)	水溶液の状態において、溶質の粒子の様子を理解している	○					○		○			78.4	1.7	A	75	55	◎
10	(3)	水溶液における溶質について理解している	○					○		○			53.3	1.4	A	75	55	▼
10	(4)	めんつゆを薄める場面において、溶質の質量を推定することができる	○					○		○		○	16.7	9.3	D	60	40	▼
11	(1)	液体を蒸留する実験を安全に行うことができる	○					○			○		49.1	12.6	B	70	50	▼
11	(2)	みりんを加熱した時間と温度を表したグラフから考察し、エタノールを最も多く取り出すことができる時間帯を推定することができる	○					○		○			42.7	1.6	C	65	45	▼
11	(3)	液体がエタノールであることを確かめるための実験を行うことができる	○					○		○			75.7	1.5	A	75	55	◎

【表5】中学校2年生 理科 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,304	48.9	7.8	68.8	48.8	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	物理的領域	5	54.7	6.9	63.0	43.0	
	地学的領域	5	53.9	2.3	70.0	50.0	
	化学的領域	11	42.7	9.2	70.0	50.0	▼
	生物的領域	9	50.6	9.5	70.0	50.0	
評価の観点	①思考・表現	10	48.0	6.7	63.5	43.5	
	②技能	6	36.0	9.6	68.3	48.3	▼
	③知識・理解	14	55.2	7.7	72.9	52.9	
問題形式	選択式	8	49.6	1.5	68.1	48.1	
	短答式	16	49.8	10.6	70.6	50.6	▼
	記述式	6	45.7	8.6	65.0	45.0	
活用	「活用」に関する問題	5	38.0	8.2	62.0	42.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		物理的領域	地学的領域	化学的領域	生物的領域	①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式			問題分類	十分達成	おおむね達成	
1	(1)	物体に働く重力の大きさを基に、物体の質量を推定することができる	○					○		○		51.7	4.4	C	65	45	
1	(2)	ばねののびの実験結果を基に、未測定値を推定することができる	○					○		○		77.8	3.6	C	65	45	◎
1	(3)	月面上でばねののびを測定する場において、月面上での重力の大きさを基に、ばねののびを推定することができる	○					○		○		28.3	17.0	C	65	45	▼
2		計測したタイムが正しいタイムよりも短くなる理由を、音の伝わる速さと関連付けて説明することができる	○					○			○	62.2	7.5	D	60	40	◎
3		水中にあるゴムボールの大きさが深さによってどのように変化するのかを考え、その理由を説明することができる	○					○			○	53.7	1.8	D	60	40	
4	(1)	地層の様子から、海の深さの変化を推定することができる	○					○		○		67.5	0.6	C	65	45	◎
4	(2)	過去に火山活動があったことを示すものに、凝灰岩の地層があることを理解している	○					○		○		57.2	1.5	A	75	55	
4	(3)	サンヨウチュウの名称と、栄えていた地質年代を理解している	○					○		○		21.5	3.3	B	70	50	▼
4	(4)	どのような生物の化石が示準化石に適しているか指摘することができる	○					○		○		48.3	0.9	C	65	45	
4	(5)	石灰岩の特徴について理解している	○					○		○		74.8	5.5	A	75	55	
5	(1)	酸化銀を加熱する実験で、発生する気体が酸素であることを確認することができる	○					○			○	38.7	12.3	B	70	50	▼
5	(2)	酸化銀を加熱して残った物質の性質を理解している	○					○		○		23.3	1.5	B	70	50	▼
5	(3)	酸化銀を分解したときの化学変化を化学反応式で表すことができる	○					○		○		12.8	23.8	B	70	50	▼
6	(1)	炭酸水素ナトリウムを加熱する実験を安全に行うことができる	○					○			○	59.1	5.9	B	70	50	

設問別集計結果

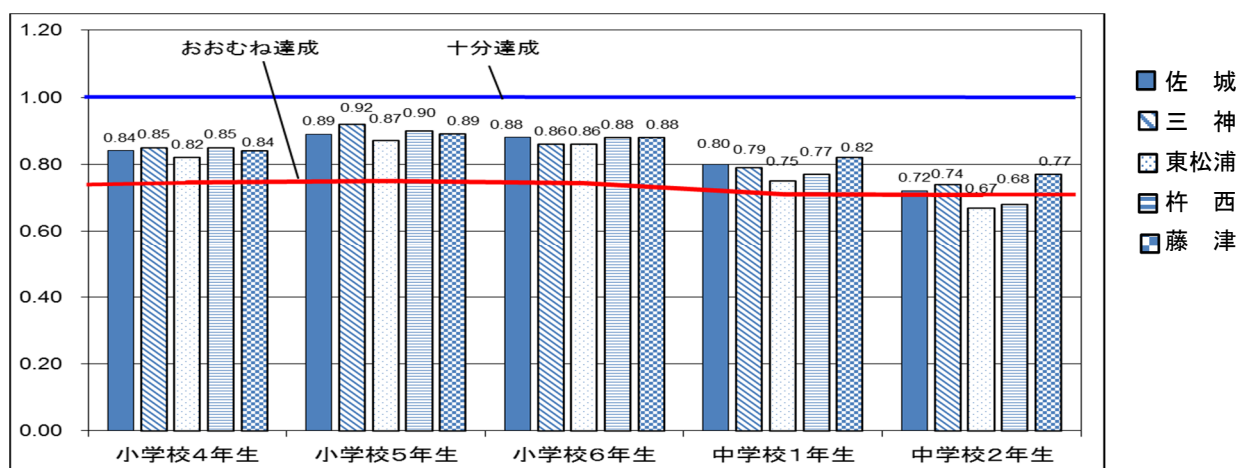
問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		物理的領域	地学的領域	化学的領域	生物的領域		①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
6	(2)	炭酸水素ナトリウムを加熱すると水が発生することを理解している		○					○		○			53.7	9.3	A	75	55	▼
6	(3)	炭酸水素ナトリウムを加熱して残った物質の性質について理解している		○					○	○				55.0	1.7	B	70	50	
7	(1)	酸化銅と炭素の混合物を加熱して発生した気体名とその性質を理解している		○					○	○				82.9	2.0	B	70	50	◎
7	(2)	酸化銅を還元する実験を行うことができる		○				○				○		20.3	7.2	B	70	50	▼
7	(3)	還元について理解している		○					○		○			51.0	18.0	A	75	55	▼
8	(1)	銅の質量と化合した酸素の質量の変化をグラフに表すことができる		○				○			○			61.6	6.4	C	65	45	
8	(2)	実験結果を分析して解釈し、酸素と化合していない銅の質量を求めることができる		○				○			○	○		10.9	13.1	C	65	45	▼
9	(1)	人の血液の循環経路の模式図において、肺動脈を指摘することができる			○			○			○			39.5	1.6	C	65	45	▼
9	(2)	動脈血について理解している			○				○		○			45.4	14.1	A	75	55	▼
9	(3)	体循環について理解している			○				○		○			58.6	15.2	A	75	55	
9	(4)	静脈の弁のはたらきを理解している			○				○		○			72.4	8.4	A	75	55	
10	(1)	実験結果を基に、刺激から反応までに掛かる時間を求めることができる			○			○			○	○		23.3	2.0	C	65	45	▼
10	(2)①	運動神経について理解している			○				○		○			54.0	4.3	B	70	50	
10	(2)②	神経系の構成について理解している			○				○		○			45.7	14.0	B	70	50	▼
10	(3)	反射について理解している			○				○		○			76.8	9.2	A	75	55	◎
11		激しい運動をすると拍動が多くなり、血液の流れが速くなる理由を、細胞の呼吸の知識を活用して説明することができる			○			○				○	○	40.1	16.8	D	60	40	

(4) 地域別の状況

- 県内5地域における学年別教科正答率の「十分達成」に対する状況は、小学校4・5・6年生、中学校1学年で、5地域とも「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ11]
- 県内5地域における学年別教科正答率の対県比は[表6]のとおりで、中学校1・2年生で地域差が大きい。また、平成27年度12月調査と比べて、小学校で地域差が縮小傾向にある。

[グラフ11] 県内5地域における学年別教科正答率の「十分達成」に対する状況

※ 各学年における「十分達成」の到達基準を1.00として算出



[表6] 県内5地域における学年別教科正答率の対県比

学年・教科		実施年度	対県比(地域教科正答率/県教科正答率)					地域差
			佐城	三神	東松浦	杵西	藤津	
小学校4年生	理科	H28[12月]	1.00	1.01	0.97	1.01	1.00	縮 0.04
		H27[12月]	0.98	1.01	0.99	1.01	1.04	0.06
小学校5年生	理科	H28[12月]	0.99	1.03	0.98	1.01	1.00	縮 0.05
		H27[12月]	1.00	1.02	0.95	1.01	1.02	0.07
小学校6年生	理科	H28[12月]	1.01	0.99	0.99	1.00	1.01	縮 0.02
		H27[12月]	1.01	1.01	1.00	0.98	0.99	0.03
中学校1年生	理科	H28[12月]	1.02	1.01	0.95	0.99	1.05	▲ 0.10
		H27[12月]	1.01	1.06	0.96	0.97	0.99	▲ 0.10
中学校2年生	理科	H28[12月]	1.01	1.04	0.94	0.96	1.08	▲縮 0.14
		H27[12月]	1.00	1.06	0.91	1.00	1.03	▲ 0.15

※ 「対県比」は、県正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「縮」は、平成27年度[12月調査]より地域差が縮小した教科を示す

※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐 城	佐賀市、多久市、小城市
三 神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵 西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤 津	鹿島市、嬉野市、太良町

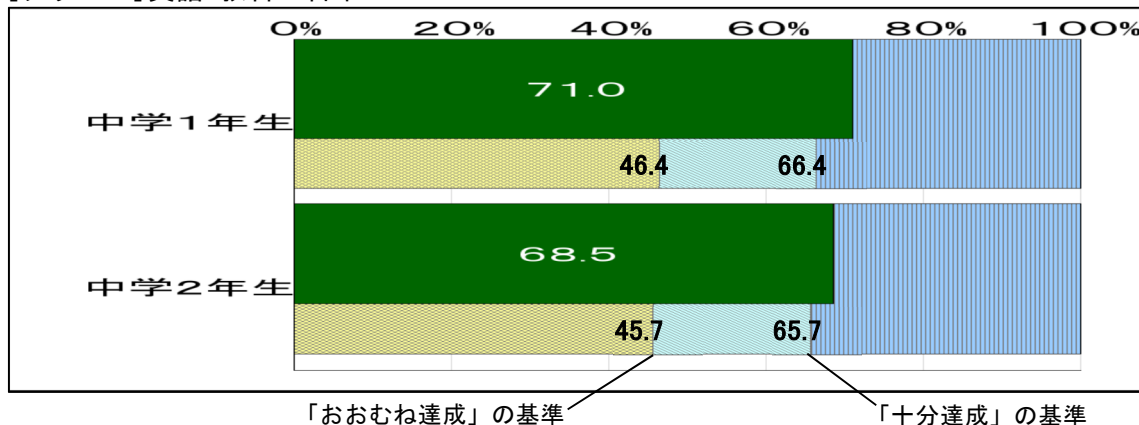
Ⅲ 教科ごとの調査結果とその分析

英 語

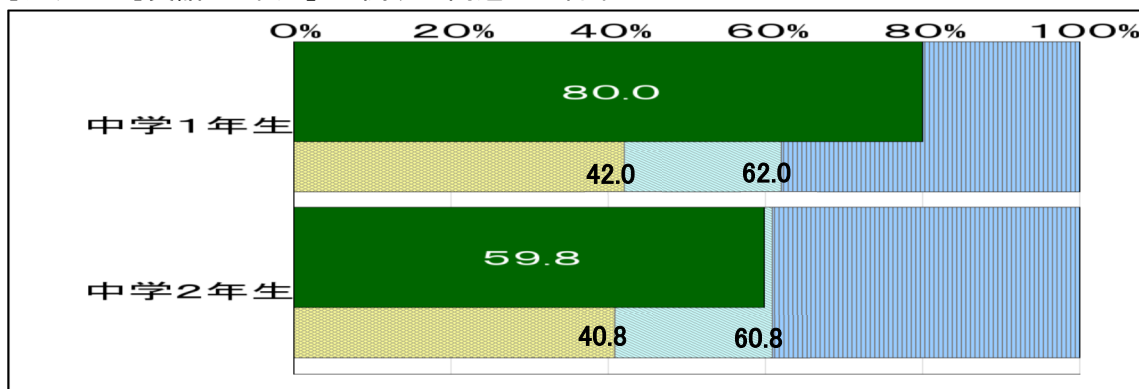
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、全ての学年で「十分達成」の基準を上回っている。[グラフ1]
- 「活用」に関する問題については、中学1年生で「十分達成」の基準を上回っており、中学2年生で「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ2]
- 観点別に見ると、全ての学年の全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。「外国語理解の能力」については、全ての学年で「十分達成」の基準を上回っている。「言語や文化についての知識・理解」については、中学1年生で「十分達成」の基準を上回っている。
[グラフ3～5]
- 内容・領域別に見ると、全ての学年の全ての内容・領域で「おおむね達成」の基準を上回っている。「聞くこと」については、全ての学年で「十分達成」の基準を上回っている。「読むこと」については、中学2年生で「十分達成」の基準を上回っている。[グラフ6、7]

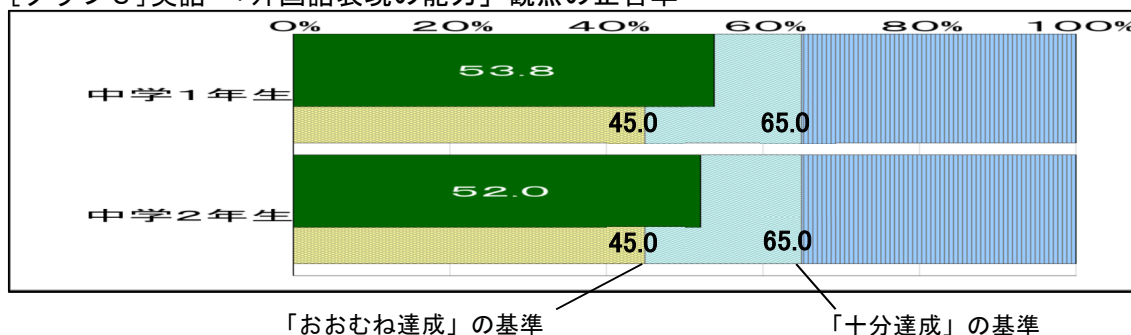
[グラフ1] 英語 教科正答率



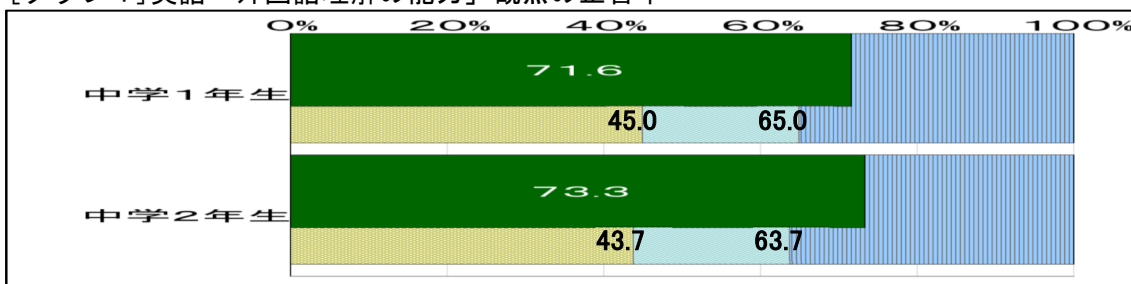
[グラフ2] 英語 「活用」に関する問題の正答率



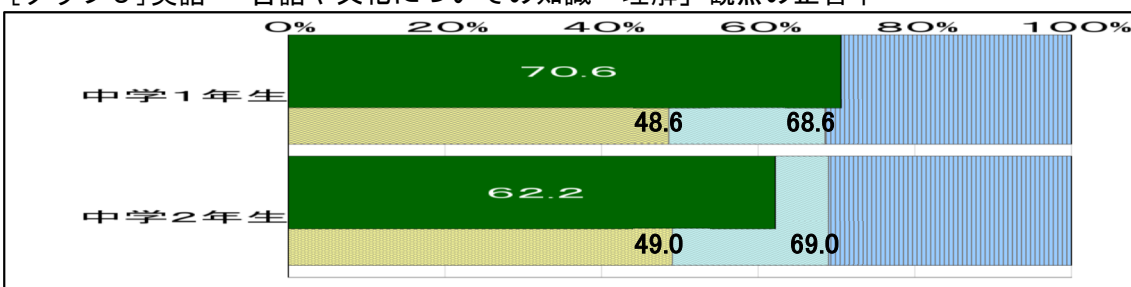
[グラフ3]英語 「外国語表現の能力」観点の正答率



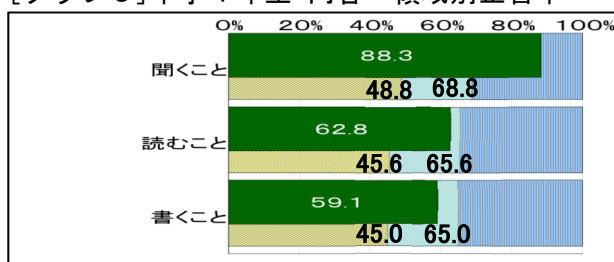
[グラフ4]英語「外国語理解の能力」観点の正答率



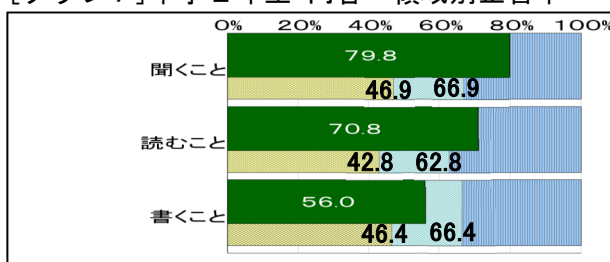
[グラフ5]英語 「言語や文化についての知識・理解」観点の正答率



[グラフ6]中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ7]中学2年生 内容・領域別正答率



中学校英語（中学１年生、中学２年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 聞いて得た情報と図表やグラフから読み取った情報を関連付けながら理解することができている。
(中学１年生⁴、中学２年生¹(3))
- ◇ 説明文や対話文を読んで得た複数の情報と絵や図表から読み取った情報を関連付けながら理解することができている。
(中学１年生⁶⁸(1)、中学２年生⁶)
- ◇ 質問の答えを適切な表現を用いて書くことについて、同一学年の経年比較をすると、平成 27 年度[12 月調査]から改善の傾向が見られる。
(「十分達成」の基準を 1 とした場合… 1 年生 H27:0.88→H28:1.02、2 年生 H27:0.69→H28:0.89)
(中学１年生¹²、中学２年生¹¹)
- ◆ 1 疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して書くことに、1 年生では一部課題が見られ、2 年生では課題が見られる。
(中学１年生¹⁰、中学２年生⁹)
- ◆ 2 対話文やメールの文を読んで、相手の意向を理解し、適切に応じること（1 年生）や、内容的にまとまりのある返信を書くこと（2 年生）に一部課題が見られる。
(中学１年生⁵、中学２年生¹²(2))

平成 27 年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12 月調査]Web 報告書 参照

指導改善のポイント

- ◆ 1 疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して文を書く力を育成するためには、Input、Intake、Output の過程を踏まえた段階的な指導を行うことが必要である。Input においては、様々な形の疑問文を体系的に取り扱うために、新出の疑問文と既習の疑問文を関連付けながら指導した上で、どのような場面で用いるかを Teacher Talk で理解させることが大切である。Intake においては、Pattern Practice のみならず、実際の場面を想定した意味のあるコミュニケーションを行わせることが大切である。Output においては、例えば、クイズショーやインタビューなどの場面を設定し、質問と応答のための原稿を作成する活動を通して、Speaking と Writing を関連付けさせたり、モデルやルーブリックを提示して、目的意識をもたせた Output 活動を行わせたりすることが大切である。また、Feedback の時間を設定し、生徒が Output した英文に誤りがある場合には、Intake、Input で行った学習を振り返らせながら、誤りに気付かせることが必要である。
- ◆ 2 対話やメールでやり取りしている相手の意向を理解し、適切に応じる力を育成するためには、本文の内容理解の場面で、人物の心情や場面の状況について、教師が、事実発問、推論発問、評価発問の構成に沿って発問し、生徒の内容理解を深めさせたり、生徒が疑問文の形に応じた適切な答え方を考えたりする機会を設けることが大切である。また、読み取った人物の心情や場面の状況に応じて、独自で作成した質問文や応答文を本文に差し込む RBL の活動も必要である。その際には、ペアやグループで活動させながら、人物の心情や場面の状況をより詳しく理解させ、それについて考えたことを表現させることが大切である。また、帯活動において復習をさせることによって、既習の表現を使用できるようにさせたりすることが大切である。さらに、様々な学習活動を行った後には、Sharing を必ず行い、互いが作成した英文の良さを認め合ったり、より良い表現に気付いたりする機会をもたせることが大切である。



ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。読みのプロセスを踏まえた発問構成の工夫について提案しています。授業づくりに役立ててください。

(3) 各学年の設問ごとの正答率

【表1】中学校1年生 英語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,182	71.0	3.6	66.4	46.4	◎

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の 内容・領域等	聞くこと	8	88.3	0.1	68.8	48.8	◎
	読むこと	9	62.8	2.5	65.6	45.6	
	書くこと	10	59.1	8.4	65.0	45.0	
評価の観点	①表現	8	53.8	9.8	65.0	45.0	
	②理解	13	71.6	1.8	65.0	45.0	◎
	③言語・文化	11	70.6	5.3	68.6	48.6	◎
問題形式	選択式	15	78.9	0.3	67.3	47.3	◎
	短答式	2	44.2	9.4	65.0	45.0	▼
	記述式	8	62.8	8.2	65.0	45.0	
活用	「活用」に関する問題	5	80.0	3.3	62.0	42.0	◎

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等			評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率			到達状況
			聞くこと	読むこと	書くこと	①表現	②理解	③言語・文化	選択式	短答式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
1	(1)	強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けて、音声を的確に聞き取る	○					○	○			88.6	0.1	A	75	55	◎
1	(2)	強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けて、音声を的確に聞き取る	○					○	○			97.1	0.0	A	75	55	◎
2	(1)	強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けて、音声を的確に聞き取る	○					○	○			70.2	0.1	A	75	55	
2	(2)	強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けて、音声を的確に聞き取る	○					○	○			85.6	0.2	B	70	50	◎
3	(1)	対話を聞いて、概要を理解する	○					○	○			98.6	0.1	B	70	50	◎
3	(2)	対話を聞いて、概要を理解する	○					○	○			86.5	0.1	C	65	45	◎
4	(1)	聞いて得た情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する	○					○	○		○	94.6	0.1	D	60	40	◎
4	(2)	聞いて得た情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する	○					○	○		○	85.3	0.2	D	60	40	◎
5	(1)	対話文を読んで、相手の意向を理解し、適切に応じる	○					○	○			47.2	0.3	C	65	45	
5	(2)	対話文を読んで、相手の意向を理解し、適切に応じる	○					○	○			52.8	0.6	C	65	45	
6		説明文を読んで得た複数の情報と絵から読み取った情報を関連付けながら理解する	○					○	○			90.4	0.3	B	70	50	◎
7	(1)	英文を読んで、大切な部分を理解する	○					○	○			75.0	0.4	C	65	45	◎
7	(2)	英文を読んで、書き手の意向を理解する	○					○	○		○	76.2	0.5	C	65	45	◎
8	(1)	対話文を読んで得た複数の情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する	○					○	○			72.0	0.8	C	65	45	◎

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等					評価の観点			問題形式		活用	県 正 答 率	県 無 解 答 率	期待 正答率			到達状況
			聞くこと	読むこと	書くこと			① 表現	② 理解	③ 言語・文化	選択式	短答式	記述式			「活用」に関する問題	問題分類	十分達成	
8	(2)	対話文を読んで、大切な部分を正確に理解する	○					○			○			63.6	0.9	C	65	45	
9	(1)	対話文を読んで内容を理解し、適切な語を書く	○	○				○	○			○		24.2	8.5	C	65	45	▼
9	(2)	対話文を読んで内容を理解し、適切な語を書く	○	○				○	○			○		64.1	10.3	C	65	45	
10	(1)	疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く		○				○	○			○		20.2	12.2	D	60	40	▼
10	(2)	疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く		○				○	○			○		40.0	13.8	D	60	40	
11	(1)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く		○					○			○		90.4	2.7	C	65	45	◎
11	(2)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く		○					○			○		70.0	2.9	C	65	45	◎
12	(1)	質問の答えを適切な表現を用いて書く		○				○	○			○		68.4	7.2	A	75	55	
12	(2)	質問の答えを適切な表現を用いて書く		○				○	○			○		69.7	11.0	B	70	50	
12	(3)	質問の答えを適切な表現を用いて書く		○				○	○			○	○	76.1	8.4	C	65	45	◎
13		自己紹介の文に相手に対する質問文を加えた、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く		○				○				○	○	67.7	7.5	D	60	40	◎

【表2】中学校2年生 英語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,316	68.5	4.7	65.7	45.7	◎

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の 内容・領域等	聞くこと	8	79.8	0.3	66.9	46.9	◎
	読むこと	9	70.8	3.4	62.8	42.8	◎
	書くこと	11	56.0	10.7	66.4	46.4	
評価の観点	①表現	8	52.0	13.6	65.0	45.0	◎
	②理解	15	73.3	2.2	63.7	43.7	
	③言語・文化	10	62.2	9.4	69.0	49.0	
問題形式	選択式	18	75.8	0.6	65.3	45.3	◎
	短答式						
	記述式	9	54.0	12.9	66.7	46.7	
活用	「活用」に関する問題	6	59.8	9.3	60.8	40.8	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等			評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率			到達状況
		聞くこと	読むこと	書くこと	①表現	②理解	③言語・文化	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
1	(1)	強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けて、音声を的確に聞き取る	○				○	○				93.6	0.2	A	75	55	◎
1	(2)	強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けて、音声を的確に聞き取る	○				○	○				82.4	0.2	B	70	50	◎
1	(3)	聞いて得た情報とグラフから読み取った情報を関連付けながら理解する	○				○	○				86.8	0.5	B	70	50	◎
2	(1)	対話を聞いて、適切に応じる	○				○	○				58.0	0.4	C	65	45	
2	(2)	対話を聞いて、適切に応じる	○				○	○				43.8	0.4	C	65	45	▼
3	(1)	まとまりのある英語を聞いて、話し手が伝えたいことや聞き手として必要な情報を理解する	○				○	○				87.3	0.3	C	65	45	◎
3	(2)	まとまりのある英語を聞いて、話し手が伝えたいことや聞き手として必要な情報を理解する	○				○	○				93.5	0.3	C	65	45	◎
4		まとまりのある英語を聞いて、複数の必要な情報を関連付けながら理解する	○				○	○		○		92.6	0.3	D	60	40	◎
5		対話文を読んで、大切な部分を正確に理解する	○				○	○				90.4	0.5	B	70	50	◎
6	(1)	対話文を読んで得た複数の情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する	○				○	○				88.4	0.4	C	65	45	◎
6	(2)	対話文を読んで得た複数の情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する	○				○	○				75.9	0.7	C	65	45	◎
6	(3)	対話文を読んで得た複数の情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する	○				○	○		○		79.0	0.7	D	60	40	◎
7	(1)	対話文を読んで、大切な部分を理解する	○				○	○				83.9	0.8	C	65	45	◎
7	(2)	対話文を読んで、大切な部分を理解する	○				○	○		○		43.6	1.0	D	60	40	

設問別集計結果

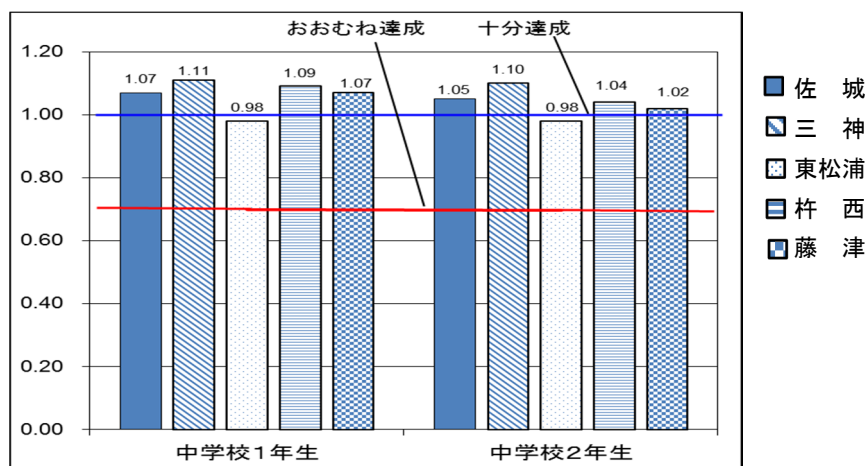
問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」 に関する問題	県 正答率	県 無解答率	期待 正答率			到達状況
		聞くこと	読むこと	書くこと		①表現	②理解	③言語・文化	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
7	(3)	対話文を読んで、大切な部分を理解する	○				○		○				60.5	0.9	D	60	40	◎
8	(1)	一文の前半の内容と後半の内容の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文を作る		○			○		○				61.7	0.7	C	65	45	
8	(2)	一文の前半の内容と後半の内容の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文を作る		○			○		○				67.8	0.8	C	65	45	◎
9	(1)	疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く		○			○	○			○		40.0	16.4	C	65	45	▼
9	(2)	疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く		○			○	○			○		23.5	28.4	C	65	45	▼
10	(1)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く		○				○			○		78.7	2.4	B	70	50	◎
10	(2)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く		○				○			○		67.9	2.6	B	70	50	
10	(3)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く		○				○			○		53.0	4.2	B	70	50	
11	(1)	質問の答えを適切な表現を用いて書く		○			○	○			○		79.1	8.2	A	75	55	◎
11	(2)	質問の答えを適切な表現を用いて書く		○			○	○			○	○	49.8	15.7	C	65	45	
11	(3)	質問の答えを適切な表現を用いて書く		○			○	○			○	○	53.6	15.6	C	65	45	
12	(1)	メールの内容を正しく理解する	○				○		○				74.7	2.6	C	65	45	◎
12	(2)	メールの書き手の意向を理解し、内容的にまとまりのある返信を書く	○	○			○	○			○	○	40.4	22.7	E	55	35	

(4) 地域別の状況

- 県内5地域における学年別教科正答率の「十分達成」に対する状況は、5地域とも中学校1・2年生で「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ8]
- 県内5地域における学年別教科正答率の対県比は[表3]のとおりで、中学校1・2年生とも、地域間の学力差が大きい状況にあるが、平成27年度12月調査と比べて、中学校2年生で地域差が縮小している。

[グラフ8] 県内5地域における学年別教科正答率の「十分達成」に対する状況

※ 各学年における「十分達成」の到達基準を1.00として算出



[表3] 県内5地域における学年別教科正答率の対県比

学年・教科		実施年度	対県比(地域教科正答率/県教科正答率)					地域差
			佐城	三神	東松浦	杵西	藤津	
中学校1年生	英語	H28[12月]	1.00	1.04	0.92	1.02	1.00	▲拡 0.12
		H27[12月]	1.00	1.05	0.95	0.98	1.00	▲ 0.10
中学校2年生	英語	H28[12月]	1.00	1.05	0.94	1.00	0.98	▲縮 0.11
		H27[12月]	0.99	1.04	0.90	1.04	1.06	▲ 0.16

※ 「対県比」は、県正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「縮」は、平成27年度[12月調査]より地域差が縮小した教科を、「拡」は拡大した教科を示す

※ 地域及び市町名

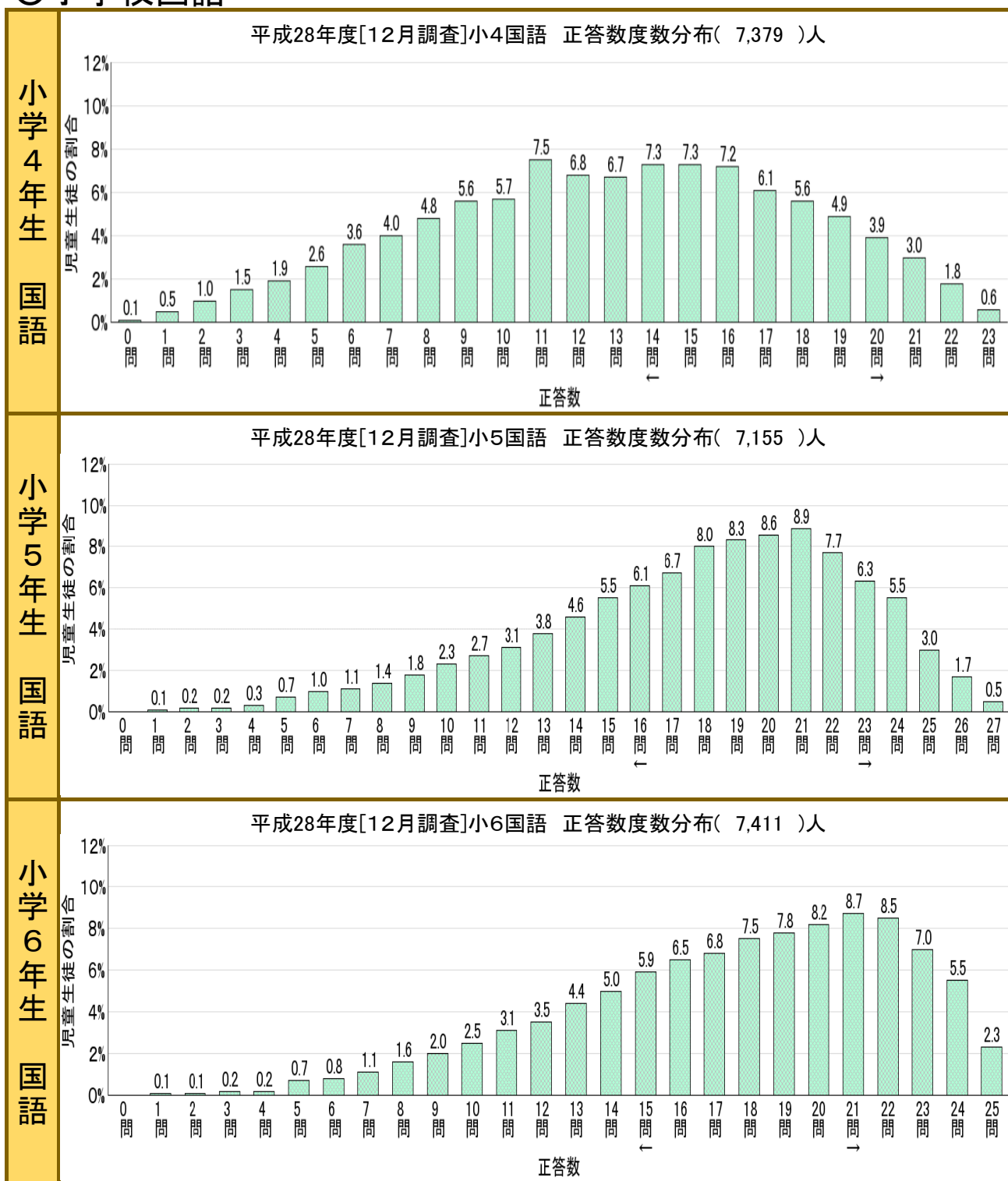
地域名	市町名
佐 城	佐賀市、多久市、小城市
三 神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵 西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤 津	鹿島市、嬉野市、太良町

【補足資料】

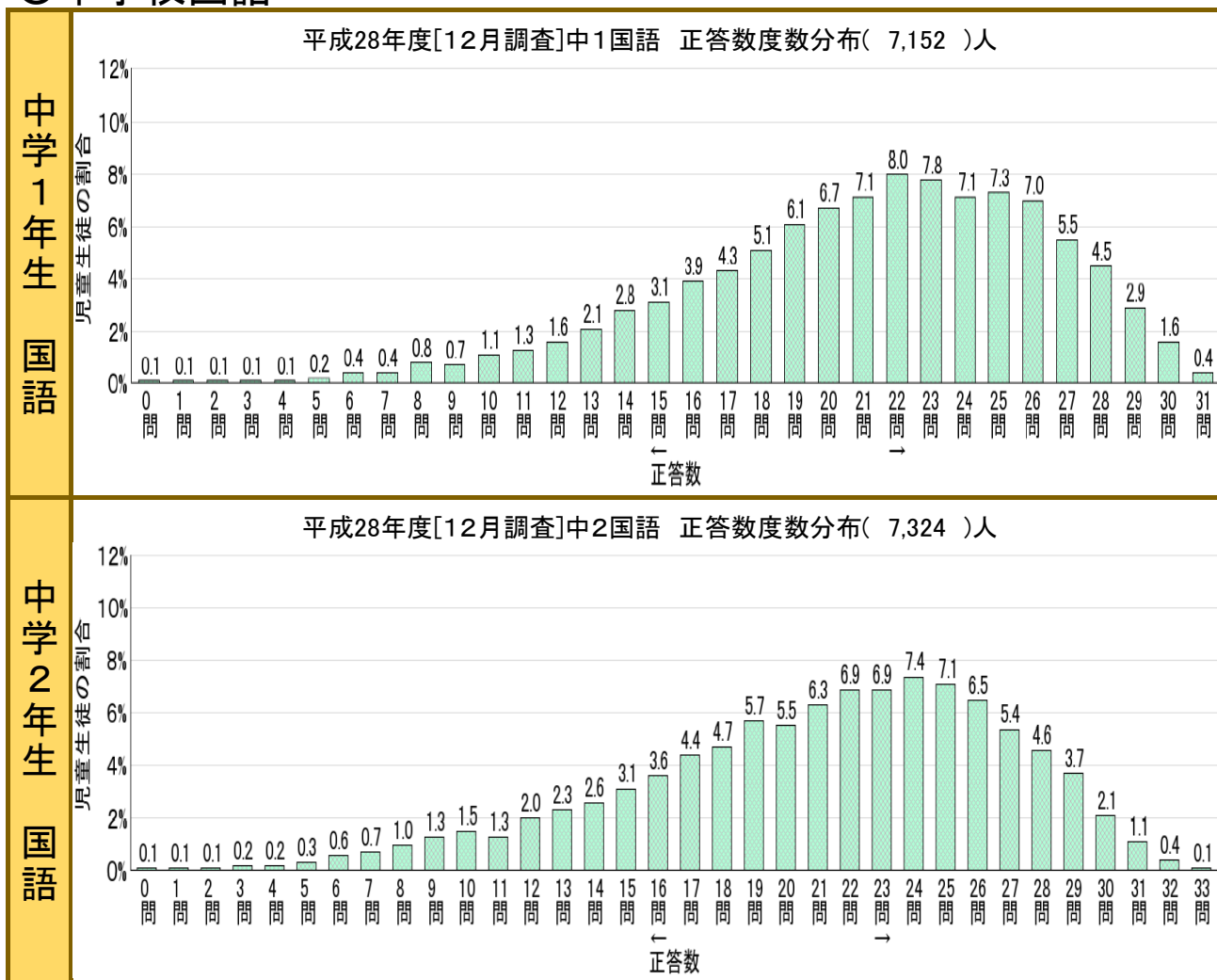
◎ 教科に関する調査

正答数度数分布の状況を示す。

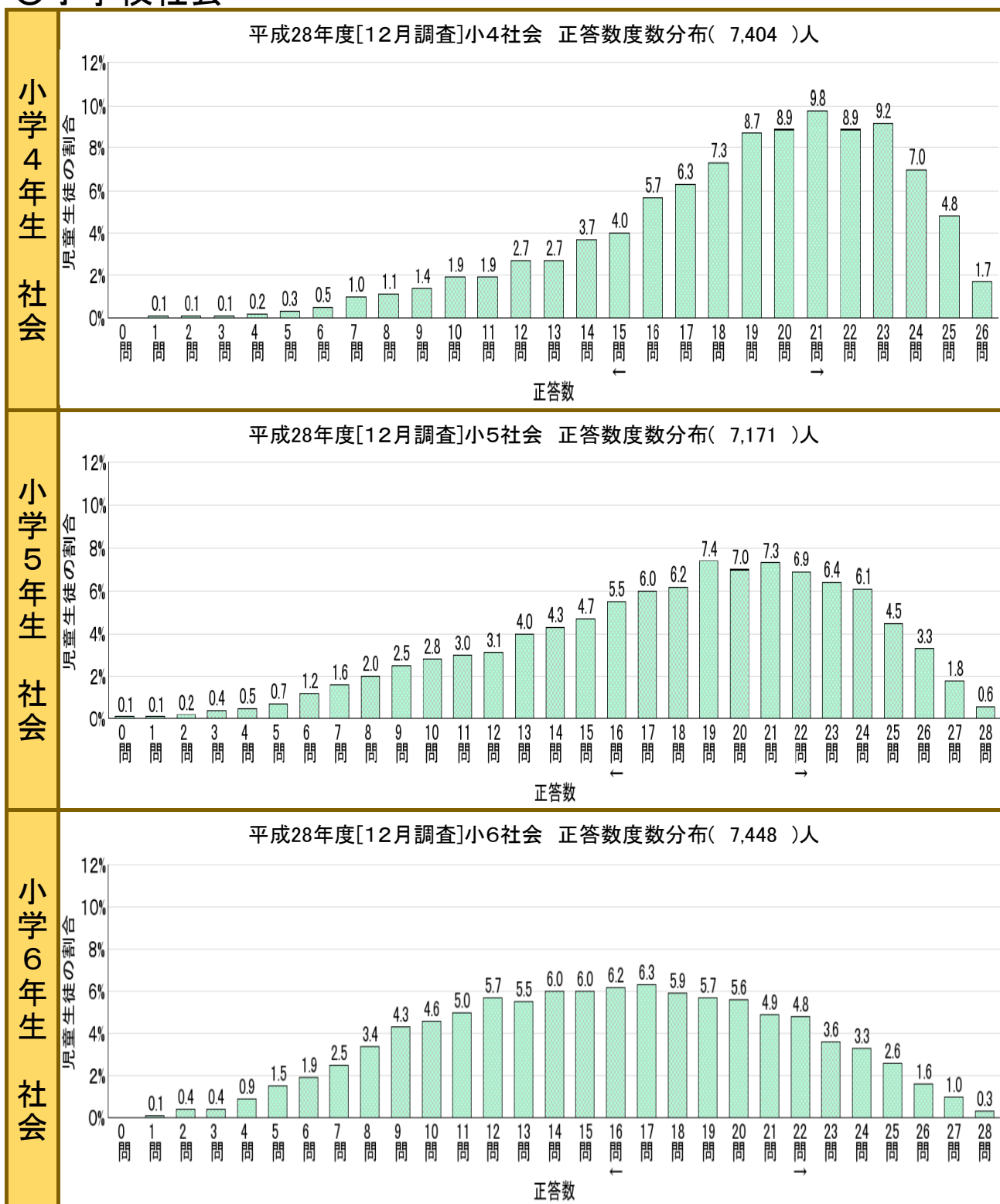
○小学校国語



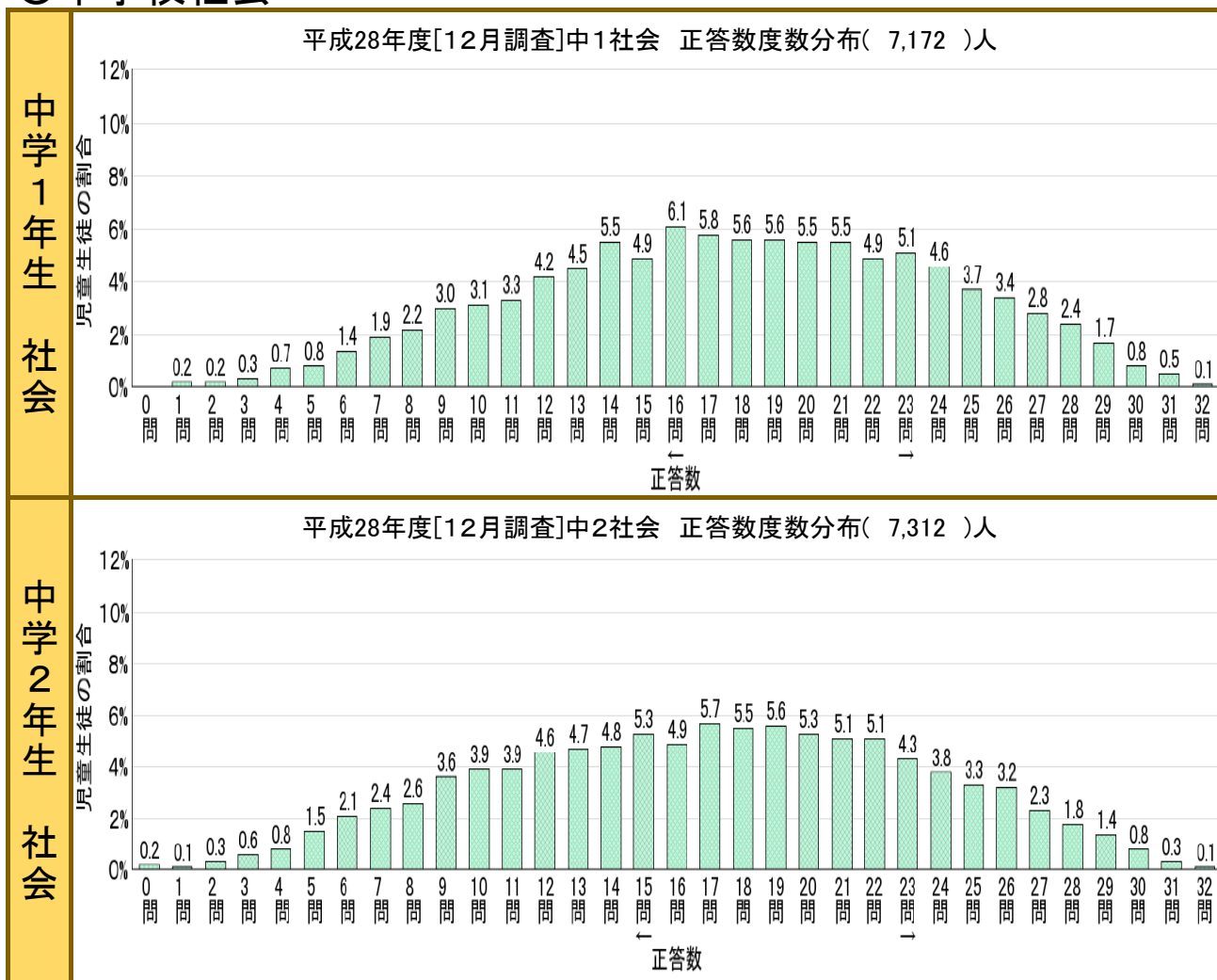
○中学校国語



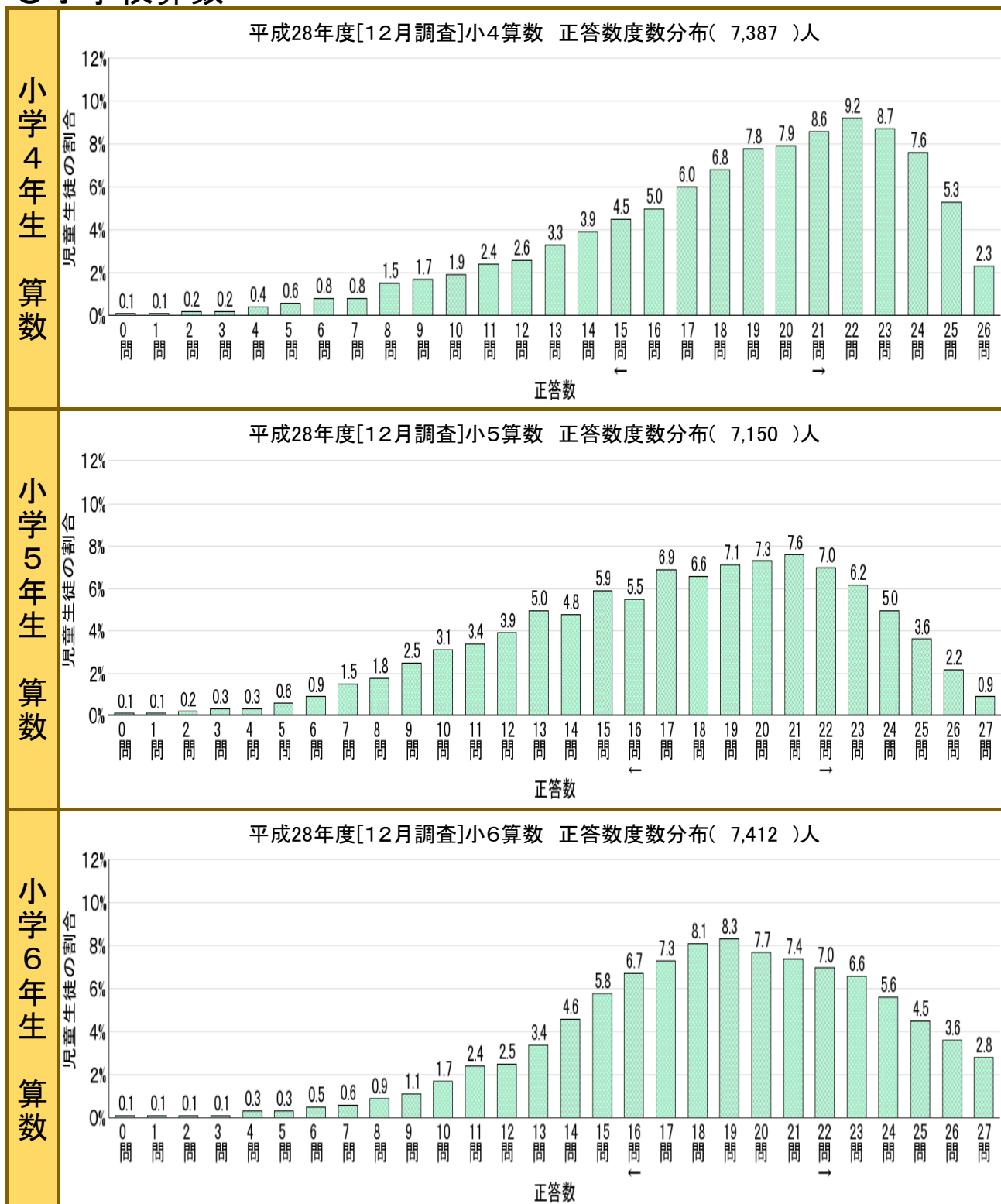
○小学校社会



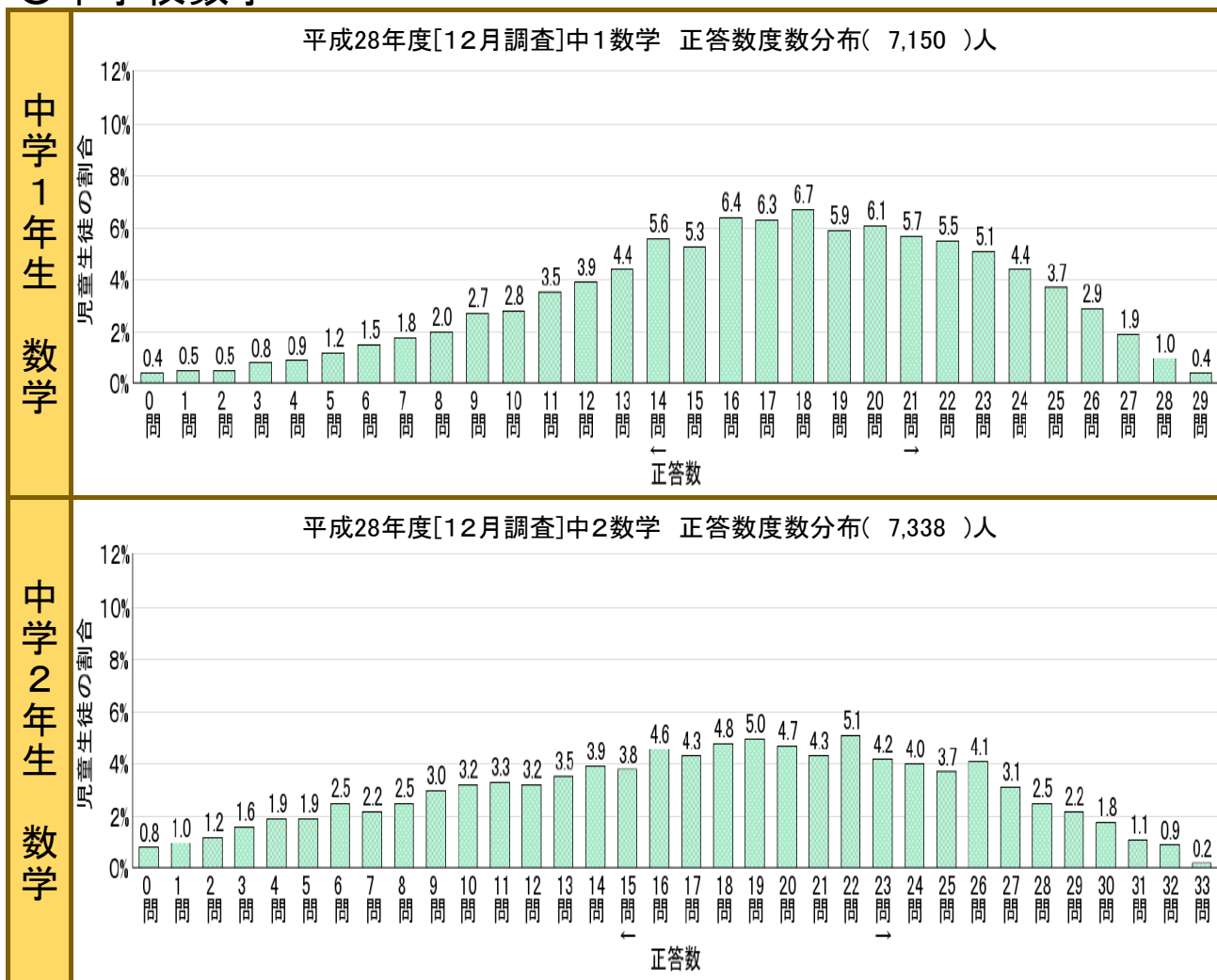
○中学校社会



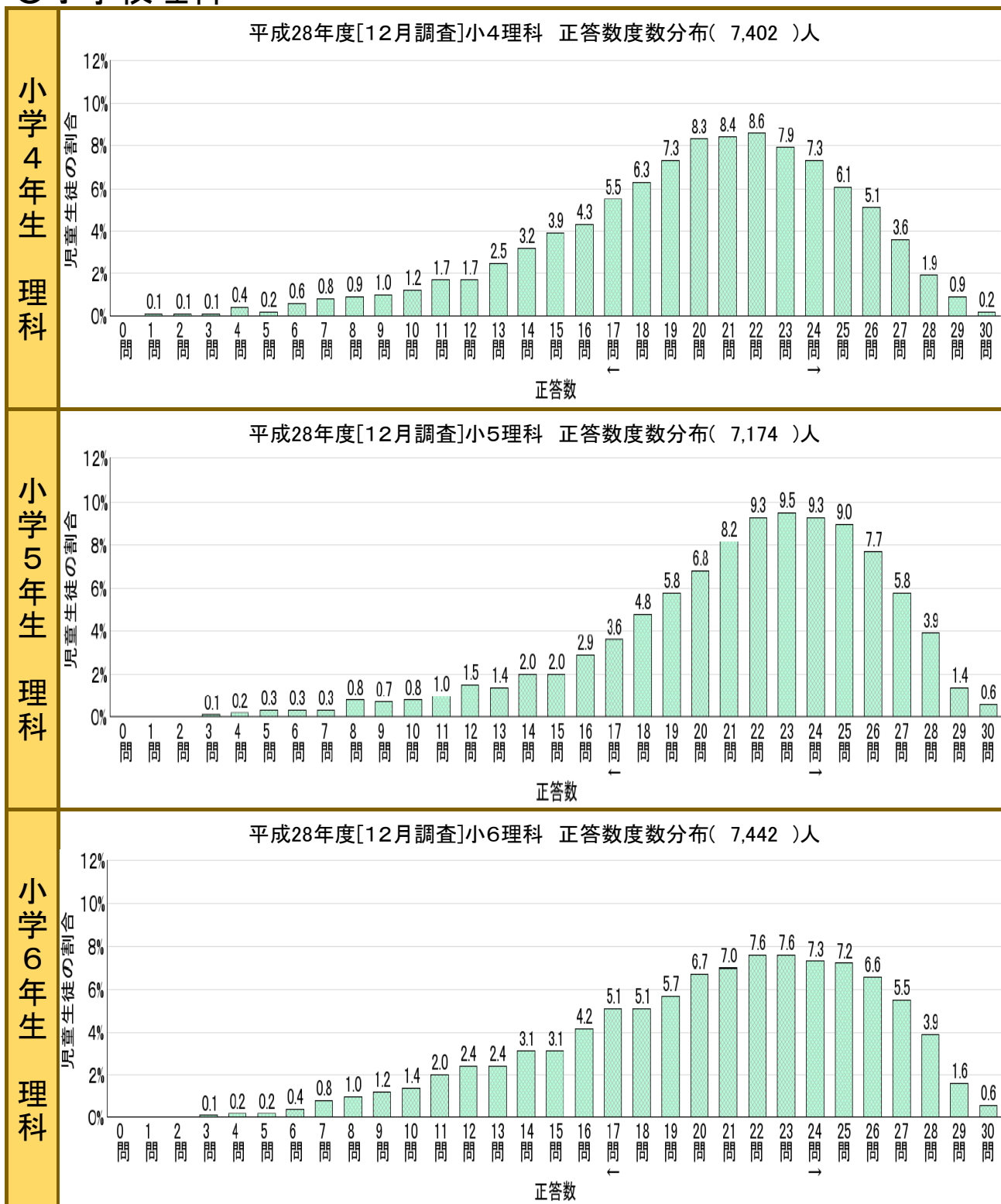
○小学校算数



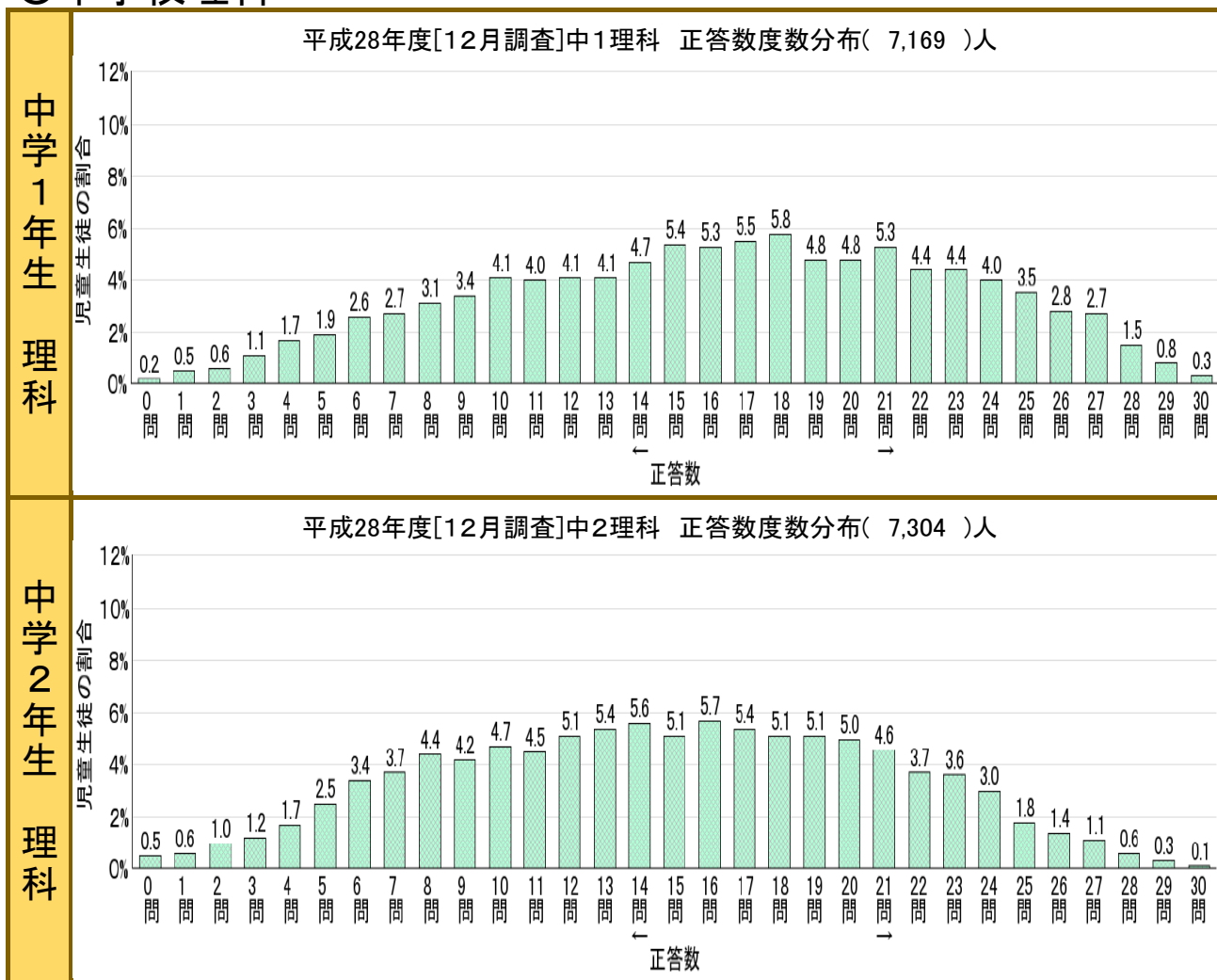
○中学校数学



○小学校理科



○中学校理科



○中学校英語

